

2022 年度
FD・SD 報告書

川崎医療福祉大学 FD・SD 委員会

2022年度 F D ・ S D 報告書

目 次

1. F D ・ S D 活動報告書	1
2. F D ・ S D 委員会活動	4
3. 春学期 学部学生による授業評価報告書	10
4. 秋学期 学部学生による授業評価報告書	15
5. 大学院生アンケート報告書	20
6. 学部卒業生（4年次生）アンケート報告書	25
7. 既卒生アンケート報告書	30
8. 就職先アンケート報告書	51
9. 学習成果及び学習行動、環境に関する調査報告書	61

F D ・ S D 活動報告書

川崎医療福祉大学

F D ・ S D 委員会

本学では、F D ・ S D 活動を「本学の教育および管理運営に対する教職員の能力向上を組織的に進める」取り組みと位置づけ、講演会・研修会および学生による授業評価を中心に調査・研究すること、またF D ・ S D に関する情報を収集し、提供することとしている。

2022 年度 F D ・ S D 活動の概要

2020 年度、F D ・ S D 委員会で実施するアンケートに関して、その対応方針や実施時期等のいくつかの見直しを行った。今年度もその方針に基づいて各種アンケートを実施した。学部生、卒業年次生、大学院生、既卒生、就職先を対象とした各アンケートの質問項目については、2021 年度にF D ・ S D 委員会学生アンケートワーキンググループで検討された。また、本年度から学生の学習前後の学習成果を把握し、本学の 3 つのポリシーを検証する材料とすることを目的として、「学習成果および学習行動、環境に関する調査」を実施した。

教育研究に関する研修会、教職員の資質向上に関する研修会、授業研究カンファレンスについては、新型コロナウイルスの感染状況をみながら、適切な対策をとっての対面形式とオンライン形式のハイブリッド方式で実施し、例年通りの回数を実施した。

F D ・ S D 研修会（教育研究に関する研修会）

2022 年度は、年 2 回のF D ・ S D 研修会（教育研究に関する研修会）を実施した。

第 1 回は 2022 年 5 月 23 日（月）に「本学の情報環境について－Teams と WebClass の利用にあたって－」を取り上げた。研修会は Web 受講の形で開催され、本学の情報環境について基本的な操作マニュアルとサポート体制について説明された。

第 2 回は 2022 年 8 月 30 日（火）に「保健看護学科の電子データ配布に対するアンケート結果」、「話の聴き方について、ノートの取り方について」を取り上げた。全学的に講義資料の電子化（ペーパーレス化）を進めるにあたり、保健看護学科が実施した講義資料の電子化に関するアンケート結果、また、電子教材が用いられる授業におけるメモの取り方について説明された。

参加できなかった教員には、Web 視聴により情報の共有を図った結果、第 1 回の参加率は 64.8%、第 2 回は 77.4%であった。

大学院F D ・ S D 研修会（教育研究に関する研修会）

2022 年度から、大学院固有のF D 事業として、第一線で活躍できる研究者養成を目指し、教

職員間での教育ノウハウの共有を行いつつ、大学院生の確保および教育能力のレベルアップを目的として、大学院指導教員・指導教員補佐を対象に、年に1回程度を目安に開始された。2022年度は、2022年8月4日（木）に「大学院指導における意識改革」を取り上げた。大学院生を指導するにあたり、教員が意識しなければいけないことが説明された。参加率は76.7%であった。

FD・SD委員会共催による活動

FD・SD委員会共催による活動として、「教職員の資質向上に関する研修会」（年4回）、「事務職員の資質向上に関する研修会」（年2回）、「科研費獲得に関する研修会」（年6回）、「コンプライアンス等研修会」（年3回）、「研究者等の倫理的配慮に関する研修会」（年1回）、「ハラスメント防止に向けての研修会」（年1回）が行われ、多くの教職員が参加した。

授業研究カンファレンス（FD・SD研修会）（プログラム、参加状況）

本学では、授業方法や評価法の検討を通じて教育の質を高めることを目的とし、FD・SD研修会や授業評価アンケートなどを通じて授業改善の取り組みを行っている。また、教育方法について学内で共有するため、授業研究カンファレンスを開催している。本年度第1回目の授業研究カンファレンスでは、総合教育センター 講師 門利 知美より「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のために遠隔授業を活用した体育実技系必修科目の模索－受講学生を対象にしたアンケート調査結果－」、保健看護学科 講師 細川 京子・講師 小薮 智子より「128名に対するノートPCでの履修登録の試みから見えた課題」が発表された。教職員のうち329名が参加した。第2回目の授業研究カンファレンスでは、医療短期大学 看護学科 講師 重田 崇之より「学生持ち込みノートPCを使用した情報リテラシー教育」、総合教育センター 助教 福井 夕希子より「医療福祉概論における複数教室同時展開授業についての報告」、保健看護学科 講師 大坂 卓・保健看護学科 講師 細川 京子より「教育用電子カルテ『Medi-Eye』を活用した効果」が発表された。教職員のうち311名が参加した。

学部学生・卒業年次生・大学院生対象のアンケート

学部生アンケートについては、WebClassを通じて、履修者が5名以上の全科目においてアンケートを実施した。最も中心的な項目である満足度については、平均値が春学期は4.41、秋学期は4.39を示し、昨年とほぼ同じ結果となり、高水準を保っていることが確認された。

大学院生については、今年度からWebClassを通じて実施した。昨年度と同様、修士課程ならびに博士後期課程の教育・研究体制に対する大学院生の満足度は総じて高い値を示したが、社会（臨床現場）との連携に対する満足度や、他専攻の教員や大学院生との対話や交流に対する満足度は低値を示した。

学部卒業生（4年次生）については、2006年度より、入学以来の本学における修学成果に対し、教育目標の達成度を中心にアンケートを実施してきたが、今年度よりディプロマ・ポリシーの達成度を問う質問項目に変更した。また今年度から WebClass を通じて実施した。

既卒生・就職先対象のアンケート

既卒生及びその就職先に対しては、2019年度までは3年に1度、2020年度からは毎年、教育目標の達成度に関する調査を実施してきたが、今年度よりディプロマ・ポリシーの達成度を問う質問項目に変更した。

既卒生（2021年度卒業生）の本学教育の満足度は前年度と比較してほぼ同じであった。就職先の満足度についても概ね高い評価であった。継続的にデータの蓄積を行うとともに、回収率改善のための取り組みについて引き続き検討する。

学習成果及び学習行動、環境に関する調査

本学の学生の学習前後の学習成果を把握し、本学の3つのポリシーを検証する材料とすることを目的として、本年度より「学習成果および学習行動、環境に関する調査」を実施した。従来、学生の学習状況の実態は、「学生生活実態調査」（隔年実施、直近の報告は2021年度）が役割を担っていたが、より3つのポリシー及び教学分野に特化した検証を行うために質問項目を精緻化した。また、年次毎の推移を検証していくため、毎年実施するとともに記名式とした。

2022年度 活動実績

FD・SD研修会（教育研究に関する研修会）の開催

【第1回】

2022年5月23日（月）（Web受講）

「本学の情報環境について-TeamsとWebclassの利用にあたって-」

総合教育センター准教授：小池 大介先生

（参加者数：342名）

【第2回】

2022年8月30日（火）（後日Web配信）

「保健看護学科の電子データ配布に対するアンケート結果」

保健看護学科講師：細川 京子先生

保健看護学科准教授：石井 陽子先生

「話の聴き方について、ノートの取り方について」

総合教育センター講師：西脇 藍先生

（参加者数：407名）

FD・SD研修会（教職員の資質向上に関する研修会）の開催

【第1回】

2022年6月28日（火）（後日Web配信）

「学生のためのキャリア支援」

株式会社 マイナビメディカル事業本部 HRソリューション統括本部 企画広報統括部

統括部長：末吉 夢大様

就職課：田中 尚課長

就職課：小原 裕美さん

（参加者数：440名）

【第2回】

2022年7月14日（木）（後日Web配信）

「高校生の興味関心を引く情報発信（SNS）の工夫について」

言語聴覚療法学科准教授：池野 雅裕先生

健康体育学科助教：山形 高司先生

（参加者数：417名）

【第3回】

2022年9月14日（水）（後日Web配信）

『障がい学生への合理的配慮の提供と支援について』

「教育現場における合理的配慮」

公益社団法人 岡山県社会福祉士会 会長

：今岡 清廣先生

「障がい学生支援研修会からの報告」

ボランティアセンター長・学生部副部長：田並 尚恵先生

(参加者数：373名)

【第4回】

2022年9月27日(火)(後日Web配信)

「奨学金について」

学生課：中元 宣孝さん

教務課：黒住 光正主任

(参加者数：345名)

FD・SD研修会（事務職員の資質向上に関する研修会）の開催

【第1回】

2022年9月8日(木)(後日Web配信)

「2022年度の入試広報について」

進研アド：須山 美希様

進研アド：延原 範昭様

(参加者数：138名)

【第2回】

2022年11月1日(火)(Web受講)

「なぜ相次ぐ？アカデミックハラスメント：教育現場改善のためのヒント」

(参加者数：153名)

FD・SD研修会（コンプライアンス等研修会）の開催

【第1回】

2022年5月9日(月)～6月30日(木)(Web受講)

「安全保障輸出管理に関すること」

研究担当副学長：小野寺 昇先生

(参加者数：402人)

【第2回】

2022年5月16日(月)～6月30日(木)(Web受講)

「大学の取り組み・不正防止計画に関すること」

研究担当副学長：小野寺 昇先生

(参加者数：459人)

【第3回】

2022年10月13日(木)(後日Web配信)

「知的財産に関すること」

追手門学院大学 国際学部国際学科教授

：足立 勝先生

(参加者数：386人)

FD・SD 研修会（科研費獲得に関する研修会）の開催

【第1回】

2022年6月8日（水）（Web受講）

研究担当副学長・健康体育学科教授：小野寺 昇先生

臨床工学科教授：茅野 功先生

（参加者数：228名）

FD・SD 研修会（科研費獲得に関する研修会）の開催

【第2回】

2022年7月11日（月）（Web受講）

研究担当副学長・健康体育学科教授：小野寺 昇先生

作業療法学科教授：黒住 千春先生

（参加者数：210名）

【第3回】

2022年7月29日（金）（Web受講）

研究担当副学長・健康体育学科教授：小野寺 昇先生

医療福祉学科講師：直島 克樹先生

（参加者数：195名）

【第4回】

2022年8月10日（水）（Web受講）

研究担当副学長・健康体育学科教授：小野寺 昇先生

医療福祉デザイン学科講師：岩藤 百香先生

（参加者数：195名）

【第5回】

2022年8月29日（月）（Web受講）

研究担当副学長・健康体育学科教授：小野寺 昇先生

副学長補佐（研究担当）・保健看護学科教授

：守屋 文夫先生

（参加者数：179名）

【第6回】

2022年8月29日（月）（Web受講）

研究担当副学長・健康体育学科教授：小野寺 昇先生

副学長補佐（研究担当）・保健看護学科教授

：守屋 文夫先生

（参加者数：174名）

FD・SD 研修会（研究者等の倫理的配慮に関する研修会）の開催

2022年5月2日（月）（Web受講）

研究担当副学長・倫理委員会委員長：小野寺 昇先生

(参加者数：392名)

FD・SD研修会（ハラスメント防止に向けての研修会）の開催

2022年9月12日（月）～10月31日（月）（Web受講）

「令和3年度 ハラスメント防止啓発活動に関する学生の理解度に関するアンケート調査結果報告」

医療福祉学科准教授：李 永喜先生（ハラスメント防止委員会委員）

『学内相談員によるハラスメント相談の説明と講話』

「本学におけるハラスメント相談の方法と特徴」

健康体育学科教授：難波 知子先生（ハラスメント相談員）

「キャンパスハラスメント～アンケートに基づいた事例紹介（他大学）～」

臨床心理学科教授：谷原 弘之先生（ハラスメント相談員）

(参加者数：349名)

大学院FD・SD研修会（教育研究に関する研修会）の開催

2022年8月4日（木）（後日Web配信）

「大学院指導における意識改革」

大学院・研究担当副学長：小野寺 昇先生

(参加者数：49名)

授業研究カンファレンス（FD・SD研修会）の開催

【第1回】2022年5月20日（金）（後日Web配信）

【第2回】2023年2月22日（水）（後日Web配信）

教員の教育活動に資する情報を提供し、教育研究を推進する。

学部学生による授業評価アンケートの実施

【対象者】学部生

【対象科目】春学期及び秋学期の履修者 5 名以上の全科目

【実施時期】春学期：2022 年 7 月中旬～8 月下旬、
秋学期：2023 年 1 月中旬～2 月下旬

【報告時期】春学期：2023 年 2 月、秋学期：2023 年 6 月

- ・学生アンケートワーキングにて集計・分析を実施
- ・報告書を大学ホームページ、ポータルサイトへ掲載

◎授業評価における対応方針について

【授業満足度の高い主担当教員への対応】

- ・授業評価結果（高評価）に関するレポートの提出及び公開授業の依頼
- ・満足度の高い科目から順に選ばれた主担当教員 3 名に対し、Lectures of the year 賞を授与

【授業満足度の低い主担当教員への対応】

- ・本人記載の上、学科長もしくは総合教育センター長の対応が記載された授業評価結果（要改善）に関するレポートの提出依頼

授業に関する意見・要望フォームの実施

【対象者】学部生・大学院生全員

【実施方法】WebClass 上に入力フォームを設ける

【回収時期】月に 1 度月末に回収する

【対応】

- ・FD・SD 委員会で、報告事項として諮る。
- ・記名がある場合、科目担当教員へ報告・フィードバックを作成してもらい、学生へ回答を返す。
- ・記名がない場合も、委員長に報告の上、場合によっては科目担当教員や上長等へ報告する。

学習成果及び学習行動、環境に関する調査

【対象者】学部生全員

【実施時期】2022 年 8 月

【報告時期】2022 年 9 月

- ・報告書を大学ホームページ、ポータルサイトへ掲載

大学院生による授業評価アンケートの実施

【対象者】在学する大学院生全員

【実施時期】2023年1月中旬～2月中旬

【報告時期】2023年6月

- ・年度末にカリキュラム全体に対して実施
- ・学生アンケートワーキングにて集計・分析を実施
- ・報告書を大学ホームページ、ポータルサイトへ掲載

卒業生（4年次生）アンケートの実施

【対象者】卒業を前にした4年次生

【実施時期】2022年9月～2023年3月

【報告時期】2023年7月

- ・学生アンケートワーキングにて集計・分析を実施
- ・報告書を大学ホームページ、ポータルサイトへ掲載

既卒生・就職先アンケートの実施

【対象者】2021年度 卒業生及びその就職先

【実施時期】2022年12月

【報告時期】2023年5月

- ・学生アンケートワーキングにて集計・分析を実施
- ・報告書を大学ホームページ、ポータルサイトへ掲載

2022 年度春学期 学生による授業評価報告書

川崎医療福祉大学

FD・SD委員会

本学の「学部学生による授業評価」は、2005 年度に開始され、2009 年度からは春学期に講義科目、秋学期に実習・演習科目の授業評価を行い、翌年は学期と科目の組み合わせを逆にし、以降はそれを繰り返し実施してきた。しかしながら、同一学期での同一科目の比較が2年毎となることから、より綿密な分析を図るために、2020 年度からは科目の形態にかかわらず学期ごとに履修者5名以上の全科目を対象として実施している。

1. 実施状況

1-1 実施対象と実施方法

春学期の履修者数はのべ44,225名、対象科目数は838科目（基礎教育科目144科目、専門科目686科目、教職共通科目8科目）であった。アンケートはWebClassを使用して、オンラインにて実施した。質問項目は巻末の資料1の通りである。

1-2 実施期間

2022年7月14日（木）～2022年8月31日（水）

2. 実施結果

2-1 回収率

回答数は31,182名で、回収率は70.51%（昨年度63.77%）と昨年度と比較して大幅に増加している。

2-2 評価結果（Q1）～（Q2）、（Q4）～（Q8）

表1にはQ1からQ2、Q4からQ8の質問項目の評価結果を示した。授業の満足度については、4.41と昨年度4.43より0.02低い結果となった。

表1 Q1～Q2、Q4～Q8の評価結果（5点満点：平均値AVと標準偏差SD）

Q1 授業の満足度		Q2 授業への意欲		Q4 授業の理解度		Q5 授業内容のまとめ		Q6 教員の臨機応変さ		Q7 シラバスに沿った授業		Q8 授業到達目標の達成	
AV	SD	AV	SD	AV	SD	AV	SD	AV	SD	AV	SD	AV	SD
4.41	0.82	4.43	0.79	4.20	0.87	4.35	0.86	4.31	0.90	4.46	0.75	4.33	0.81

2-3 評価結果（Q3, Q9）

1週間の自己学習時間（Q3）と教員の指導や対応等の改善点（Q9）についての評価結果を表2に示した。1週間の自己学習時間では、「30分以下」が一番多く、次いで「1時間程度」となっており、両項目を合わせた人数は80%を超えていた。教員の指導や対応等の改善点では、

例年と同様に「話し方や資料提示の方法」が6.63%と一番大きな結果となった。

表2 Q3とQ9の結果（回収数31,182名に対する割合：単位%）

Q3 1週間の自己学習時間	4時間程度以上	3時間程度	2時間程度	1時間程度	30分以下
	3.40	3.51	11.72	32.58	48.79
Q9 教員の指導や対応等の改善点	質疑応答	話し方や資料提示の方法	課題等のフィードバック	学生の私語・遅刻等の対処	教員の遅刻や休講
	2.20	6.63	2.44	1.36	0.77

2-4 評価結果（授業の満足度）の分布

図1に授業の満足度（Q1）における全科目の度数分布を示した。4.9以上の科目は95科目、3.0以下の科目は4科目あった。この中には回収数ならび回収率の極端に低い科目を含んでいることから、回収率30%、回答数10を超える科目を抽出したところ639科目あり（図2）、その中で4.9以上の科目は10科目、3.0以下の科目は1科目あった。

図1 授業の満足度（Q1）における全科目の度数

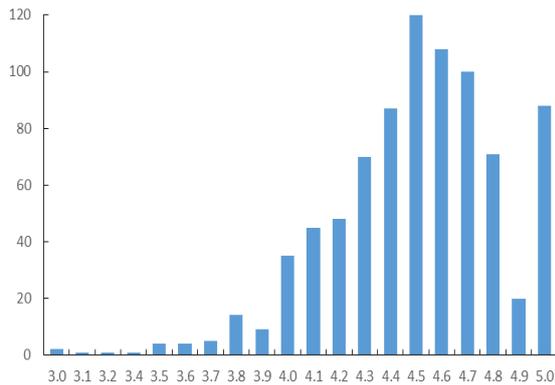
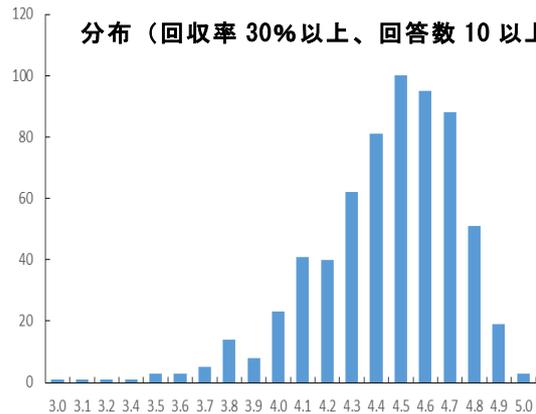


図2 授業の満足度（Q1）における全科目の度数分布（回収率30%以上、回答数10以上）



3. 関連要因別のまとめ

3-1 授業形態別（表4）

本学期に実施された授業についての授業形態の内訳は、講義科447科目、実技25科目、実習111科目、実験5科目、演習250科目であった。表4に（Q1）から（Q7）までの授業形態別の評価結果の平均値を示した。講義科目より実習科目のほうが高い傾向にあった。

表3 授業形式別の評価結果（Q1～Q2、Q4～Q8）

	全科目	講義	実技	実習	実験	演習
Q1. 授業の満足度	4.41	4.38	4.66	4.52	4.51	4.42
Q2. 授業への意欲	4.43	4.38	4.68	4.61	4.61	4.47
Q4. 授業の理解度	4.20	4.14	4.64	4.37	4.32	4.29
Q5. 授業内容のまとめ	4.35	4.32	4.65	4.45	4.43	4.38
Q6. 教員の臨機応変さ	4.31	4.27	4.62	4.44	4.47	4.34
Q7. シラバスに沿った授業	4.46	4.44	4.65	4.54	4.54	4.48
Q8. 授業到達目標の達成	4.33	4.30	4.62	4.41	4.43	4.37

3-2 科目分類別

図3に、授業の満足度(Q1)における科目分類別の平均値グラフを示した。基礎教育科目 4.44、専門科目 4.39、教職共通科目 4.50 とほぼ同じ評価であった。学科別にみると、医療福祉デザイン学科 4.61、言語聴覚療法学科 4.53、健康体育学科 4.51、基礎科目の総合分野 4.58、情報分野 4.57、健康体育分野 4.52 が 4.5 以上の評価であった。4.0 を下回る学科はなかった。

図3 科目分類別の授業満足度

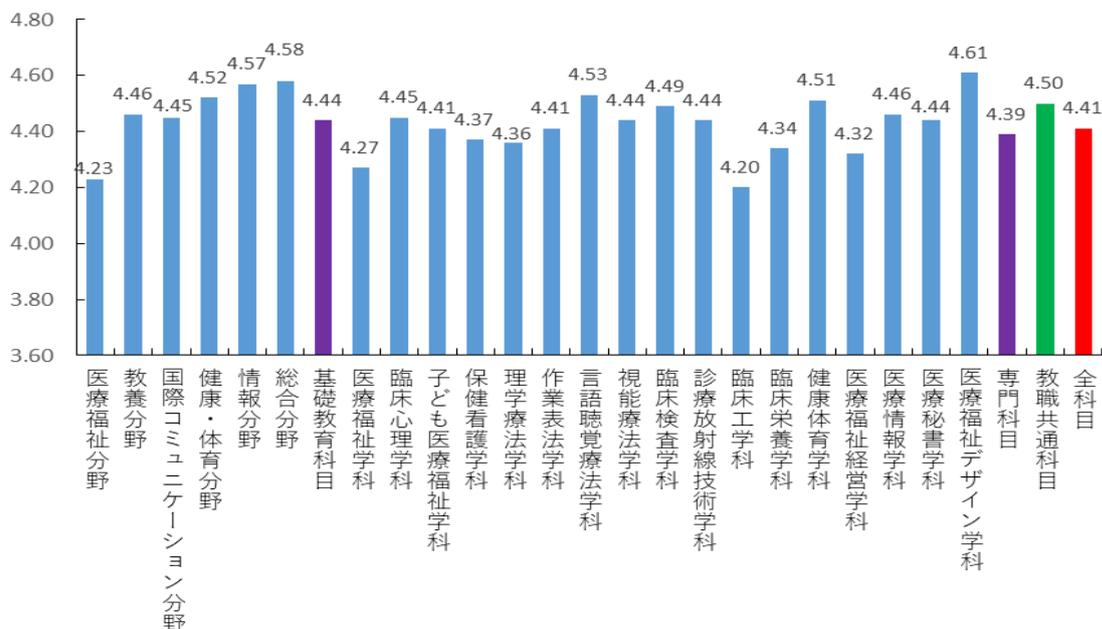
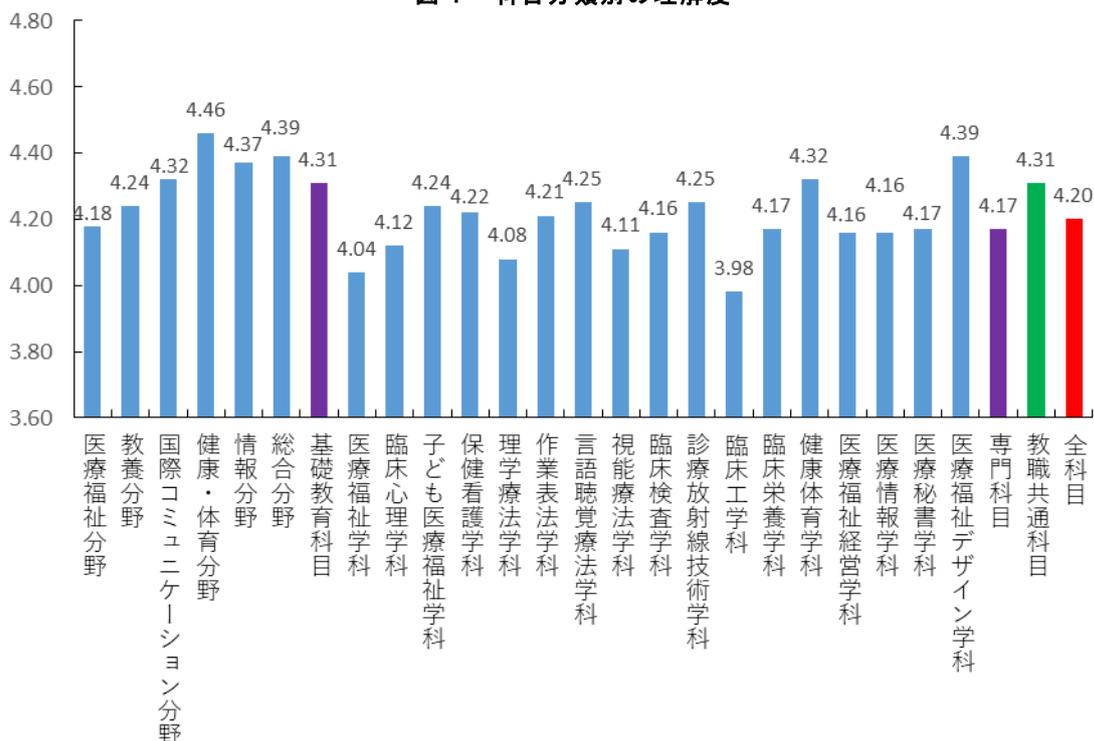


図4に、授業の理解度(Q4)における科目分類別の平均値グラフを示した。全科目平均 4.20、基礎教育科目 4.31、専門科目 4.17、教職共通科目 4.31 で、医療福祉デザイン学科 4.39、健康体育学科 4.32、診療放射線技術学科 4.25、言語聴覚療法学科 4.25 であり、臨床工学科以外の学科では 4.0 を上回った。

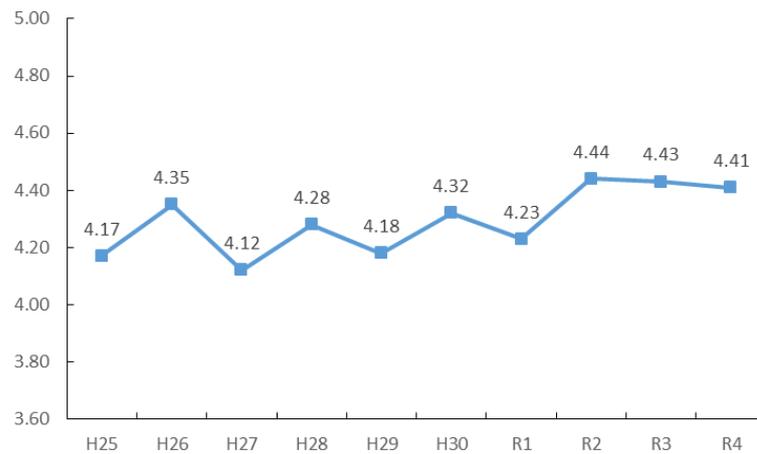
図4 科目分類別の理解度



4. まとめ

授業満足度の平均値は 4.41 を示した。年度により値は異なるが、ここ数年は比較的高い値で推移している（図 5）。今年度の春学期は、これまでのオンライン形式から対面形式の授業に戻ったにも関わらず、高い値を維持している。対面形式であろうがオンライン形式であろうが、様々な工夫を行い同様の授業内容を提供できていると考えられる。しかしながら、授業の理解度は学科により差が大きく、より専門的な知識を提供するための授業方法の改良・改善が求められる。

図 5 授業の満足度の 10 年間の経年変化



2022年度 春学期 学部授業評価アンケートにおける質問項目

資料1

質問

回答

1	この授業は全体として満足できるものでしたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
2	この授業を意欲的に受けましたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
3	この授業の予習・復習などの自己学習時間は、平均すると1週間にどの程度ですか。	4時間程度以上	3時間程度	2時間程度	1時間程度	30分以下
4	授業の内容を十分に理解できましたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
5	授業の内容は整理され、よくまとまっていたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
6	教員は、受講生の理解が進むよう、受講生の様子をよく見ながら臨機応変に授業を進めていましたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
7	この授業は、シラバスに記載されている授業のねらいや到達目標を踏まえ、授業計画・評価方法等の記載内容に沿って行われましたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
8	本科目のシラバスに記載されている到達目標を達成できましたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
9	教員の指導・対応などに改善の必要があったと思う人のみ答えてください。それは、次のどれですか。(複数回答可)	質疑応答	話し方や資料提示の方法	課題等のフィードバック	学生の私語・遅刻等の対処	教員の遅刻や休講

2022 年度秋学期 学生による授業評価報告書

川崎医療福祉大学

FD・SD委員会

本学の「学部学生による授業評価」は、2005 年度に開始され、2009 年度からは春学期に講義科目、秋学期に実習・演習科目の授業評価を行い、翌年は学期と科目の組み合わせを逆にし、以降はそれを繰り返し実施してきた。しかしながら、同一学期での同一科目の比較が 2 年毎となることから、より綿密な分析を図るために、2020 年度からは科目の形態にかかわらず学期ごとに履修者 5 名以上の全科目を対象として実施している。

1. 実施状況

1-1 実施対象と実施方法

秋学期の履修者数はのべ 37,876 名、対象科目数は 792 科目（基礎教育科目 122 科目、専門科目 664 科目、教職共通科目 6 科目）であった。アンケートは WebClass を使用して、オンラインにて実施した。質問項目は巻末の資料 1 の通りである。

1-2 実施期間

2023 年 1 月 12 日（木）～2023 年 2 月 28 日（火）

2. 実施結果

2-1 回収率

回答数は 24,167 名で、回収率は 63.81%（今年度春学期 70.51%、昨年度秋学期 61.21%）と春学期と比較して若干減少しているが、昨年度秋学期との比較においては増加している。

2-2 評価結果（Q1）～（Q2）、（Q4）～（Q8）

表 1 には Q1 から Q2、Q4 から Q8 の質問項目の評価結果を示した。授業の満足度については、4.39 と昨年度 4.44 より 0.05 低い結果となった。

表 1 Q1～Q2、Q4～Q8 の評価結果（5 点満点：平均値 AV と標準偏差 SD）

Q1 授業の満足度		Q2 授業への意欲		Q4 授業の理解度		Q5 授業内容のまとまり		Q6 教員の臨機応変さ		Q7 シラバスに沿った授業		Q8 授業到達目標の達成	
AV	SD	AV	SD	AV	SD	AV	SD	AV	SD	AV	SD	AV	SD
4.39	0.83	4.41	0.79	4.20	0.88	4.34	0.87	4.31	0.91	4.44	0.77	4.31	0.83

2-3 評価結果（Q3, Q9）

1 週間の自己学習時間（Q3）と教員の指導や対応等の改善点（Q9）についての評価結果を表 2 に示した。1 週間の自己学習時間では、「30 分以下」が一番多く、次いで「1 時間程度」となっており、両項目を合わせた人数は 80%を超えていた。教員の指導や対応等の改善点では、

例年と同様に「話し方や資料提示の方法」が6.15%と一番大きな結果となった。

表2 Q3とQ9の結果（回収数24,167名に対する割合：単位%）

Q3 1週間の自己学習時間	4時間程度以上	3時間程度	2時間程度	1時間程度	30分以下
	4.36	3.50	10.33	31.94	49.88
Q9 教員の指導や対応等の改善点	質疑応答	話し方や資料提示の方法	課題等のフィードバック	学生の私語・遅刻等の対処	教員の遅刻や休講
	2.46	6.15	2.26	1.10	0.92

2-4 評価結果（授業の満足度）の分布

図1に授業の満足度（Q1）における全科目の度数分布を示した。4.9以上の科目は131科目、3.0以下の科目は6科目あった。この中には回収数ならび回収率の極端に低い科目を含んでいることから、回収率30%、回答数10を超える科目を抽出したところ529科目あり（図2）、その中で4.9以上の科目は18科目、3.0以下の科目は4科目あった。

図1 授業の満足度（Q1）における全科目の度数

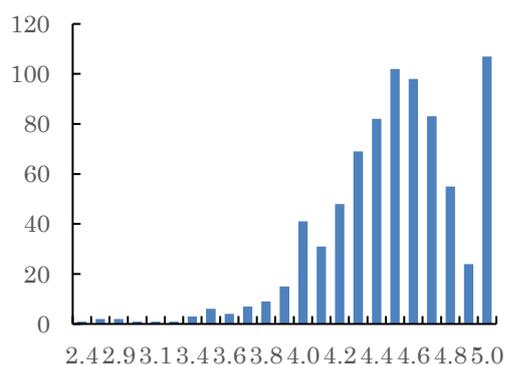
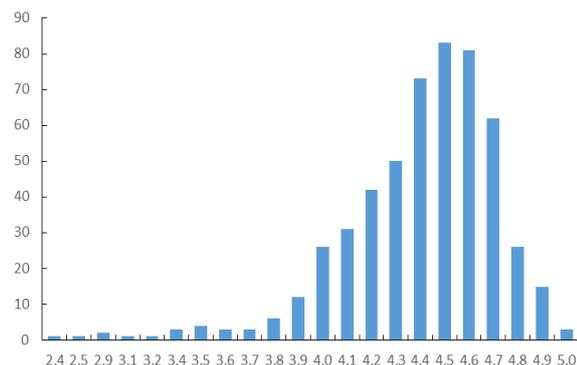


図2 授業の満足度（Q1）における全科目の度数分布（回収率30%以上、回答数10以上）



3. 関連要因別のまとめ

3-1 授業形態別

本学期に実施された授業についての授業形態の内訳は、講義406科目、実技21科目、実習91科目、実験5科目、演習269科目であった。表3に（Q1）から（Q2）、（Q4）から（Q8）の授業形態別の評価結果の平均値を示した。講義科目より実習科目のほうが高い傾向にあった。特に、講義科目の理解度は4.11となり、授業形態別の結果の中で最も低値を示した。

表3 授業形式別の評価結果（Q1～Q2、Q4～Q8）

	全科目	講義	実技	実習	実験	演習
Q1. 授業の満足度	4.39	4.33	4.61	4.48	4.34	4.49
Q2. 授業への意欲	4.41	4.34	4.63	4.54	4.48	4.53
Q4. 授業の理解度	4.20	4.11	4.60	4.18	4.15	4.33
Q5. 授業内容のまとめ	4.34	4.28	4.63	4.45	4.27	4.44
Q6. 教員の臨機応変さ	4.31	4.24	4.63	4.41	4.30	4.43
Q7. シラバスに沿った授業	4.44	4.40	4.63	4.44	4.38	4.50
Q8. 授業到達目標の達成	4.31	4.25	4.60	4.28	4.29	4.39

3-2 科目分類別

図3に、授業の満足度(Q1)における科目分類別の平均値グラフを示した。基礎教育科目 4.36、専門科目 4.40、教職共通科目 4.49 とほぼ同程度の評価であった。学科別にみると、保健看護学科 4.52、作業療法学科 4.54、言語聴覚療法学科 4.50、視能療法学科 4.58、健康体育学科 4.52、医療秘書学科 4.53、医療福祉デザイン学科 4.66、また基礎教育科目では健康・体育分野 4.59、総合分野 4.51 が 4.5 以上の評価であった。3.0 を下回る学科は認められなかった。

図 3 科目分類別の授業満足

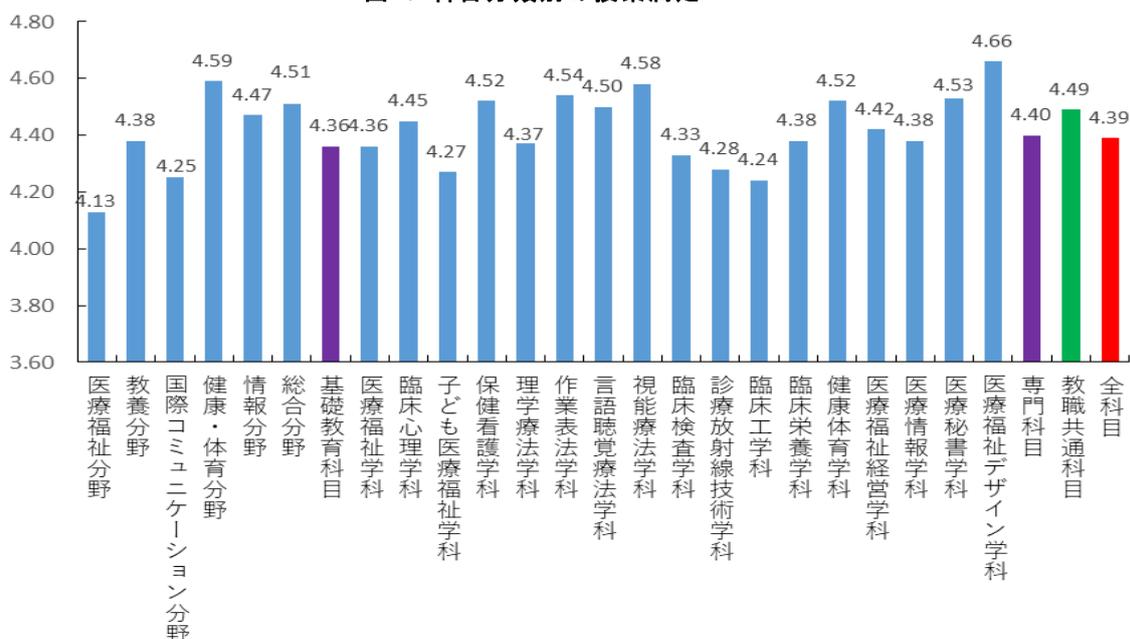
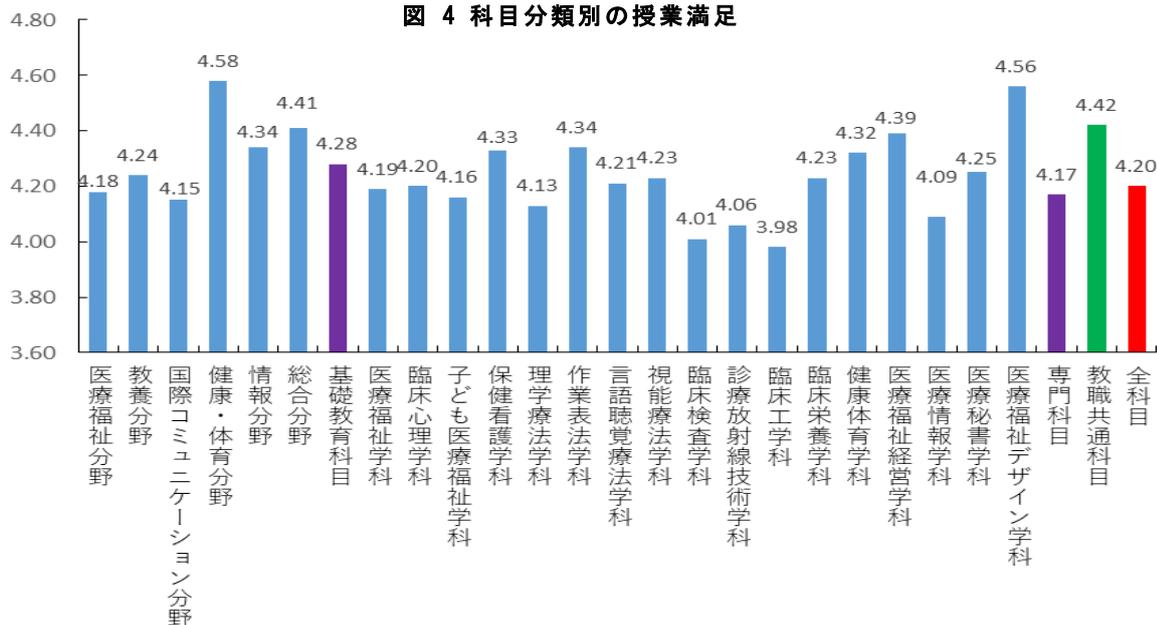


図4に、授業の理解度(Q4)における科目分類別の平均値グラフを示した。全科目平均 4.20、基礎教育科目 4.28、専門科目 4.17、教職共通科目 4.42 で、医療福祉デザイン学科 4.56、また基礎教育科目の健康・体育分野 4.58 が 4.5 以上の評価であった。3.0 を下回る学科は認められなかった。

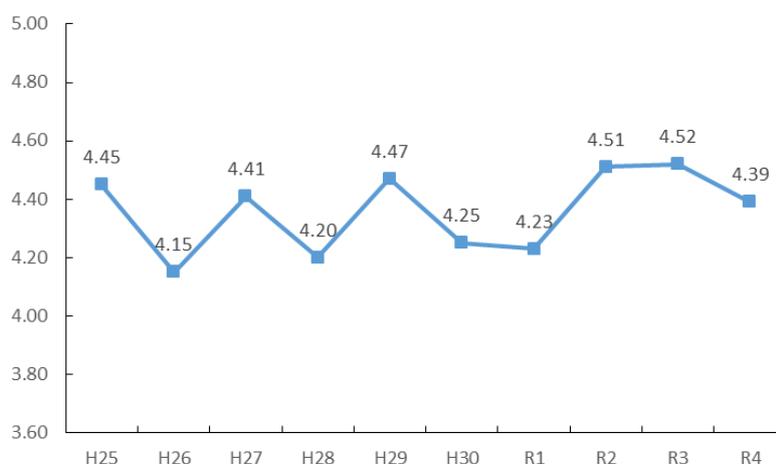
図 4 科目分類別の授業満足



4. まとめ

授業の満足度の平均値は 4.39 を示し、過去 10 年間の平均的な値を示した（図 5）。また、授業の理解度については 4.20 と、ほとんどの基礎教育科目や専門科目で 4.0（授業の内容を十分に理解できたとやや思う）を上回った。また、教員に対する改善項目については、「質疑応答」「課題等のフィードバック」「学生の私語・遅刻等の対処」「教員の遅刻や休講」が約 1%～2%程度の回答であるのに対し、これまでの結果と同様に、「話し方や資料提示の方法」に改善を求める回答は全回答数の 6%を超えており、授業時の教員の話し方や資料提示の方法については、改善が急務と考える。

図 5 授業の満足度の 10 年間の経年変化



2022年度 秋学期 学部授業評価アンケートにおける質問項目

資料1

質問

回答

1	この授業は全体として満足できるものでしたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
2	この授業を意欲的に受けましたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
3	この授業の予習・復習などの自己学習時間は、平均すると1週間にどの程度ですか。	4時間程度以上	3時間程度	2時間程度	1時間程度	30分以下
4	授業の内容を十分に理解できましたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
5	授業の内容は整理され、よくまとまっていたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
6	教員は、受講生の理解が進むよう、受講生の様子をよく見ながら臨機応変に授業を進めていましたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
7	この授業は、シラバスに記載されている授業のねらいや到達目標を踏まえ、授業計画・評価方法等の記載内容に沿って行われましたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
8	本科目のシラバスに記載されている到達目標を達成できましたか。	そう思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
9	教員の指導・対応などに改善の必要があったと思う人のみ答えてください。それは、次のどれですか。(複数回答可)	質疑応答	話し方や資料提示の方法	課題等のフィードバック	学生の私語・遅刻等の対処	教員の遅刻や休講

2022 年度 大学院生アンケート報告書

川崎医療福祉大学

FD・SD委員会

本学の「大学院生アンケート」は専攻での教育・研究について大学院生がどのように評価しているかを把握するために行っている。この調査は、2008 年度より始まり、毎年実施している。

1. 実施状況

1-1 実施対象と実施方法

対象は大学院生全員で、2022 年度の対象者数は 123 名であった。アンケートはポータルサイト上の WebClass で実施した。質問項目は巻末の資料 1 の通りである。

1-2 実施期間

2023 年 1 月 5 日（木）～2023 年 2 月 16 日（木）

2. 実施結果

2-1 回収率（表 1・表 2）

修士課程 在籍者 98 名に対して 64 名から回答を得た（回収率：65.31%）

博士後期課程 在籍者 25 名に対して 11 名から回答を得た（回収率：44.0%）

表 1 回収率の内訳（修士課程）

専攻	学生数	回答数	回収率
医療福祉学	8	6	75.0%
臨床心理学	23	13	56.52%
保健看護学	22	16	72.73%
感覚矯正学	4	3	75.0%
健康体育学	4	2	50.0%
臨床栄養学	8	7	87.5%
リハビリテーション学	5	1	20.0%
臨床工学	1	0	0.0%
医療技術学	10	9	90.0%
医療福祉経営学	3	1	33.3%
医療秘書学	2	1	50.0%
医療福祉デザイン学	3	1	33.3%
医療情報学	5	4	80.0%
合計	98	64	65.31%

表 2 回収率の内訳（博士後期課程）

専攻	学生数	回答数	回収率
医療福祉学	5	2	40.0%
臨床心理学	4	0	0.0%
保健看護学	4	3	75.0%
感覚矯正学	5	2	40.0%
リハビリテーション学	1	0	0.0%
健康科学	4	3	75.0%
医療技術学	1	1	100.0%
医療情報学	1	0	0.0%
合計	25	11	44.0%

2-2 修士課程全体・博士後期課程全体の結果

両課程において、専攻の教育に対する全体的な満足度（Q1）、カリキュラムの体系度に対する評価（Q2）、シラバス記載の到達目標の達成度（Q3）、高度専門職者として必要な知識・技術の習得度（Q4）、指導教員（副指導教員を含む）の研究指導に対する満足度（Q6）、研究成果の公開機会（中間研究報告会、学会発表、論文投稿など）の多さ（Q7）、また、修士課程において、研究課題に対する主体的な取り組み（Q5）、実験・研究・実習の設備・施設及び図書に対する満足度（Q8）の各質問項目が4.0以上と概ね肯定的に評価されていた。一方、両課程において、社会（病院や施設などの現場）との連携に対する満足度（Q9）と他専攻の教員・大学院生との対話・交流に対する満足度（Q10）の平均値、また、博士後期課程において、実験・研究・実習の設備・施設及び図書に対する満足度（Q8）の平均値は3.0台だった。また、修士課程において、社会（病院や施設などの現場）との連携に対する満足度（Q9）の平均値、博士課程において、研究課題に対する主体的な取り組み（Q5）の平均値は4.0台にわずかに及ばなかった。

2-3 各質問項目の記述統計値－各専攻別の結果（表3・表4）

Q1 専攻の教育全体に対する満足度（修士平均4.44、博士平均4.30）

修士課程では、4.5以上が6専攻で、4.0以上4.5未満が5専攻、3.0台が1専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が3専攻、4.0以上4.5未満が1専攻、3.0台が1専攻であった。

Q2 カリキュラムの体系度に対する評価（修士平均4.29、博士平均4.03）

修士課程においては、4.5以上が5専攻、4.0以上4.5未満が5専攻、3.0台が2専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が2専攻、3.0台が3専攻であった。

Q3 シラバス記載の到達目標の達成度（修士平均4.10、博士平均4.17）

修士課程においては、4.5以上が4専攻、4.0以上4.5未満が5専攻、3.0台が3専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が3専攻で、3.0台が2専攻であった。

Q4 高度専門職者として必要な知識・技術の習得度（修士平均4.32、博士平均4.07）

修士課程においては、4.5以上が5専攻、4.0以上4.5未満が5専攻、3.0台が2専攻であった。博士課程においては、4.5以上が2専攻、4.0以上4.5未満が1専攻、3.0台が2専攻であった。

Q5 研究課題に対する主体的な取り組み（修士平均4.34、博士平均3.97）

修士課程では、4.5以上が5専攻、4.0以上4.5未満が4専攻、3.0台が3専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が2専攻、3.0台が3専攻であった。

Q6 指導教員（副指導教員を含む）の研究指導に対する満足度（修士平均4.42、博士平均4.70）

修士課程においては、4.5以上が6専攻、4.0以上4.5未満が5専攻、3.0台が1専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が4専攻で、4.0台が1専攻であった。

Q7 研究成果を公開する機会（中間研究報告会、学会発表、論文投稿など）の多さに対する評価（修士平均 4.67、博士平均 4.37）修士課程においては、4.5 以上が 10 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 1 専攻、3.0 台が 1 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 3 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 1 専攻、3.0 台が 1 専攻であった。

Q8 実験・研究・実習の設備・施設及び図書に対する満足度（修士平均 4.09、博士平均 3.57）修士課程においては、4.5 以上が 4 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 5 専攻、3.0 台が 2 専攻、2.0 台が 1 専攻であった。博士後期課程においては、4.0 以上が 2 専攻で、3.0 台が 3 専攻であった。

Q9 社会（病院や施設などの現場）との連携に対する満足度（修士平均 3.98、博士平均 3.67）修士課程においては、4.5 以上が 4 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 4 専攻、3.0 台が 3 専攻、2.0 台が 1 専攻であった。博士後期課程においては、4.0 以上 4.5 未満が 3 専攻、3.0 台が 2 専攻であった。

Q10 他専攻の教員・大学院生との対話・交流に対する満足度（修士平均 3.44、博士平均 3.80）修士課程においては、4.5 以上が 3 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 2 専攻、3.0 台が 4 専攻、2.0 台が 1 専攻、1.0 台が 2 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 1 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 1 専攻、3.0 台が 3 専攻であった。

表 3 修士課程結果

修士課程	Q1:専攻の教育		Q2:カリキュラム		Q3:到達目標の達成		Q4:知識・技術の習得		Q5:主体的な取り組み		Q6:研究指導		Q7:成果の公開		Q8:設備・施設・図書		Q9:社会との連携		Q10:対話・交流	
	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV
医療福祉学	6	5.00	6	4.83	6	4.50	6	4.67	6	4.83	6	5.00	6	5.00	6	4.33	6	4.33	6	4.17
臨床心理学	13	4.31	13	4.15	13	4.15	13	4.31	13	3.77	13	4.08	13	4.77	13	4.15	13	4.31	13	4.08
保健看護学	16	4.00	16	4.00	16	3.81	16	3.88	16	4.19	16	4.44	16	4.25	16	4.00	16	3.81	16	3.81
感覚矯正学	3	5.00	3	5.00	3	4.33	3	5.00	3	4.67	3	5.00	3	5.00	3	4.67	3	4.67	3	4.67
健康体育学	2	4.50	2	4.00	2	4.50	2	4.00	2	3.50	2	4.50	2	4.50	2	4.50	2	4.50	2	2.50
臨床栄養学	7	4.14	7	4.00	7	4.14	7	4.57	7	4.43	7	4.29	7	4.57	7	4.43	7	4.00	7	3.43
リハビリテーション学	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	1.00
臨床工学	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
医療技術学	9	3.78	9	3.44	9	4.00	9	4.11	9	3.89	9	4.22	9	5.00	9	4.22	9	3.44	9	3.67
医療福祉経営学	1	4.00	1	4.00	1	3.00	1	4.00	1	4.00	1	4.00	1	5.00	1	2.00	1	4.00	1	1.00
医療秘書学	1	4.00	1	3.00	1	3.00	1	3.00	1	4.00	1	3.00	1	3.00	1	2.00	1	2.00	1	3.00
医療福祉デザイン学	1	5.00	1	5.00	1	4.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	3.00	1	3.00	1	5.00
医療情報学	4	4.50	4	5.00	4	4.75	4	4.25	4	4.75	4	4.50	4	5.00	4	3.75	4	4.75	4	5.00
合計	64	4.44	64	4.29	64	4.10	64	4.32	64	4.34	64	4.42	64	4.67	64	4.09	64	3.98	64	3.44

表 4 博士後期課程結果

博士課程	Q1:専攻の教育		Q2:カリキュラム		Q3:到達目標の達成		Q4:知識・技術の習得		Q5:主体的な取り組み		Q6:研究指導		Q7:成果の公開		Q8:設備・施設・図書		Q9:社会との連携		Q10:対話・交流	
	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV
医療福祉学	2	4.50	2	3.50	2	4.50	2	4.00	2	3.50	2	4.50	2	4.50	2	3.50	2	4.00	2	4.00
臨床心理学	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
保健看護学	3	4.00	3	3.67	3	3.33	3	3.33	3	3.33	3	4.00	3	3.33	3	3.33	3	3.33	3	3.33
感覚矯正学	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	4.00	2	4.00	2	5.00
リハビリテーション学	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
健康科学	3	5.00	3	5.00	3	5.00	3	5.00	3	5.00	3	5.00	3	5.00	3	4.00	3	4.00	3	3.67
医療技術学	1	3.00	1	3.00	1	3.00	1	3.00	1	3.00	1	5.00	1	4.00	1	3.00	1	3.00	1	3.00
医療情報学	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
合計	11	4.30	11	4.03	11	4.17	11	4.07	11	3.97	11	4.70	11	4.37	11	3.57	11	3.67	11	3.80

3. 自由記述

自由記述をまとめたものについては、別途保管する。

4. まとめ

専攻教育全体の満足度の平均値は、修士課程で 4.44、博士課程で 4.30 であった。質問項目が専攻の教育やカリキュラム体系、専攻教員の指導方法や教員間の連携、研究指導等、大学院教育の中核を占める内容で構成されていることからすれば、修士課程並びに博士後期課程の教育・研究体制に対する大学院学生の満足度は総じて高いと言える。

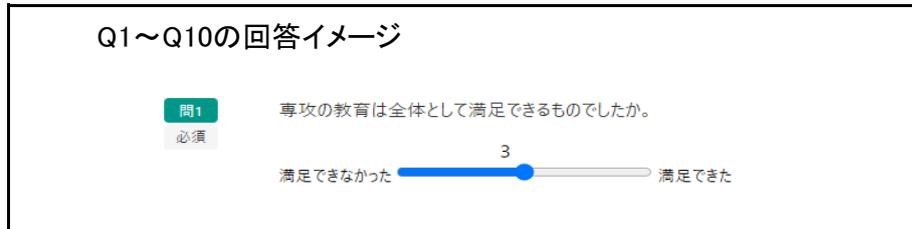
各専攻の分析結果は、概ね各課程全体の平均値の傾向に一致していたが、一部の質問項目については専攻間による違いも認められた。本学大学院の各専攻の教育内容の多様性がその背景にあるものとみられる。また、質問項目別では、「社会との連携」の満足度、および、「他専攻との対話・交流」の満足度について、これまでと同様に 4.0 を下回る値を示した。2025 年度のカリキュラム改正において専攻共通の英語科目が新設されることから、「他専攻との対話・交流」の満足度向上の契機となることが期待できる。社会との連携については、引き続きの課題として取り組む必要がある。

2022年度 大学院生によるアンケート

資料1

川崎医療福祉大学 FD・SD委員会

【専攻での教育・研究について、適当と思われるものを選択してください。】



- Q1 専攻の教育は全体として満足できるものでしたか。
＜選択肢＞満足できなかった→満足できた 5段階評価
- Q2 専攻の教育課程(カリキュラム)は体系的でしたか。
＜選択肢＞体系的ではなかった→体系的だった 5段階評価
- Q3 個々の授業のシラバスに記載されている到達目標を達成できましたか。
＜選択肢＞達成できなかった→達成できた 5段階評価
- Q4 個々の授業を履修することで、高度専門職者として必要な知識・技術を習得できましたか。
＜選択肢＞習得できなかった→習得できた 5段階評価
- Q5 研究課題に対して探求心をもって主体的に取り組むことができましたか。
＜選択肢＞取り組むことができなかった→取り組むことができました 5段階評価
- Q6 指導教員(副指導教員を含む)の研究指導は満足できるものでしたか。
＜選択肢＞満足できなかった→満足できた 5段階評価
- Q7 研究成果を公開する機会(中間研究報告会、学会発表、論文投稿など)は十分にありましたか。
＜選択肢＞十分になかった→十分にあった 5段階評価
- Q8 実験・研究・実習の設備・施設及び図書は満足できるものでしたか。
＜選択肢＞満足できなかった→満足できた 5段階評価
- Q9 社会(病院や施設などの現場)との連携は満足できるものでしたか。
＜選択肢＞満足できなかった→満足できた 5段階評価
- Q10 他専攻の教員や大学院生との対話や交流は満足できるものでしたか。
＜選択肢＞満足できなかった→満足できた 5段階評価
- Q11 大学院の教育について、何かご意見があればご自由にお書きください。(任意)

回答期限:2023年2月16日(木)

2022年度 学部卒業生（4年次生）アンケート報告書

川崎医療福祉大学

FD・SD委員会

本学の「学部卒業生（4年次生）アンケート」は、入学依頼の本学の教育課程に対する満足度およびディプロマ・ポリシーの達成度を把握するために行っている。この調査は、2006年度より始まり、毎年実施している。

1. 実施状況

1-1 実施対象と実施方法

対象は卒業を前にした4年次生で、2022年度の対象者数は1049名であった。アンケートはWebClassを使用して、オンラインにて実施した。質問項目は巻末の資料1の通りである。

1-2 実施期間

2022年9月12日（月）～2023年3月20日（月）

2. 実施結果

2-1 回収率

全学で96.09%と、昨年86.32%を大きく上回った。最も回収率の高い学科は100%、最も低い学科は78.05%であった。来年度は、今年度以上の回収率が期待される。

2-2 卒業後の進路（Q1）

全学的には医療機関59.62%（昨年度67.1%）、福祉施設9.82%（昨年度12.1%）、医療・福祉系企業4.66%（今回から新設された選択肢）、一般企業10.71%（昨年度7.7%）、官公庁（公務員）6.65%、進学5.06%、その他3.47%であった。昨年に比べて福祉施設、一般企業、官公庁が増加し、医療機関の就職者が減少した。

2-3 教育の満足度（Q2）

全学の満足度平均値は3.91（昨年度4.16）であった。なお、今回は学科別の教育の満足度の集計は行っていない。

2-4 ディプロマ・ポリシーの達成度（Q3～Q6）

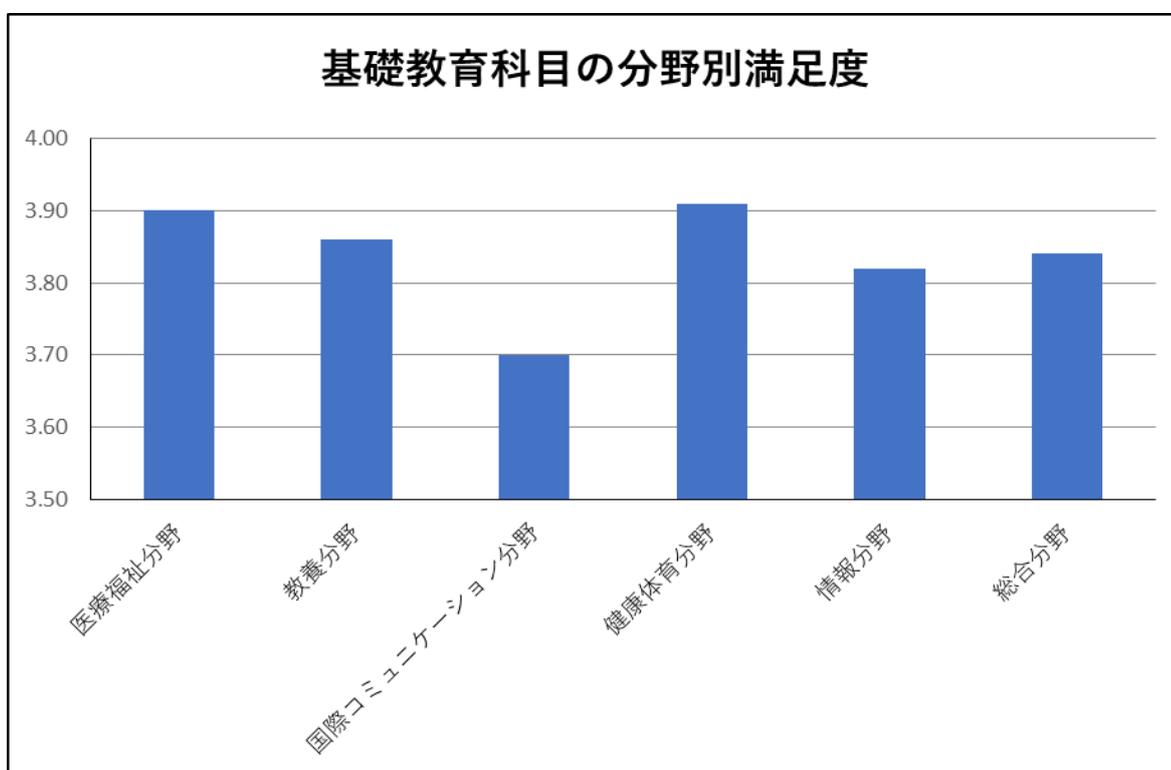
4つのディプロマ・ポリシーについて、達成度を5段階で評価してもらった。なお、本質問項目は昨年度までの教育目標の達成度に代わる質問項目である。それぞれ平均値を示すと、「幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。」3.81、「豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。」3.89、「医療福祉という総合的な視

点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。」3.84、「4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。」3.73であった。

2-5 基礎教育科目の分野別満足度 (Q10~Q15)

基礎教育科目への満足度評定平均値は3.84(昨年度3.91)で、そのうち、健康・体育分野が3.91(昨年度3.89)と高く、国際コミュニケーション分野の満足度が3.70(昨年度3.55)と低かった。その他の各分野は3.82~3.90であった。

図1 科目分類別の授業満足



2-6 専門科目の授業形態別満足度 (Q16~Q19)

専門科目の評定平均値は4.13(昨年度4.33)と高く、授業形態別にみると、講義科目4.05(昨年度4.30)、演習科目4.09(昨年度4.32)、実習科目4.13(昨年度4.32)、卒業研究(ゼミナール)4.24(昨年度4.39)と、全ての授業形態において昨年度より低い評価であった。

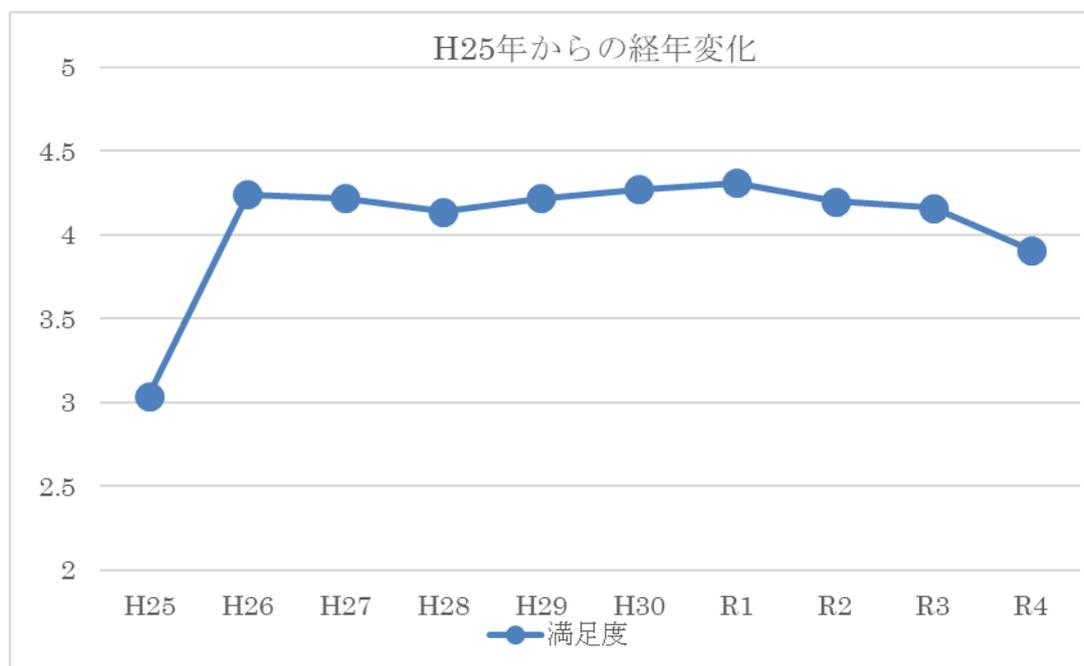
3. 自由記述

さまざまな意見があり、個々には言及しないが、昨年度に続き今年度も、本学のコロナ対応に対する批判的な内容が見られた。また、施設面の整備化についての意見も例年同様に見られた。大学全体及び各学科において十分に検討されることを期待する。なお、自由記述をまとめたものについては別途保管する。

4. 全体的な満足度の経年変化

全体的な満足度については、今年度は 3.91 と昨年度の 4.16 を下回った。

図 2 全体的な満足度の 10 年間の経年変化



5. まとめ

昨年度に引き続き、オンライン形式でアンケートを実施した。学生が様々な機会・場面で本形式のアンケートに慣れてきたこと、教務課と学科関係者が回答呼びかけを行ったこと等の成果として今年度も回収率は向上した。

全体の満足度は、平成 26 年度以来維持していた 4 点台を下回った結果となった。今年度からディプロマ・ポリシーについての達成度を 5 段階で評価してもらったが、すべての項目で 4 点未満であった。このことが全体の満足度評価に関係したと思われる。

また、今年度も新型コロナ対応に関する批判的な意見が多かったこと、志願者数低下による入学生の学力低下に教育方法が対応できなかったこと、これらの要因も満足度に反映されたものと推察される。継続的な対策が必要であろう。

2022年度 卒業生(4年次生)アンケート (川崎医療福祉大学の教育についての調査)

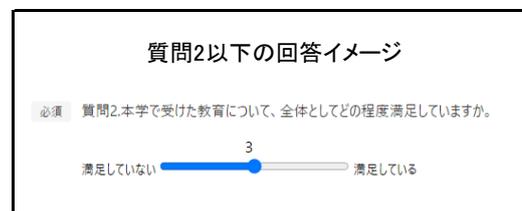
資料1

川崎医療福祉大学 FD・SD委員会

本学では、在学中の教育について皆様の率直な感想を伺い、今後の教育改善に活かしていきたいと考えています。趣旨をご理解のうえ、以下の質問に回答をお願いいたします。なお、回答内容については匿名となっています。

1【卒業後の進路】(希望を含む)

- 1 医療機関に就職
- 2 福祉施設に就職
- 3 医療・福祉系企業に就職
- 4 一般企業に就職
- 5 官公庁(公務員)に就職
- 6 大学院・その他教育機関に進学
- 7 その他



2【本学で受けた教育について、全体としてどの程度満足していますか。】

<選択肢> 満足していない→満足している 5段階評価

3【本学では、大学の理念と教育理念のもと、以下の学習成果の獲得を教育目標としています。自身の達成状況について5段階で自己評価してください。】

- ① 「幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。」

<選択肢> 達成できなかった→達成できた 5段階評価

- ② 「豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。」

<選択肢> 達成できなかった→達成できた 5段階評価

- ③ 「医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。」

<選択肢> 達成できなかった→達成できた 5段階評価

- ④ 「4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。」

<選択肢> 達成できなかった→達成できた 5段階評価

4【在学中に受講した授業の内容は、全体的に整理され、まとまっていたか。】

<選択肢> まとまっていなかった→まとまっていた 5段階評価

5【在学中に受講した授業の担当教員は、全体的に受講生の様子をよく見ながら臨機応変に授業を進めていましたか。】

<選択肢> 進めていなかった→進めていた 5段階評価

6【在学中に受講した授業は、全体的にシラバスの記載内容に沿って行われましたか。】

<選択肢> 行われなかった→行われた 5段階評価

7【基礎教育科目についてお尋ねします。それぞれの分野について、どの程度満足していますか。】

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| ① 医療福祉分野 | <選択肢> 満足していない→満足している 5段階評価 |
| ② 教養分野 | <選択肢> 満足していない→満足している 5段階評価 |
| ③ 国際コミュニケーション分野 | <選択肢> 満足していない→満足している 5段階評価 |
| ④ 健康・体育分野 | <選択肢> 満足していない→満足している 5段階評価 |
| ⑤ 情報分野 | <選択肢> 満足していない→満足している 5段階評価 |
| ⑥ 総合分野 | <選択肢> 満足していない→満足している 5段階評価 |

8【専門科目についてお尋ねします。それぞれの授業形態の科目について、どの程度満足していますか。】

- ① 講義科目 <選択肢> 満足していない→満足している 5段階評価
- ② 演習科目 <選択肢> 満足していない→満足している 5段階評価
- ③ 実習科目 <選択肢> 満足していない→満足している 5段階評価
- ④ 卒業研究(ゼミナール) <選択肢> 満足していない→満足している 5段階評価

9【質問項目3～8のうち、「1」または「2」と回答された方は以下に質問番号とその理由をお書きください。(任意)】

質問項目 (番号)	理 由

10【本学の教育に関して何かご意見がありましたら、自由にお書きください。(任意)】

--

回答期限:2023年3月20日(月)

2022 年度

既卒生（2021 年度卒業生）アンケート調査報告

川崎医療福祉大学
FD・SD委員会

本学の卒業生が社会に出て、どのような就業状況にあるかを把握すると同時に、本学における学修を振り返り、それをどのように評価しているかを確認するために、卒業後半年以上経過した時点でアンケート調査を行っている。この調査は、2006 年度より始まり、2018 年度までは 3 年に 1 度の実施であったが（この間に 5 回実施）、2020 年度からは、毎年実施している。アンケート内容については、2021 年度より一部変更し、教育目標の達成度の評価をディプロマ・ポリシーの達成度の評価へと変更した。

1. 実施状況

1-1 実施対象と実施方法

2021 年度の卒業生（以下、卒業生）は合計 1034 名であった。送達不能が 11 名で、計 1023 名（前回 967 名）が今回の調査対象であった。本学同窓会からの情報に基づき、アンケート依頼は郵送、回答は Google Forms を使用して、オンラインにて実施した。質問項目は巻末の「資料 1」の通りである。

1-2 実施期間

2022 年 12 月 1 日（木）～2022 年 12 月 31 日（土）

2. 実施結果（表 1）

2-1 回収率

卒業生に対するアンケートの回収率は 12.22%で、前回（13.03%）とほぼ同程度であった。

2-2 現在の状況（Q3）

回答のうち、「最初の就職先を変更せず勤務」の割合が 114 名（91.20%、前回 90.48%）と最も多く、「就職先を変更して勤務」は 3 名（2.40%、前回 1.59%）で、全体のうち就業している者は合計 117 名（93.60%、前回 92.06%）であった。また、「改めて教育を受けている」は 6 名（4.80%、前回 3.97%）、「現在は仕事に就いてない」が 2 名（1.60%、前回 3.97%）であった。

2-3 現在の勤務先の業種（Q4）

医療関係 79 名（68.70%、前回 75.0%）、福祉関係 13 名（11.30%、前回 8.62%）、一般企業 6 名（5.22%、前回 2.59%）、公務員 11 名（9.57%、前回 11.21%）であった。福祉関係、一般企業の比率が増加し、医療関係、公務員の比率が減少した。

2-4 本学教育への満足度（Q5）

本学教育への満足度は平均 4.03（前回 4.02）で、卒業学科別に見ると、4.5 以上の高評価を得たのは、医療秘書学科であった。3.0 を下回る低評価の学科はなかった。

2-5 本学のディプロマ・ポリシーの達成度 (Q6)

本学の4つのディプロマ・ポリシーについて、達成度を5段階で評価してもらった結果、以下のとおりであった。

なお、本質問項目は昨年度までの教育目標の達成度に代わる質問項目である。

- ・ Q5-①「幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。」

平均 3.68 であった。

- ・ Q5-②「豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。」

平均 3.77 であった。

- ・ Q5-③「医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。」

平均 3.57 であった。

- ・ Q5-④「4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。」

平均 3.63 であった。

ディプロマ・ポリシー別、卒業学科別に4.5以上の高い評価を得た項目はなく、3.0未満の低い評価を受けたディプロマ・ポリシーは「①豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける」で医療福祉経営学科と医療秘書学科、「③医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う」で医療福祉経営学科、「④スペシャリストとしての指導力を身につける」で医療福祉経営学科であった。

2-6 本学学修の有用度 (Q7)

本質問項目は今回から新設された質問項目である。

本学学修の有用度は平均 4.03 で、卒業学科別に見ると、4.5以上の高評価を得たのは、医療秘書学科であった。3.0を下回る低評価の学科はなかった。

3. 自由記述

後輩へのアドバイスの内容が多く見られた。自由記述をまとめたものについては、別途保管する。

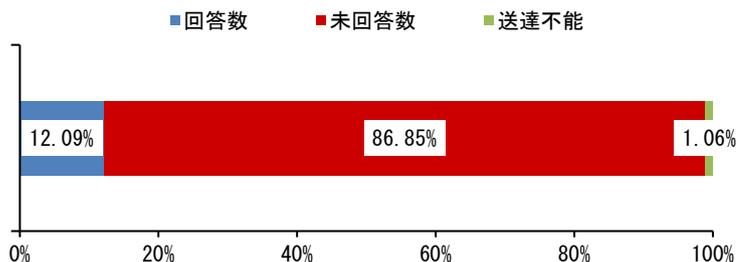
4. まとめ

本学教育の満足度については、昨年度とほぼ同じ値であった。それ以外の結果については、回答方法のオンライン化、学生の多様化、長引く新型コロナウイルス感染症拡大による社会情勢の変化などに加え、アンケート内容に一部変更があったこと、昨年度と同様に回収率が12%に止まったことなど様々な要因が複合的に関与していることから、今年度については、卒業生の全体的な傾向を把握するための十分なデータとなっていないと考えられる。継続的にデータの蓄積を行うとともに、回収率改善のための新たな取り組みについて検討する必要がある。

表 1

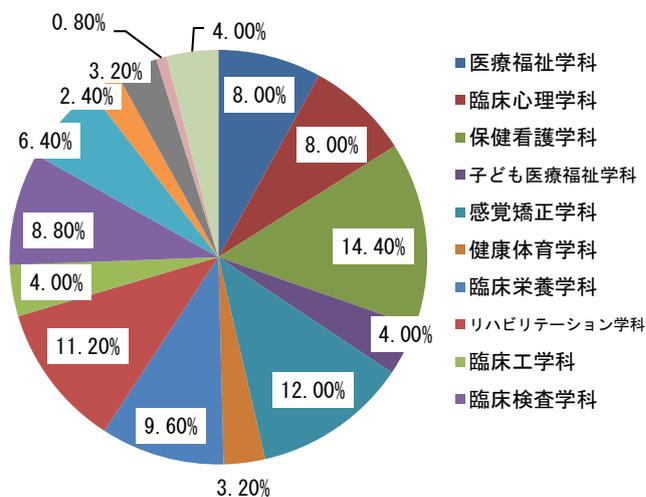
1. 回収率（全体）

配布数	1034 通	
回答数	125 通	12.09%
未回答数	898 通	86.85%
送達不能	11 通	1.06%



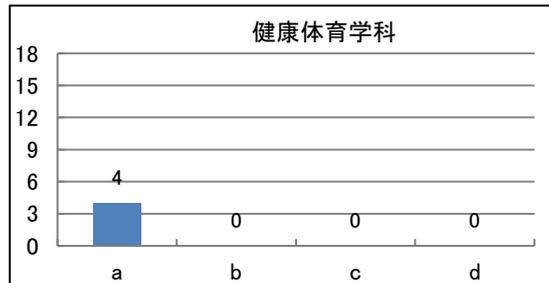
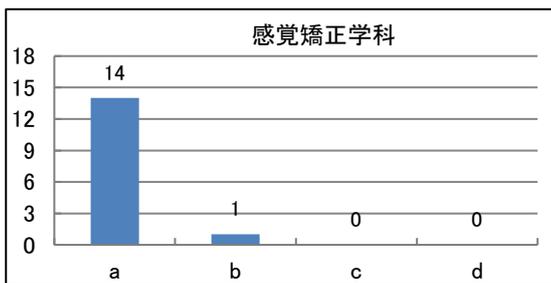
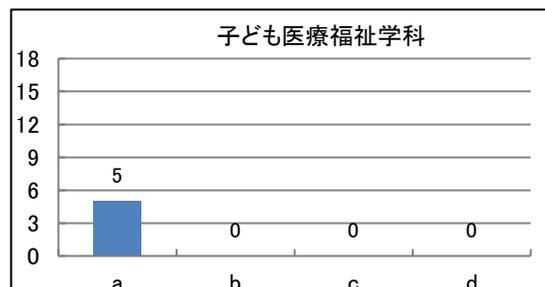
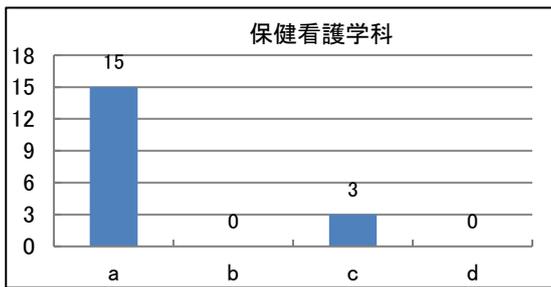
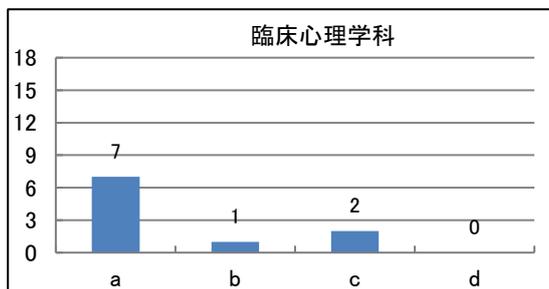
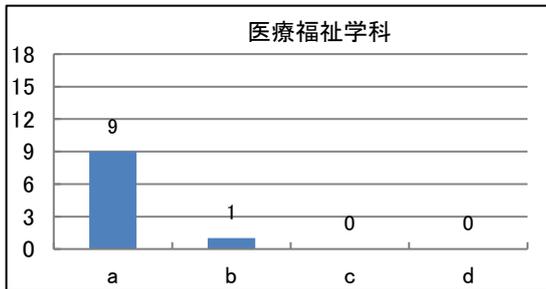
2. Q2 あなたの卒業学科

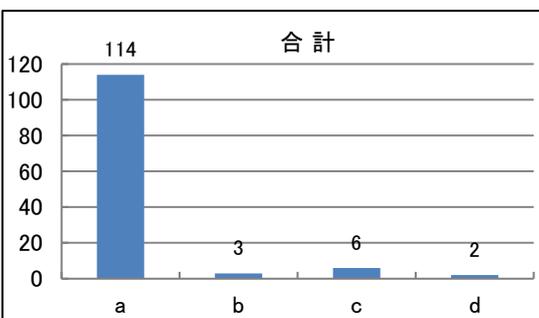
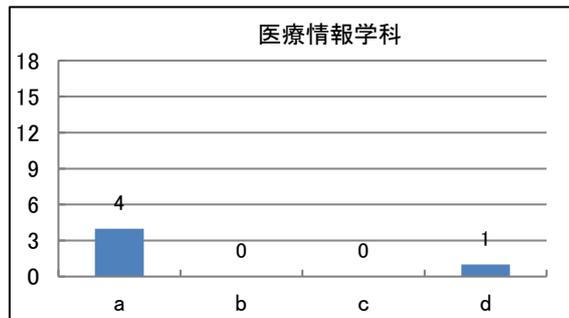
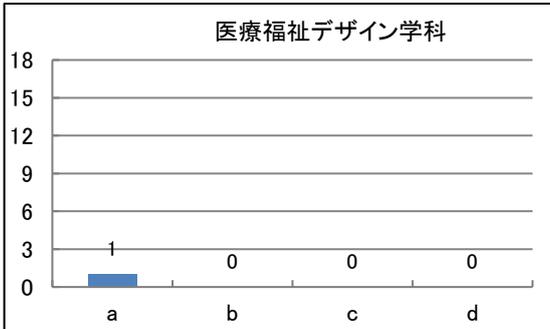
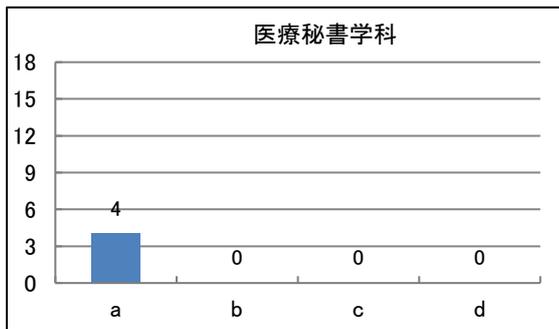
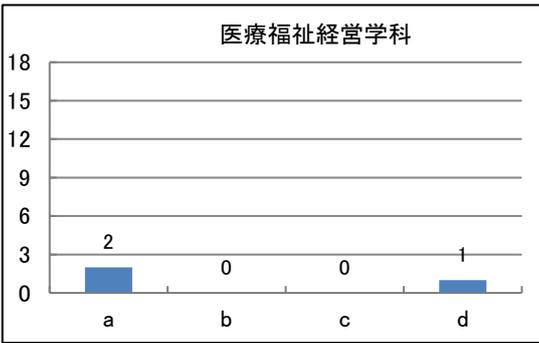
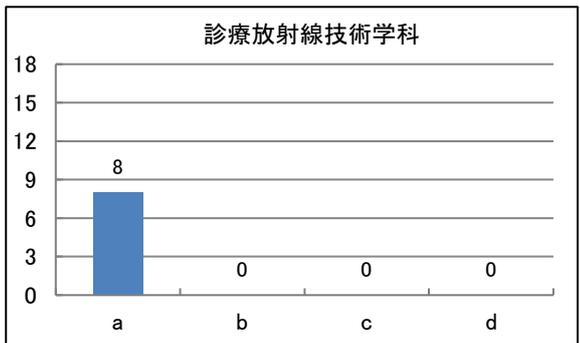
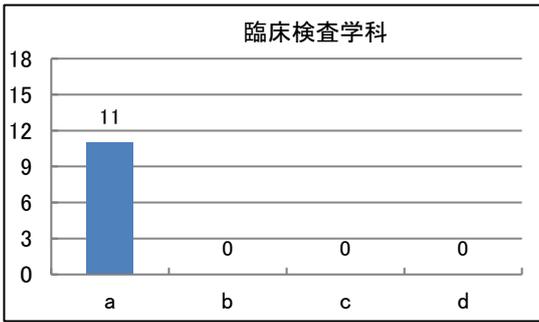
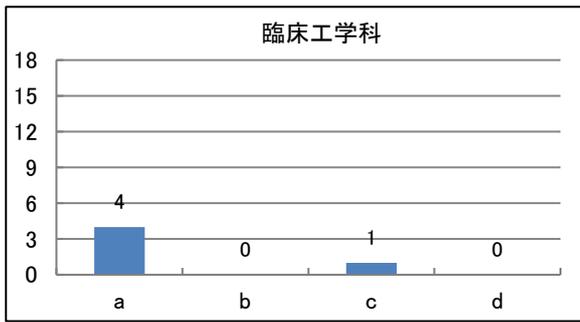
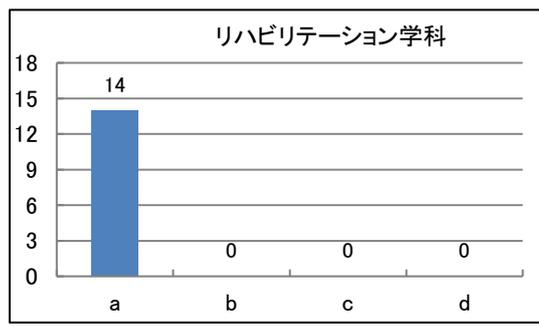
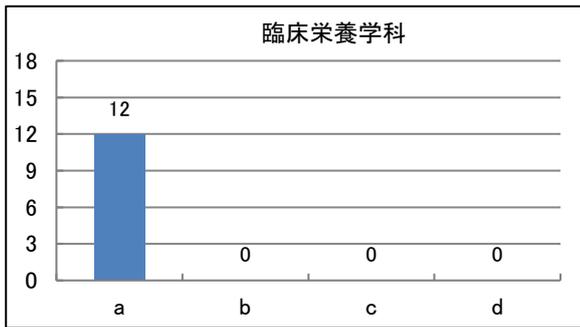
学科	回答数	割合
医療福祉学科	10	8.00%
臨床心理学科	10	8.00%
保健看護学科	18	14.40%
子ども医療福祉学科	5	4.00%
感覚矯正学科	15	12.00%
健康体育学科	4	3.20%
臨床栄養学科	12	9.60%
リハビリテーション学科	14	11.20%
臨床工学科	5	4.00%
臨床検査学科	11	8.80%
診療放射線技術学科	8	6.40%
医療福祉経営学科	3	2.40%
医療秘書学科	4	3.20%
医療福祉デザイン学科	1	0.80%
医療情報学科	5	4.00%
合計	125	100.00%



3. Q3 現在の状況

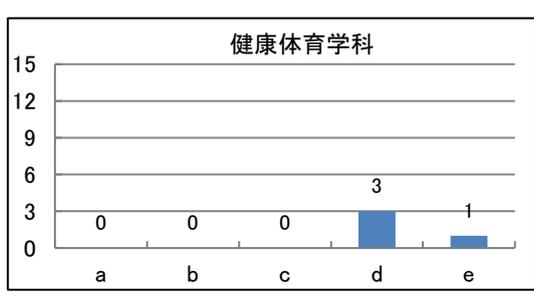
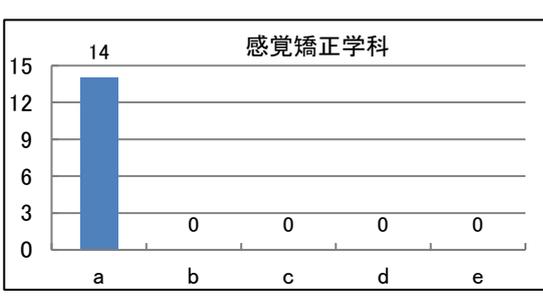
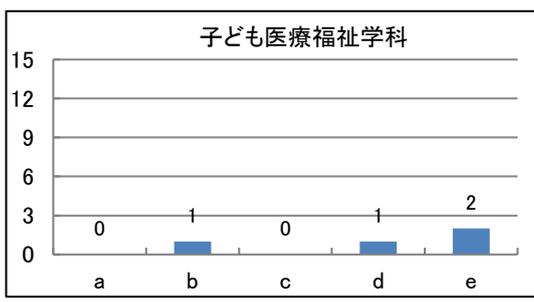
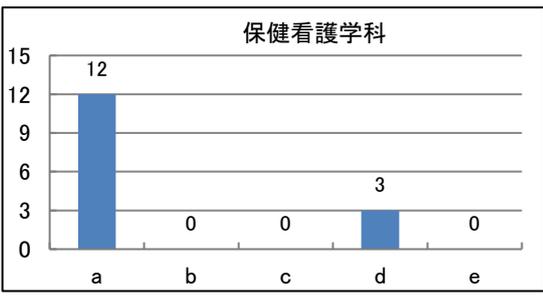
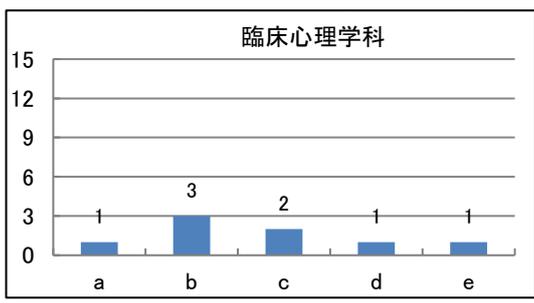
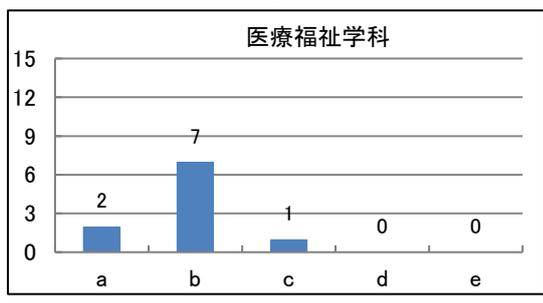
学科	最初の就職先を 変更せずに勤務	就職先を 変更して勤務	改めて教育を 受けている	現在は仕事に 就いていない	合計
	a	b	c	d	
医療福祉学科	9	1	0	0	10
臨床心理学科	7	1	2	0	10
保健看護学科	15	0	3	0	18
子ども医療福祉学科	5	0	0	0	5
感覚矯正学科	14	1	0	0	15
健康体育学科	4	0	0	0	4
臨床栄養学科	12	0	0	0	12
リハビリテーション学科	14	0	0	0	14
臨床工学科	4	0	1	0	5
臨床検査学科	11	0	0	0	11
診療放射線技術学科	8	0	0	0	8
医療福祉経営学科	2	0	0	1	3
医療秘書学科	4	0	0	0	4
医療福祉デザイン学科	1	0	0	0	1
医療情報学科	4	0	0	1	5
合計	114	3	6	2	125
割合	91.20	2.40	4.80	1.60	

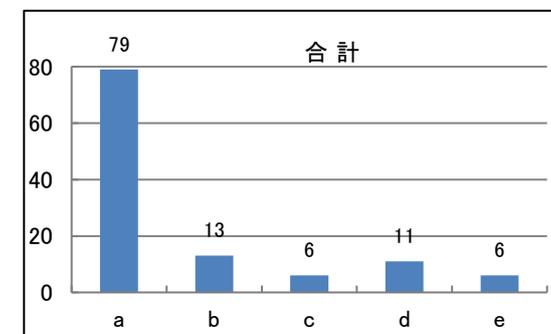
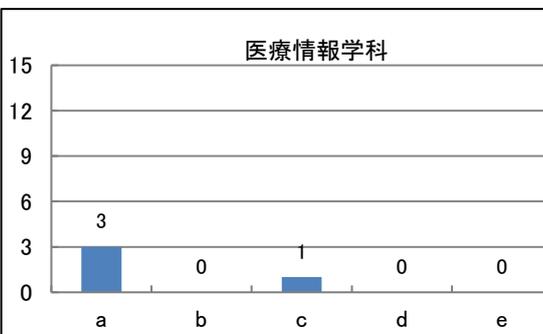
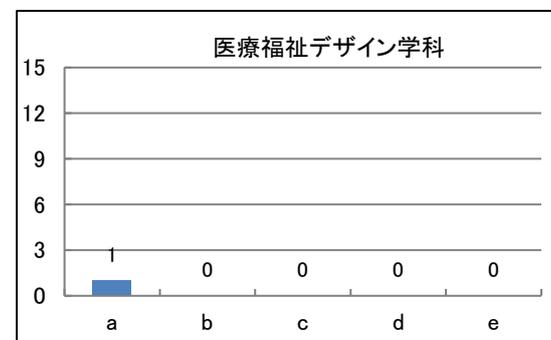
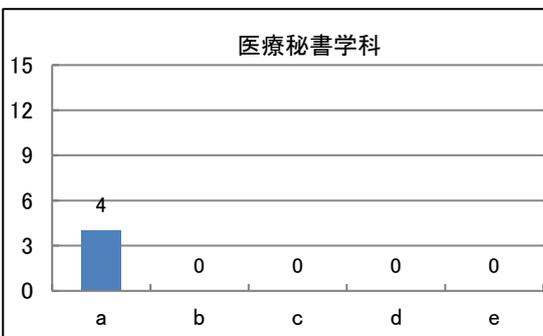
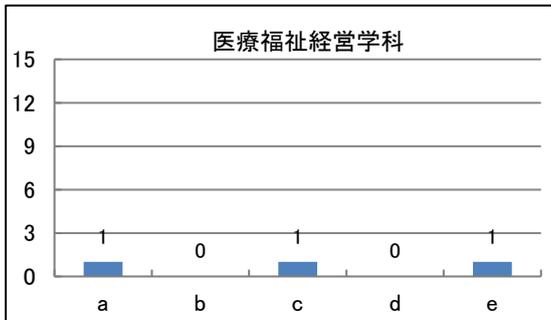
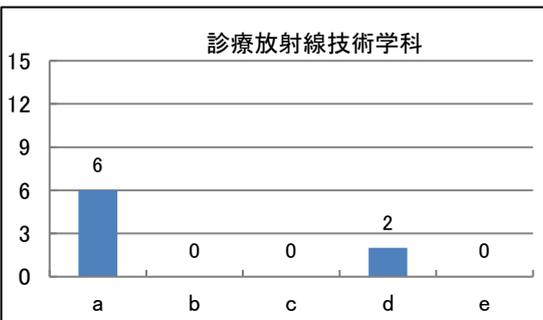
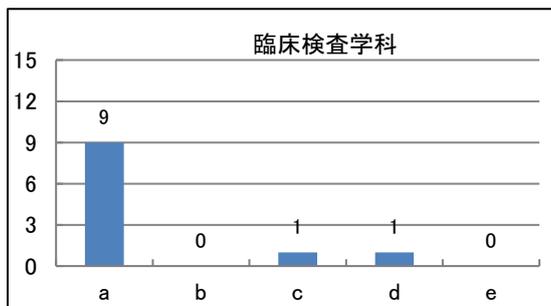
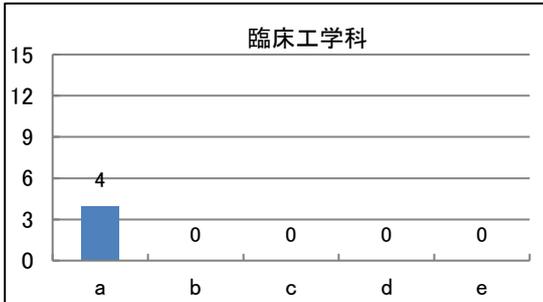
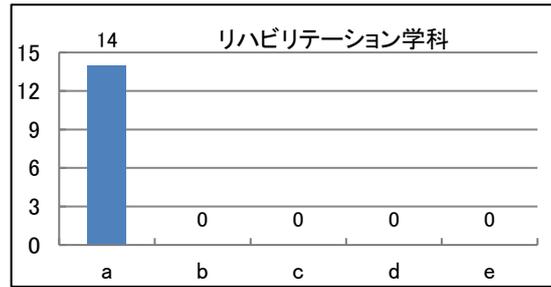
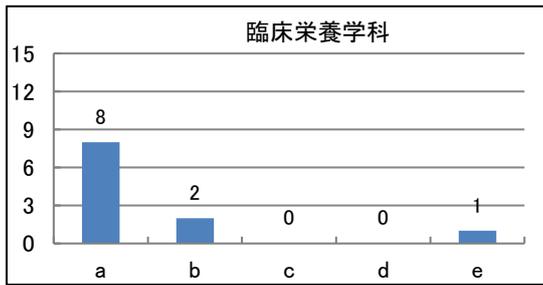




4. Q4 Q3の質問でa、bを選択された方に伺います。現在お勤めの施設（企業）の業種は以下のいずれですか。

学科	医療関係	福祉関係	一般企業	公務員	その他	合計
	a	b	c	d	e	
医療福祉学科	2	7	1	0	0	10
臨床心理学科	1	3	2	1	1	8
保健看護学科	12	0	0	3	0	15
子ども医療福祉学科	0	1	0	1	2	4
感覚矯正学科	14	0	0	0	0	14
健康体育学科	0	0	0	3	1	4
臨床栄養学科	8	2	0	0	1	11
リハビリテーション学科	14	0	0	0	0	14
臨床工学科	4	0	0	0	0	4
臨床検査学科	9	0	1	1	0	11
診療放射線技術学科	6	0	0	2	0	8
医療福祉経営学科	1	0	1	0	1	3
医療秘書学科	4	0	0	0	0	4
医療福祉デザイン学科	1	0	0	0	0	1
医療情報学科	3	0	1	0	0	4
合計	79	13	6	11	6	115
割合	68.70	11.30	5.22	9.57	5.22	



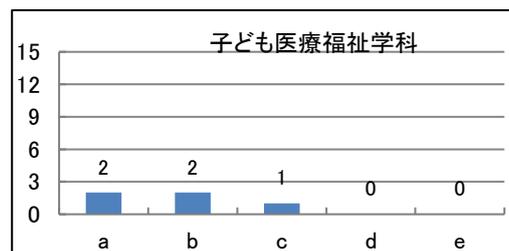
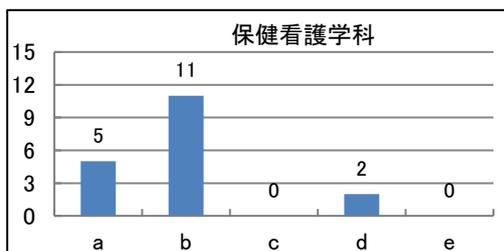
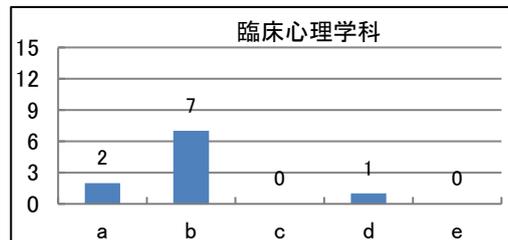
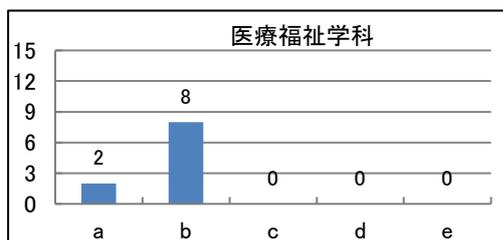


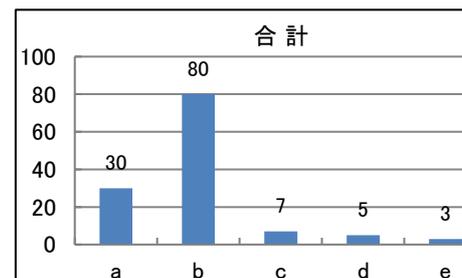
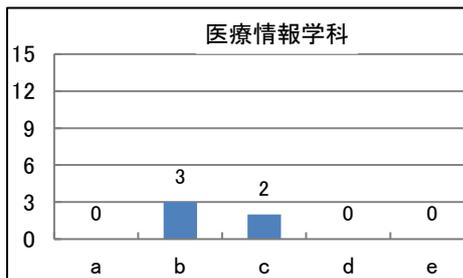
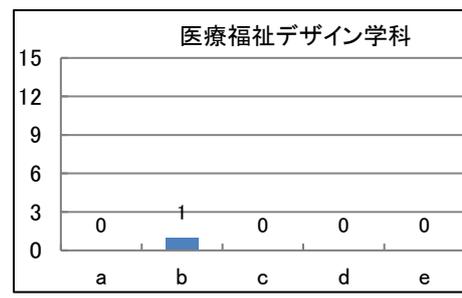
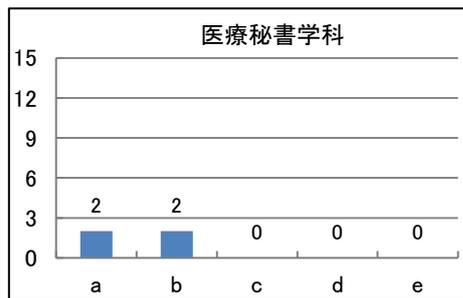
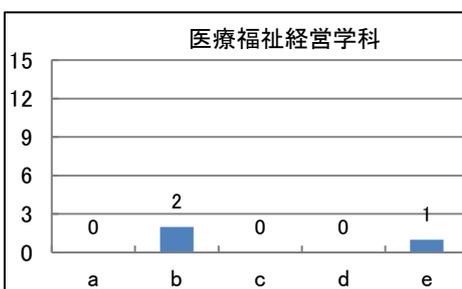
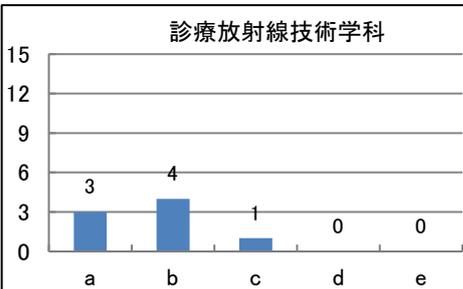
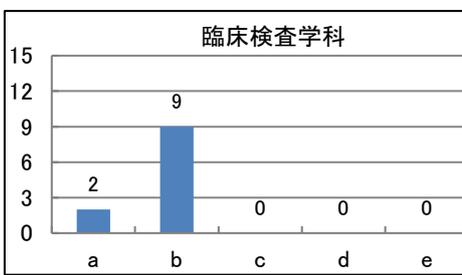
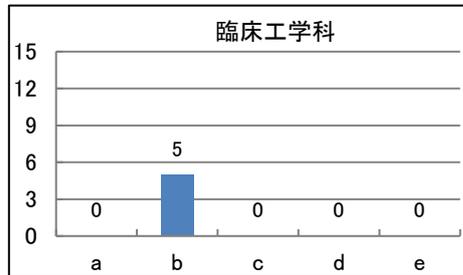
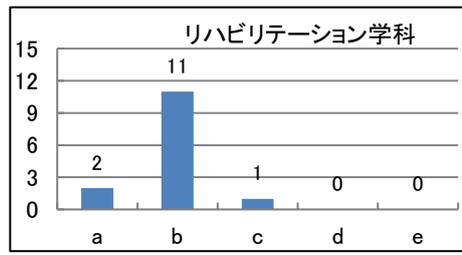
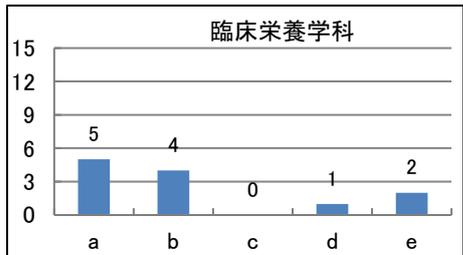
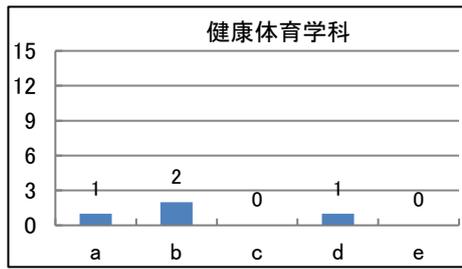
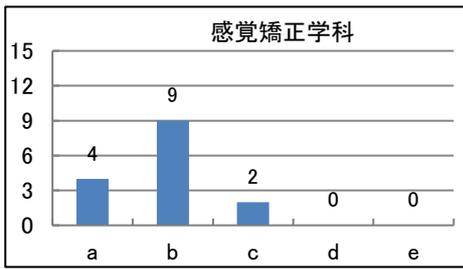
5. Q5 本学で受けた教育について、全体としてどの程度満足していますか

学科	大変満足	まずまず満足	どちらでもない	やや不満足	大変不満足	合計	平均値
	a	b	c	d	e		
医療福祉学科	2	8	0	0	0	10	4.20
臨床心理学科	2	7	0	1	0	10	4.00
保健看護学科	5	11	0	2	0	18	4.06
子ども医療福祉学科	2	2	1	0	0	5	4.20
感覚矯正学科	4	9	2	0	0	15	4.13
健康体育学科	1	2	0	1	0	4	3.75
臨床栄養学科	5	4	0	1	2	12	3.75
リハビリテーション学科	2	11	1	0	0	14	4.07
臨床工学科	0	5	0	0	0	5	4.00
臨床検査学科	2	9	0	0	0	11	4.18
診療放射線技術学科	3	4	1	0	0	8	4.25
医療福祉経営学科	0	2	0	0	1	3	3.00
医療秘書学科	2	2	0	0	0	4	4.50
医療福祉デザイン学科	0	1	0	0	0	1	4.00
医療情報学科	0	3	2	0	0	5	3.60
合計	30	80	7	5	3	125	4.03

学科	差の二乗和					合計
	a	b	c	d	e	
医療福祉学科	1.28	0.32	0.00	0.00	0.00	1.60
臨床心理学科	2.00	0.00	0.00	4.00	0.00	6.00
保健看護学科	4.46	0.03	0.00	8.45	0.00	12.94
子ども医療福祉学科	1.28	0.08	1.44	0.00	0.00	2.80
感覚矯正学科	3.00	0.16	2.57	0.00	0.00	5.73
健康体育学科	1.56	0.13	0.00	3.06	0.00	4.75
臨床栄養学科	7.81	0.25	0.00	3.06	15.13	26.25
リハビリテーション学科	1.72	0.06	1.15	0.00	0.00	2.93
臨床工学科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨床検査学科	1.34	0.30	0.00	0.00	0.00	1.64
診療放射線技術学科	1.69	0.25	1.56	0.00	0.00	3.50
医療福祉経営学科	0.00	2.00	0.00	0.00	4.00	6.00
医療秘書学科	0.50	0.50	0.00	0.00	0.00	1.00
医療福祉デザイン学科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
医療情報学科	0.00	0.48	0.72	0.00	0.00	1.20
合計	28.11	0.08	7.46	20.65	27.58	83.87

標準偏差	
分散	SD
0.16	0.40
0.60	0.77
0.72	0.85
0.56	0.75
0.38	0.62
1.19	1.09
2.19	1.48
0.21	0.46
0.00	0.00
0.15	0.39
0.44	0.66
2.00	1.41
0.25	0.50
0.00	0.00
0.24	0.49
0.67	0.82



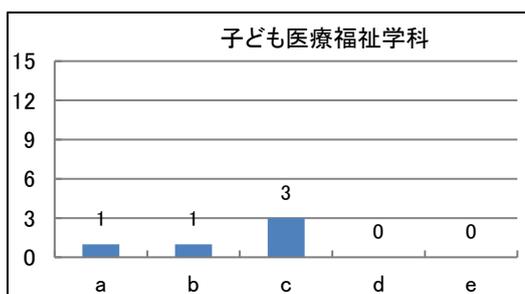
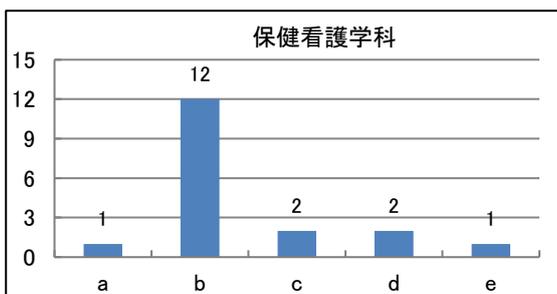
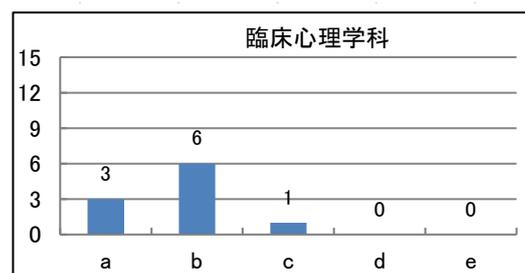
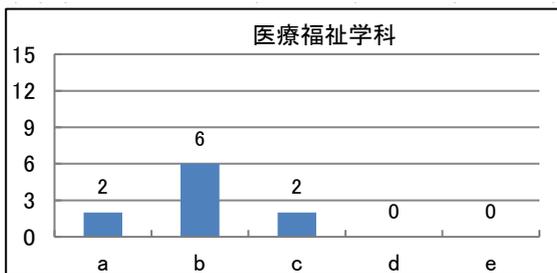


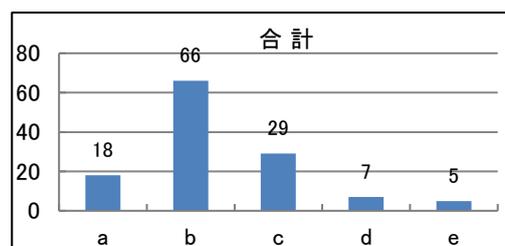
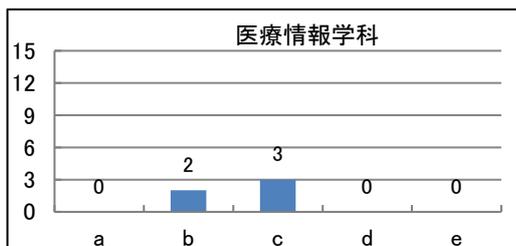
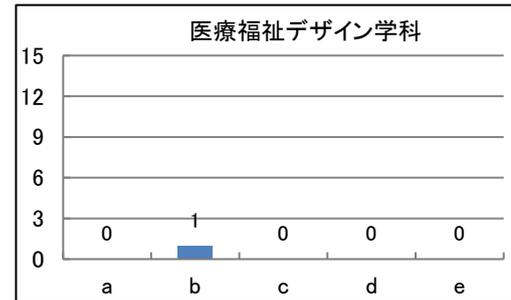
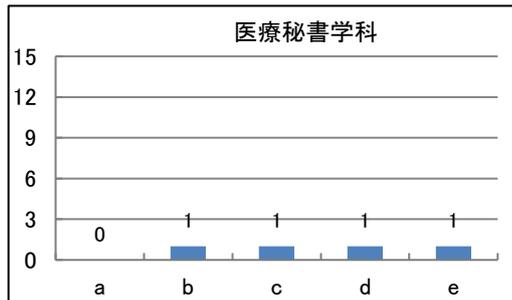
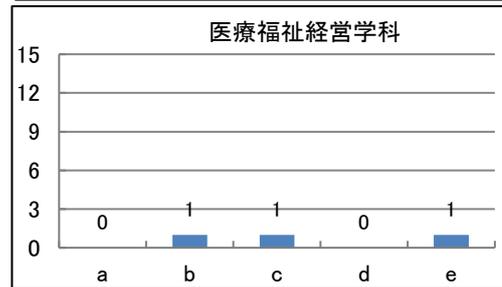
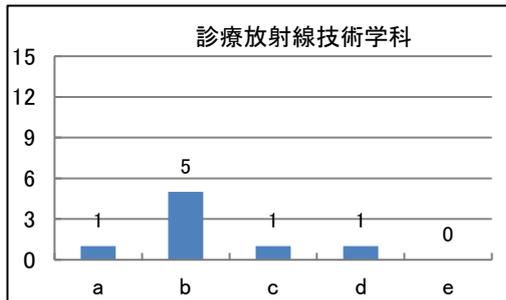
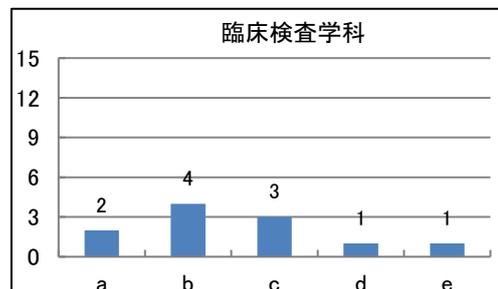
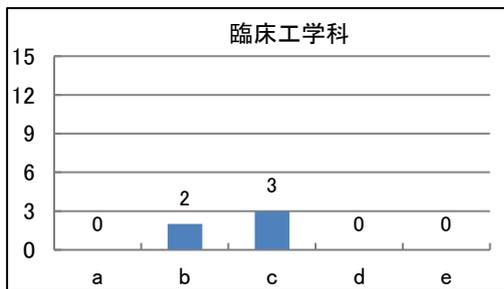
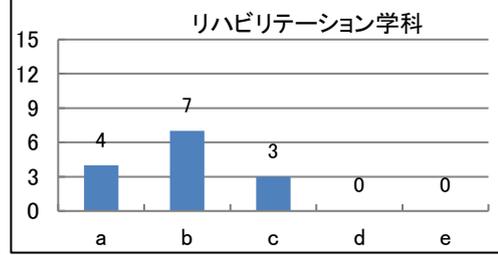
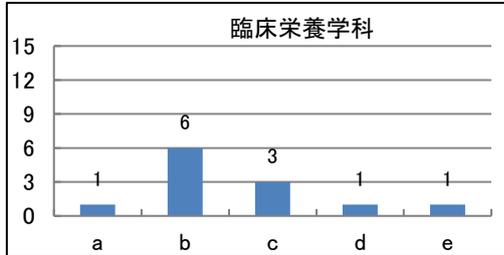
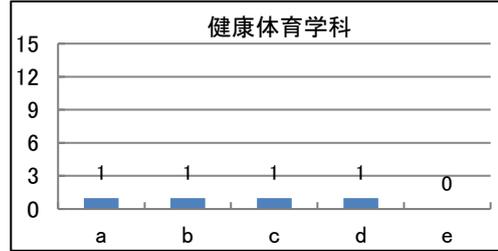
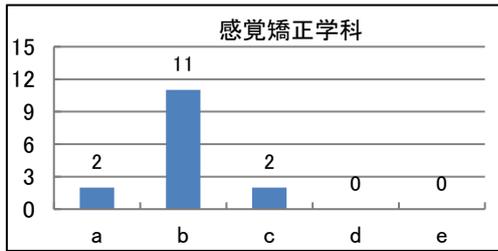
6. Q6 本学が養成しようとする人材像は以下のとおりですが、身につけた能力をどのくらい職場で発揮できていますか。
 [①幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。]

学科	十分発揮 できている	やや発揮 できている	どちらでも ない	やや発揮 できていない	全く発揮 できていない	合計	平均値 AV
	a	b	c	d	e		
医療福祉学科	2	6	2	0	0	10	4.00
臨床心理学科	3	6	1	0	0	10	4.20
保健看護学科	1	12	2	2	1	18	3.56
子ども医療福祉学科	1	1	3	0	0	5	3.60
感覚矯正学科	2	11	2	0	0	15	4.00
健康体育学科	1	1	1	1	0	4	3.50
臨床栄養学科	1	6	3	1	1	12	3.42
リハビリテーション学科	4	7	3	0	0	14	4.07
臨床工学科	0	2	3	0	0	5	3.40
臨床検査学科	2	4	3	1	1	11	3.45
診療放射線技術学科	1	5	1	1	0	8	3.75
医療福祉経営学科	0	1	1	0	1	3	2.67
医療秘書学科	0	1	1	1	1	4	2.50
医療福祉デザイン学科	0	1	0	0	0	1	4.00
医療情報学科	0	2	3	0	0	5	3.40
合計	18	66	29	7	5	125	3.68

学科	差の二乗和					合計
	a	b	c	d	e	
医療福祉学科	2.00	0.00	2.00	0.00	0.00	4.00
臨床心理学科	1.92	0.24	1.44	0.00	0.00	3.60
保健看護学科	2.09	2.37	0.62	4.84	6.53	16.44
子ども医療福祉学科	1.96	0.16	1.08	0.00	0.00	3.20
感覚矯正学科	2.00	0.00	2.00	0.00	0.00	4.00
健康体育学科	2.25	0.25	0.25	2.25	0.00	5.00
臨床栄養学科	2.51	2.04	0.52	2.01	5.84	12.92
リハビリテーション学科	3.45	0.04	3.44	0.00	0.00	6.93
臨床工学科	0.00	0.72	0.48	0.00	0.00	1.20
臨床検査学科	4.78	1.19	0.62	2.12	6.02	14.73
診療放射線技術学科	1.56	0.31	0.56	3.06	0.00	5.50
医療福祉経営学科	0.00	1.78	0.11	0.00	2.78	4.67
医療秘書学科	0.00	2.25	0.25	0.25	2.25	5.00
医療福祉デザイン学科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
医療情報学科	0.00	0.72	0.48	0.00	0.00	1.20
合計	31.36	6.76	13.41	19.76	35.91	107.20

標準偏差	
分散	SD
0.40	0.63
0.36	0.60
0.91	0.96
0.64	0.80
0.27	0.52
1.25	1.12
1.08	1.04
0.49	0.70
0.24	0.49
1.34	1.16
0.69	0.83
1.56	1.25
1.25	1.12
0.00	0.00
0.24	0.49
0.86	0.93





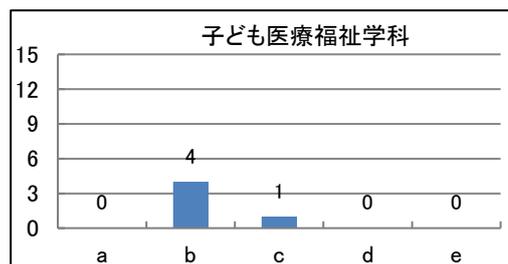
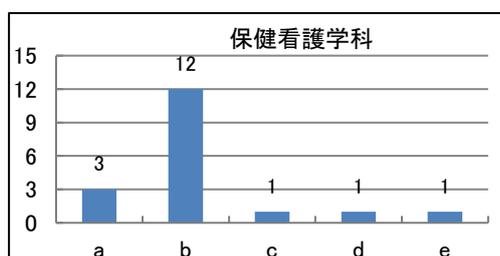
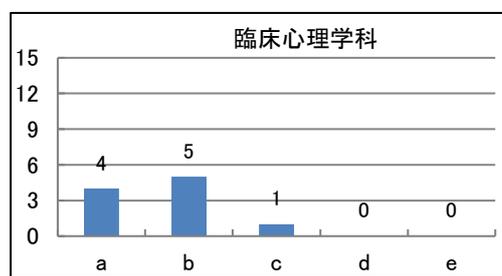
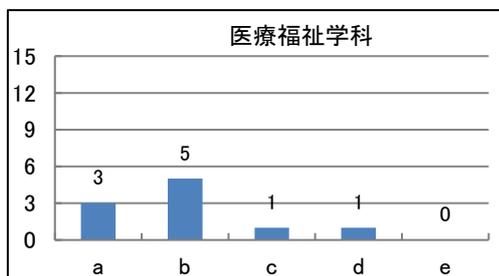
7. Q6 本学が養成しようとする人材像は以下のとおりですが、身につけた能力をどのくらい職場で発揮できていますか。

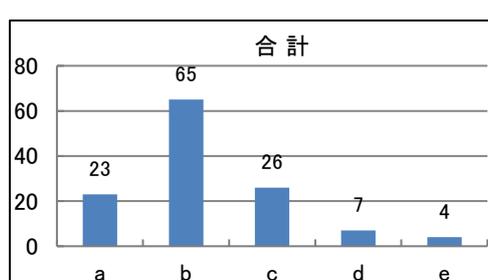
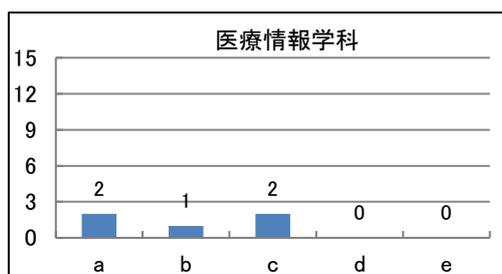
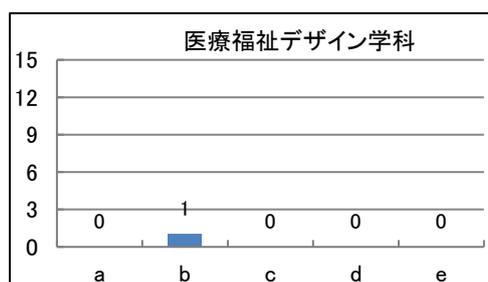
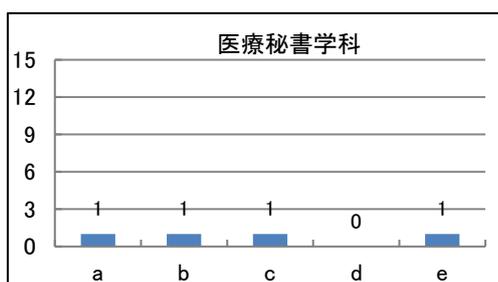
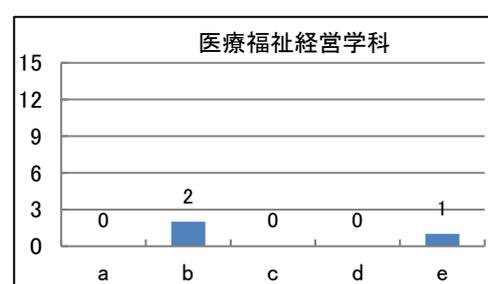
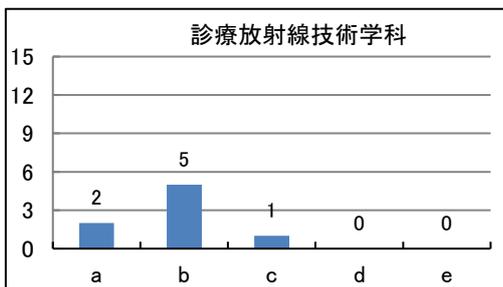
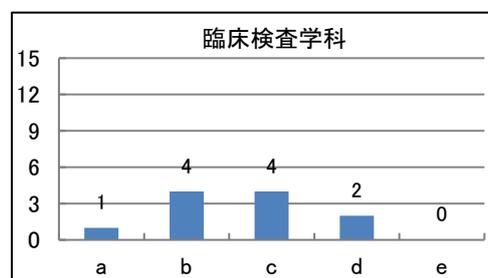
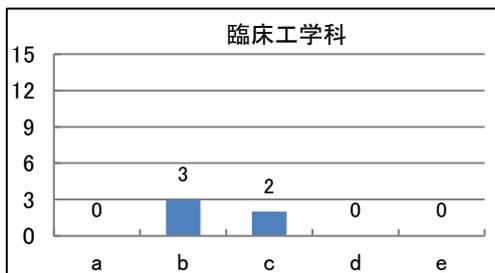
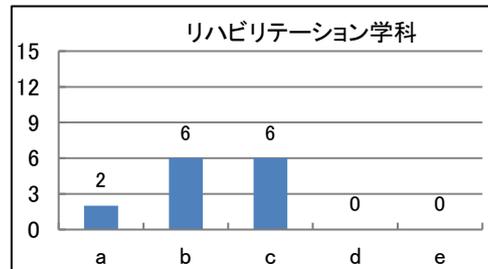
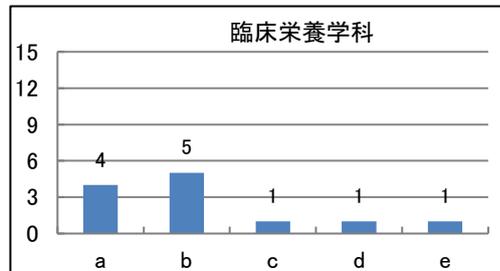
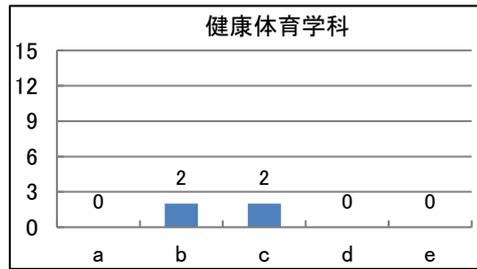
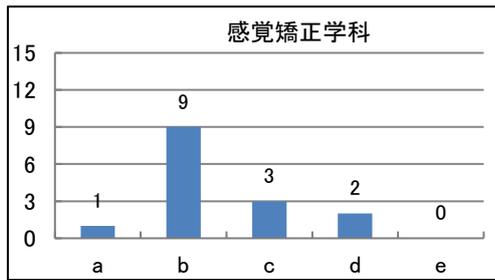
[②豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。]

学科	十分発揮 できている	やや発揮 できている	どちらでも ない	やや発揮 できていない	全く発揮 できていない	合計	平均値
	a	b	c	d	e		
医療福祉学科	3	5	1	1	0	10	4.00
臨床心理学科	4	5	1	0	0	10	4.30
保健看護学科	3	12	1	1	1	18	3.83
子ども医療福祉学科	0	4	1	0	0	5	3.80
感覚矯正学科	1	9	3	2	0	15	3.60
健康体育学科	0	2	2	0	0	4	3.50
臨床栄養学科	4	5	1	1	1	12	3.83
リハビリテーション学科	2	6	6	0	0	14	3.71
臨床工学科	0	3	2	0	0	5	3.60
臨床検査学科	1	4	4	2	0	11	3.36
診療放射線技術学科	2	5	1	0	0	8	4.13
医療福祉経営学科	0	2	0	0	1	3	3.00
医療秘書学科	1	1	1	0	1	4	3.25
医療福祉デザイン学科	0	1	0	0	0	1	4.00
医療情報学科	2	1	2	0	0	5	4.00
合計	23	65	26	7	4	125	3.77

学科	差の二乗和					合計
	a	b	c	d	e	
医療福祉学科	3.00	0.00	1.00	4.00	0.00	8.00
臨床心理学科	1.96	0.45	1.69	0.00	0.00	4.10
保健看護学科	4.08	0.33	0.69	3.36	8.03	16.50
子ども医療福祉学科	0.00	0.16	0.64	0.00	0.00	0.80
感覚矯正学科	1.96	1.44	1.08	5.12	0.00	9.60
健康体育学科	0.00	0.50	0.50	0.00	0.00	1.00
臨床栄養学科	5.44	0.14	0.69	3.36	8.03	17.67
リハビリテーション学科	3.31	0.49	3.06	0.00	0.00	6.86
臨床工学科	0.00	0.48	0.72	0.00	0.00	1.20
臨床検査学科	2.68	1.62	0.53	3.72	0.00	8.55
診療放射線技術学科	1.53	0.08	1.27	0.00	0.00	2.88
医療福祉経営学科	0.00	2.00	0.00	0.00	4.00	6.00
医療秘書学科	3.06	0.56	0.06	0.00	5.06	8.75
医療福祉デザイン学科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
医療情報学科	2.00	0.00	2.00	0.00	0.00	4.00
合計	34.91	3.50	15.34	21.88	30.65	106.27

標準偏差	
分散	SD
0.80	0.89
0.41	0.64
0.92	0.96
0.16	0.40
0.64	0.80
0.25	0.50
1.47	1.21
0.49	0.70
0.24	0.49
0.78	0.88
0.36	0.60
2.00	1.41
2.19	1.48
0.00	0.00
0.80	0.89
0.85	0.92



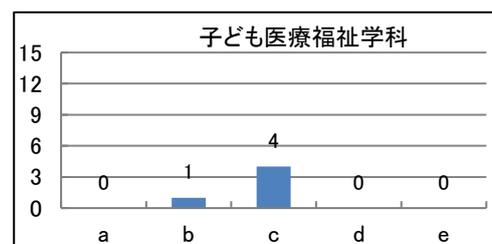
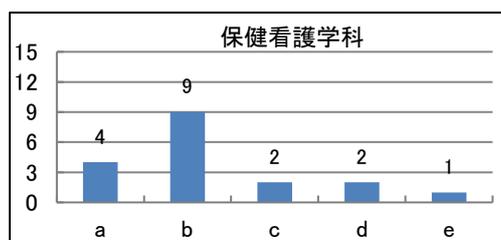
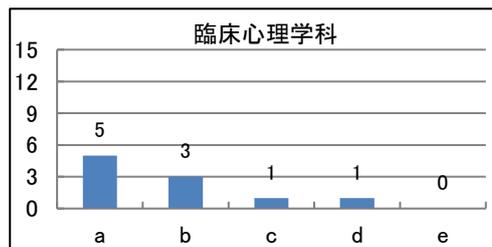
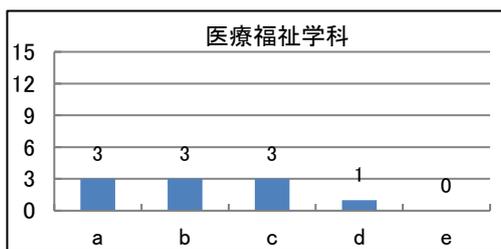


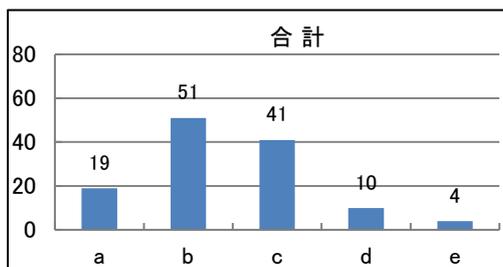
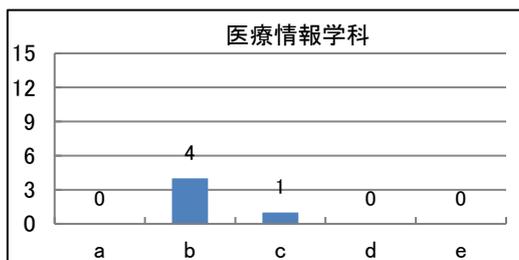
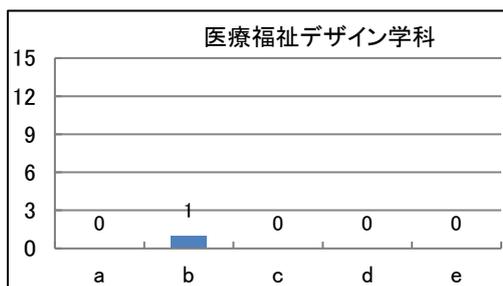
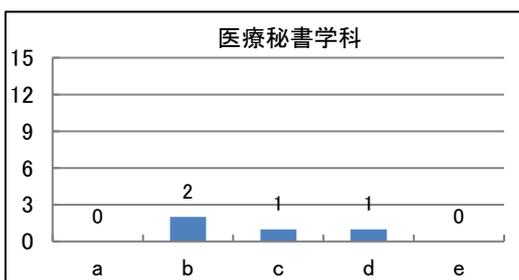
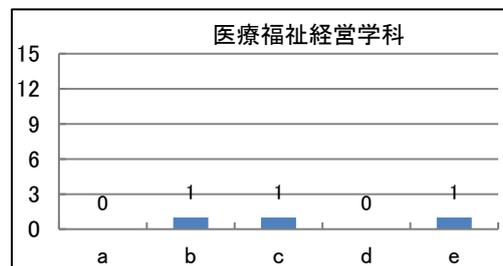
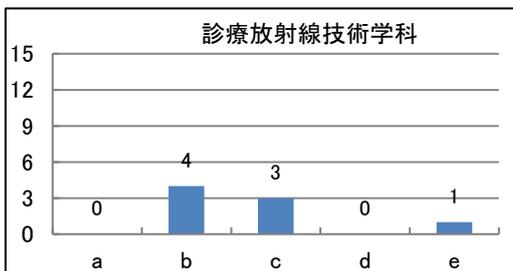
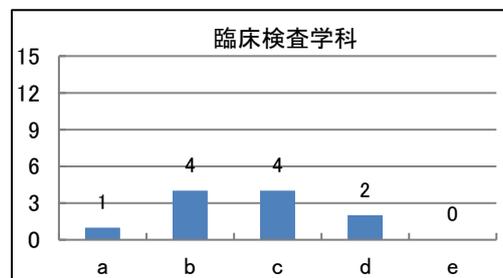
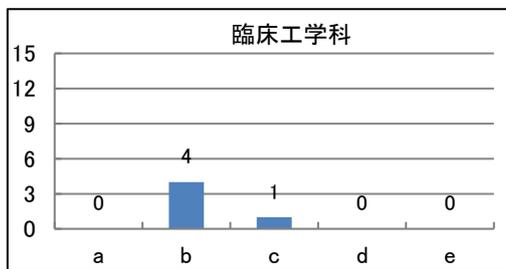
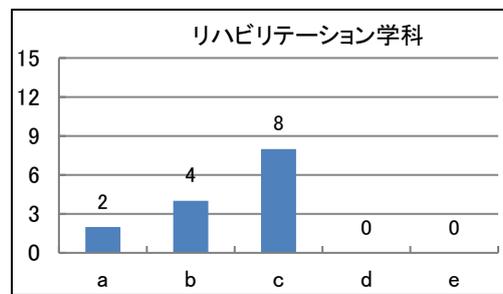
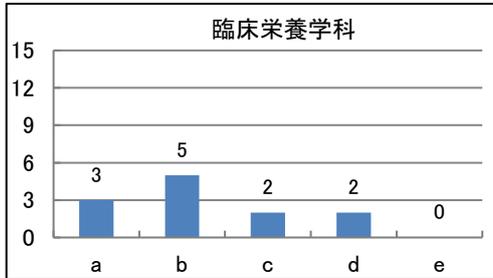
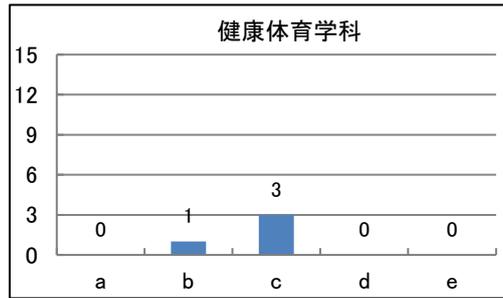
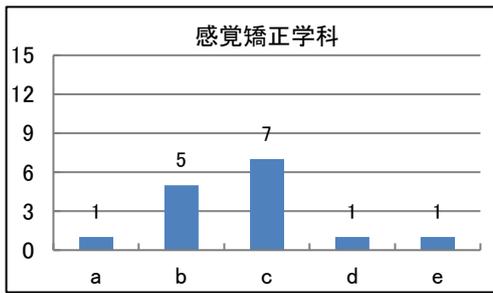
8. Q6 本学が養成しようとする人材像は以下のとおりですが、身につけた能力をどのくらい職場で発揮できていますか。
 [③医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。]

学科	十分発揮 できている	やや発揮 できている	どちらでも ない	やや発揮 できていない	全く発揮 できていない	合計	平均値 AV
	a	b	c	d	e		
医療福祉学科	3	3	3	1	0	10	3.80
臨床心理学科	5	3	1	1	0	10	4.20
保健看護学科	4	9	2	2	1	18	3.72
子ども医療福祉学科	0	1	4	0	0	5	3.20
感覚矯正学科	1	5	7	1	1	15	3.27
健康体育学科	0	1	3	0	0	4	3.25
臨床栄養学科	3	5	2	2	0	12	3.75
リハビリテーション学科	2	4	8	0	0	14	3.57
臨床工学科	0	4	1	0	0	5	3.80
臨床検査学科	1	4	4	2	0	11	3.36
診療放射線技術学科	0	4	3	0	1	8	3.25
医療福祉経営学科	0	1	1	0	1	3	2.67
医療秘書学科	0	2	1	1	0	4	3.25
医療福祉デザイン学科	0	1	0	0	0	1	4.00
医療情報学科	0	4	1	0	0	5	3.80
合計	19	51	41	10	4	125	3.57

学科	差の二乗和					合計
	a	b	c	d	e	
医療福祉学科	4.32	0.12	1.92	3.24	0.00	9.60
臨床心理学科	3.20	0.12	1.44	4.84	0.00	9.60
保健看護学科	6.53	0.69	1.04	5.93	7.41	21.61
子ども医療福祉学科	0.00	0.64	0.16	0.00	0.00	0.80
感覚矯正学科	3.00	2.69	0.50	1.60	5.14	12.93
健康体育学科	0.00	0.56	0.19	0.00	0.00	0.75
臨床栄養学科	4.69	0.31	1.13	6.13	0.00	12.25
リハビリテーション学科	4.08	0.73	2.61	0.00	0.00	7.43
臨床工学科	0.00	0.16	0.64	0.00	0.00	0.80
臨床検査学科	2.68	1.62	0.53	3.72	0.00	8.55
診療放射線技術学科	0.00	2.25	0.19	0.00	5.06	7.50
医療福祉経営学科	0.00	1.78	0.11	0.00	2.78	4.67
医療秘書学科	0.00	1.13	0.06	1.56	0.00	2.75
医療福祉デザイン学科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
医療情報学科	0.00	0.16	0.64	0.00	0.00	0.80
合計	38.96	9.52	13.23	24.59	26.38	112.67

標準偏差	
分散	SD
0.96	0.98
0.96	0.98
1.20	1.10
0.16	0.40
0.86	0.93
0.19	0.43
1.02	1.01
0.53	0.73
0.16	0.40
0.78	0.88
0.94	0.97
1.56	1.25
0.69	0.83
0.00	0.00
0.16	0.40
0.90	0.95



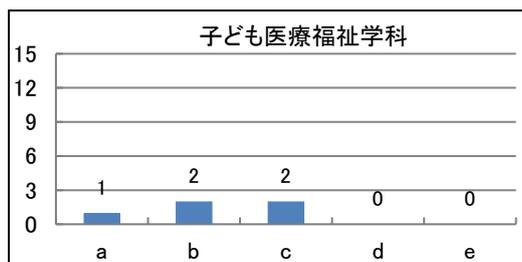
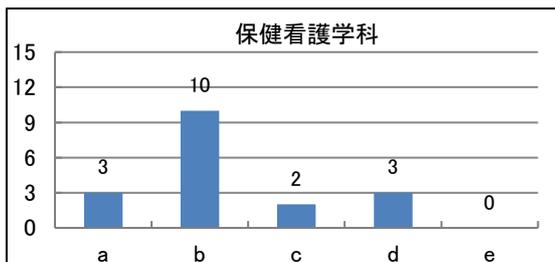
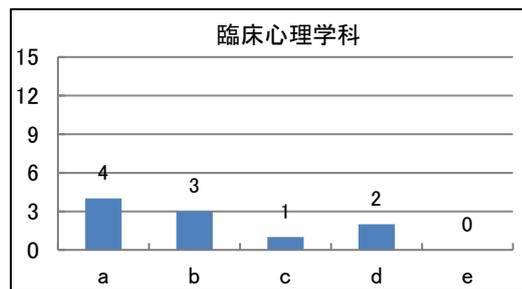
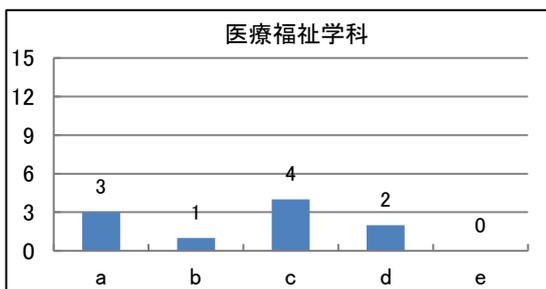


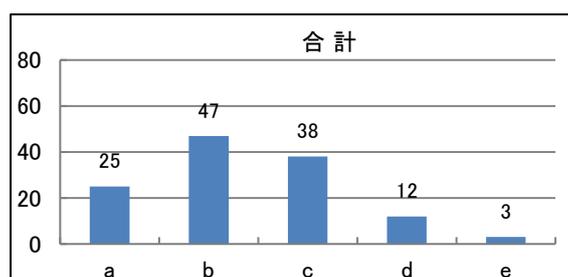
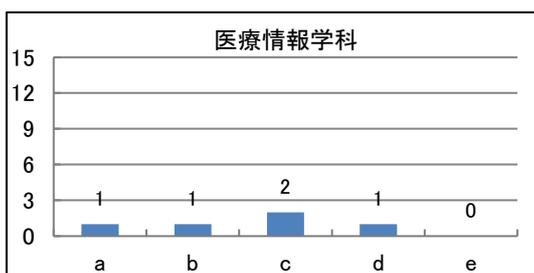
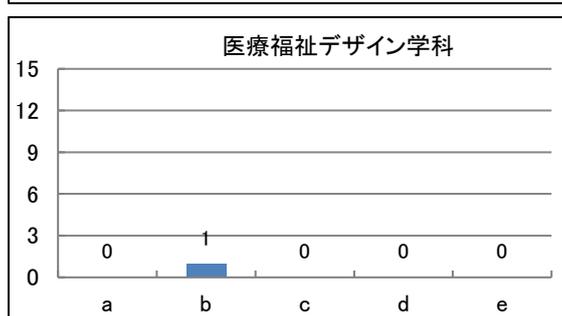
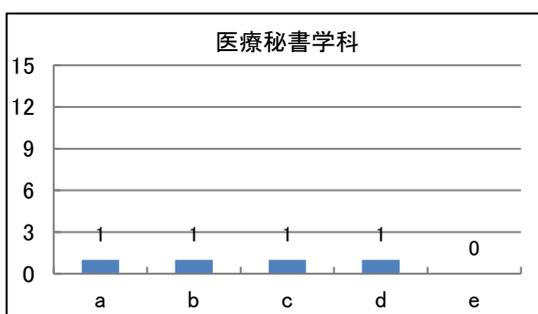
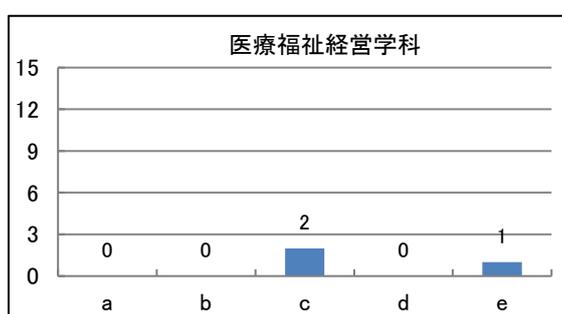
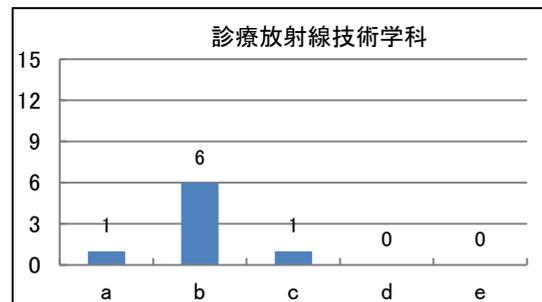
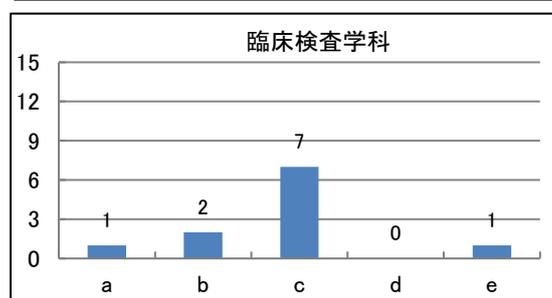
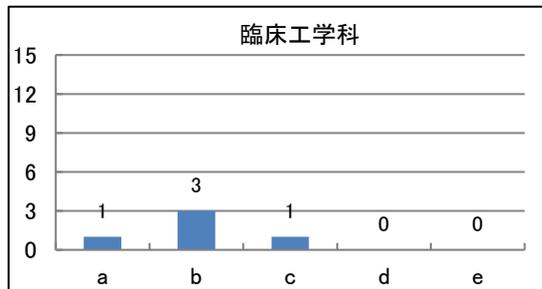
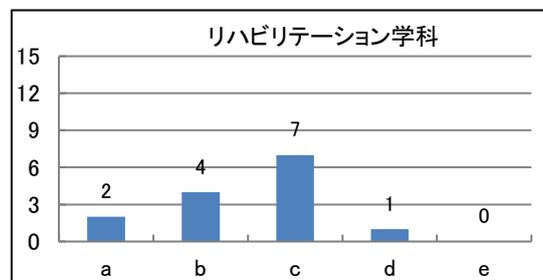
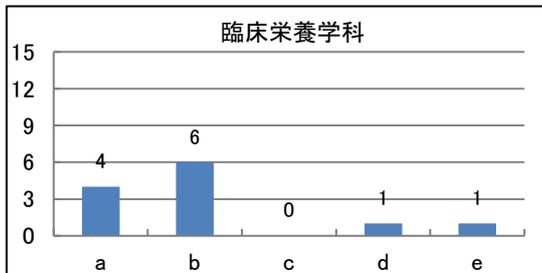
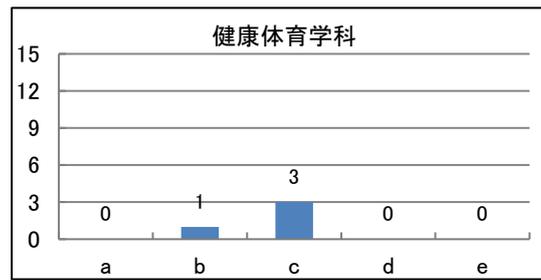
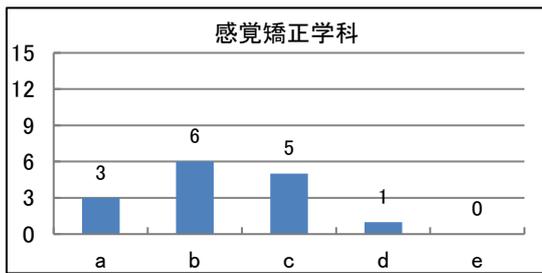
9. Q6 本学が養成しようとする人材像は以下のとおりですが、身につけた能力をどのくらい職場で発揮できていますか。
 [④4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。]

学科	十分発揮 できている	やや発揮 できている	どちらでも ない	やや発揮 できていない	全く発揮 できていない	合計	平均値
	a	b	c	d	e		
医療福祉学科	3	1	4	2	0	10	3.50
臨床心理学科	4	3	1	2	0	10	3.90
保健看護学科	3	10	2	3	0	18	3.72
子ども医療福祉学科	1	2	2	0	0	5	3.80
感覚矯正学科	3	6	5	1	0	15	3.73
健康体育学科	0	1	3	0	0	4	3.25
臨床栄養学科	4	6	0	1	1	12	3.92
リハビリテーション学科	2	4	7	1	0	14	3.50
臨床工学科	1	3	1	0	0	5	4.00
臨床検査学科	1	2	7	0	1	11	3.18
診療放射線技術学科	1	6	1	0	0	8	4.00
医療福祉経営学科	0	0	2	0	1	3	2.33
医療秘書学科	1	1	1	1	0	4	3.50
医療福祉デザイン学科	0	1	0	0	0	1	4.00
医療情報学科	1	1	2	1	0	5	3.40
合計	25	47	38	12	3	125	3.63

学科	差の二乗和					合計
	a	b	c	d	e	
医療福祉学科	6.75	0.25	1.00	4.50	0.00	12.50
臨床心理学科	4.84	0.03	0.81	7.22	0.00	12.90
保健看護学科	4.90	0.77	1.04	8.90	0.00	15.61
子ども医療福祉学科	1.44	0.08	1.28	0.00	0.00	2.80
感覚矯正学科	4.81	0.43	2.69	3.00	0.00	10.93
健康体育学科	0.00	0.56	0.19	0.00	0.00	0.75
臨床栄養学科	4.69	0.04	0.00	3.67	8.51	16.92
リハビリテーション学科	4.50	1.00	1.75	2.25	0.00	9.50
臨床工学科	1.00	0.00	1.00	0.00	0.00	2.00
臨床検査学科	3.31	1.34	0.23	0.00	4.76	9.64
診療放射線技術学科	1.00	0.00	1.00	0.00	0.00	2.00
医療福祉経営学科	0.00	0.00	0.89	0.00	1.78	2.67
医療秘書学科	2.25	0.25	0.25	2.25	0.00	5.00
医療福祉デザイン学科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
医療情報学科	2.56	0.36	0.32	1.96	0.00	5.20
合計	46.79	6.36	15.18	31.96	20.78	121.07

標準偏差	
分散	SD
1.25	1.12
1.29	1.14
0.87	0.93
0.56	0.75
0.73	0.85
0.19	0.43
1.41	1.19
0.68	0.82
0.40	0.63
0.88	0.94
0.25	0.50
0.89	0.94
1.25	1.12
0.00	0.00
1.04	1.02
0.97	0.98



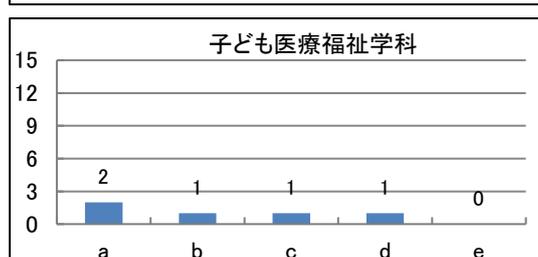
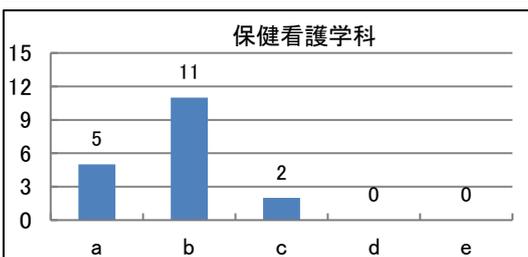
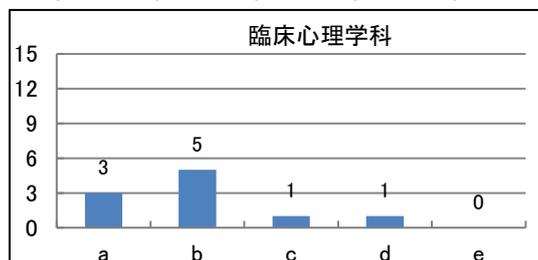
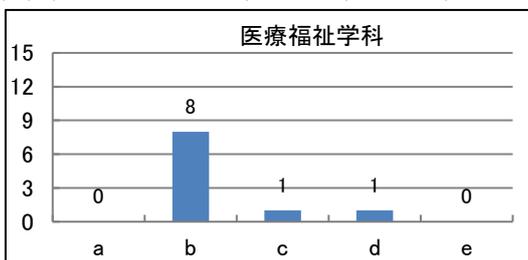


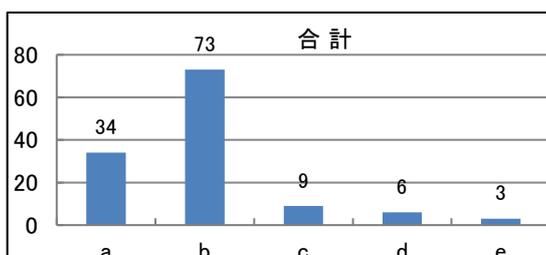
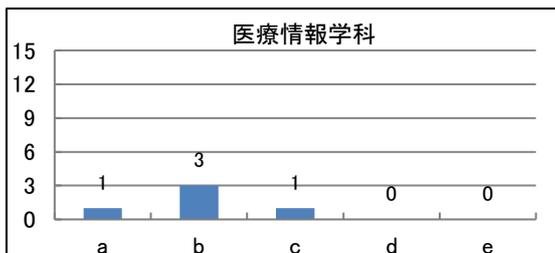
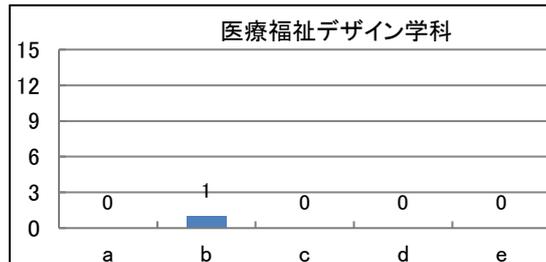
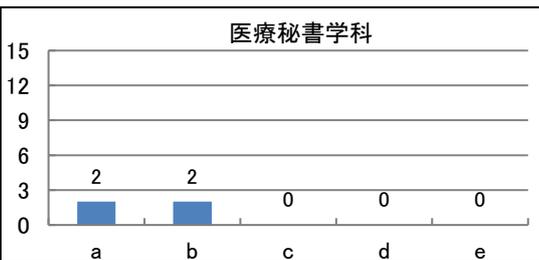
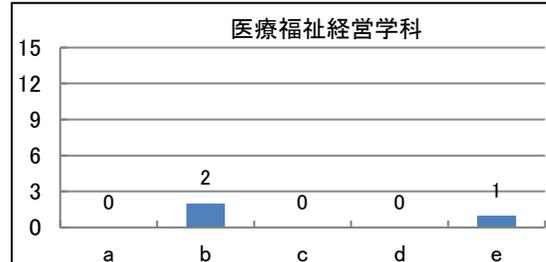
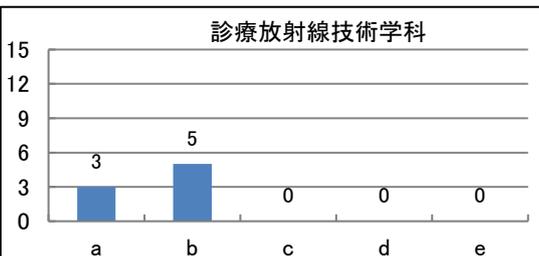
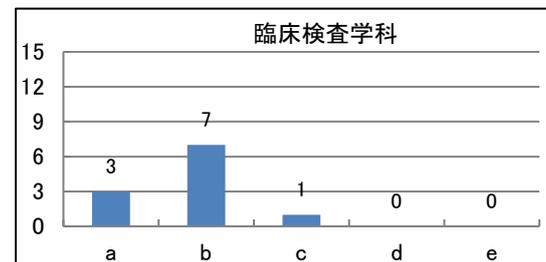
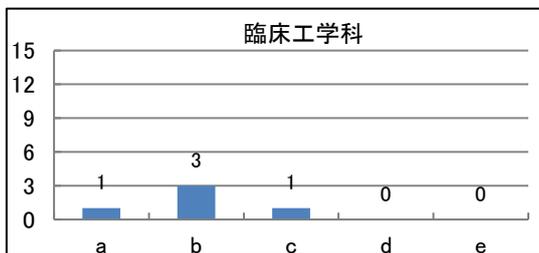
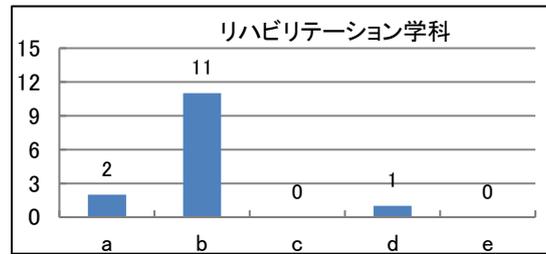
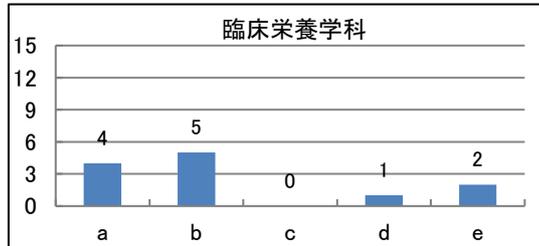
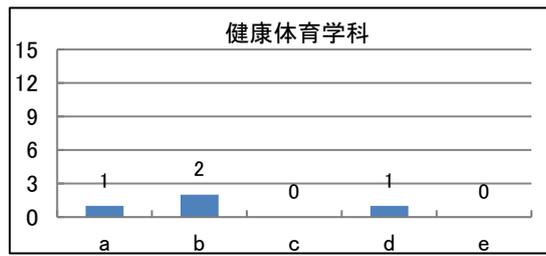
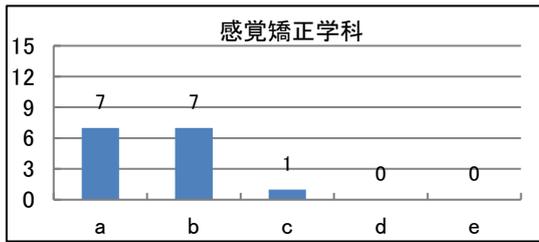
10. Q7 本学での学修は、総合的に判断して職場で役立つものでしたか。

学科	十分役に立っている	どちらかという役に立っている	どちらでもない	どちらかという役に立っていない	全く役に立っていない	合計	平均値
	a	b	c	d	e		
医療福祉学科	0	8	1	1	0	10	3.70
臨床心理学科	3	5	1	1	0	10	4.00
保健看護学科	5	11	2	0	0	18	4.17
子ども医療福祉学科	2	1	1	1	0	5	3.80
感覚矯正学科	7	7	1	0	0	15	4.40
健康体育学科	1	2	0	1	0	4	3.75
臨床栄養学科	4	5	0	1	2	12	3.67
リハビリテーション学科	2	11	0	1	0	14	4.00
臨床工学科	1	3	1	0	0	5	4.00
臨床検査学科	3	7	1	0	0	11	4.18
診療放射線技術学科	3	5	0	0	0	8	4.38
医療福祉経営学科	0	2	0	0	1	3	3.00
医療秘書学科	2	2	0	0	0	4	4.50
医療福祉デザイン学科	0	1	0	0	0	1	4.00
医療情報学科	1	3	1	0	0	5	4.00
合計	34	73	9	6	3	125	4.03

学科	差の二乗和					合計
	a	b	c	d	e	
医療福祉学科	0.00	0.72	0.49	2.89	0.00	4.10
臨床心理学科	3.00	0.00	1.00	4.00	0.00	8.00
保健看護学科	3.47	0.31	2.72	0.00	0.00	6.50
子ども医療福祉学科	2.88	0.04	0.64	3.24	0.00	6.80
感覚矯正学科	2.52	1.12	1.96	0.00	0.00	5.60
健康体育学科	1.56	0.13	0.00	3.06	0.00	4.75
臨床栄養学科	7.11	0.56	0.00	2.78	14.22	24.67
リハビリテーション学科	2.00	0.00	0.00	4.00	0.00	6.00
臨床工学科	1.00	0.00	1.00	0.00	0.00	2.00
臨床検査学科	2.01	0.23	1.40	0.00	0.00	3.64
診療放射線技術学科	1.17	0.70	0.00	0.00	0.00	1.88
医療福祉経営学科	0.00	2.00	0.00	0.00	4.00	6.00
医療秘書学科	0.50	0.50	0.00	0.00	0.00	1.00
医療福祉デザイン学科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
医療情報学科	1.00	0.00	1.00	0.00	0.00	2.00
合計	31.86	0.07	9.59	24.77	27.58	93.87

標準偏差	
分散	SD
0.41	0.64
0.80	0.89
0.36	0.60
1.36	1.17
0.37	0.61
1.19	1.09
2.06	1.43
0.43	0.65
0.40	0.63
0.33	0.57
0.23	0.48
2.00	1.41
0.25	0.50
0.00	0.00
0.40	0.63
0.75	0.87





2022年度既卒生(令和3年度卒業生)アンケート質問項目一覧

Q1【アンケートコード】⇒ 202212 とご入力ください。

Q2【あなたの卒業学科】

医療福祉学部

a 医療福祉学科 b 臨床心理学科 c 保健看護学科 d 子ども医療福祉学科

医療技術学部

e 感覚矯正学科 f 健康体育学科 g 臨床栄養学科 h リハビリテーション学科 i 臨床工学科
j 臨床検査学科 k 診療放射線技術学科

医療福祉マネジメント学部

l 医療福祉経営学科 m 医療秘書学科 n 医療福祉デザイン学科 o 医療情報学科

Q3【現在の状況】

- a 最初の就職先を変更せずに勤務 b 就職先を変更して勤務
c 改めて教育を受けている d 現在は仕事に就いていない

Q4【上記、3の質問で a, b を選択された方に伺います。現在お勤めの施設(企業)の業種は以下のいずれですか。】

- a 医療関係 b 福祉関係 c 一般企業 d 公務員 e その他

Q5【本学で受けた教育について、全体としてどの程度満足していますか。】

- a 大変満足 b まずまず満足 c どちらでもない d やや不満足 e 大変不満足

Q6【本学が養成しようとする人材像は以下のとおりですが、身につけた能力をどのくらい職場で発揮できていますか。】

- ①「幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。」
a 十分発揮できている b やや発揮できている c どちらでもない d やや発揮できていない e 全く発揮できていない
- ②「豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。」
a 十分発揮できている b やや発揮できている c どちらでもない d やや発揮できていない e 全く発揮できていない
- ③「医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。」
a 十分発揮できている b やや発揮できている c どちらでもない d やや発揮できていない e 全く発揮できていない
- ④「4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。」
a 十分発揮できている b やや発揮できている c どちらでもない d やや発揮できていない e 全く発揮できていない

Q7【本学での学修は、総合的に評価して職場で役立つものでしたか。】

- a 十分役に立っている b どちらかという役に立っている c どちらでもない d どちらかという役に立っていない e 全く役に立っていない

Q8【本学の教育に関するご意見や在学生に対するメッセージ(身につけておくべき知識や技術、役に立った科目)などがございましたら、ご自由にお書きください。】



<https://forms.gle/9bTCixZvPMSkCCFU8>

提出締切：2022年12月31日(土)

2022 年度

就職先（2021 年度卒業生）アンケート調査報告

川崎医療福祉大学
FD・SD委員会

本学卒業生を受け入れた就職先に対し、本学卒業生をどのように評価しているかを確認するために、卒業後半年以上経過した時点でアンケート調査を行っている。この調査は、2006 年度より始まり、2018 年度までは 3 年に 1 度の実施であったが（この間に 5 回実施）、2020 年度からは、毎年実施している。アンケート内容については、2021 年度より、それまでの教育目標の達成度から本学のディプロマ・ポリシーの達成度の評価へと変更した。

1. 実施状況

1-1 実施対象と実施方法

2021 年度の卒業生の就職先として対象は 519 施設であった。送達不能が 2 施設あり、計 519 施設（企業）（前回 525 施設）が今回の調査対象であった。本学就職課からの情報に基づき、アンケート依頼は郵送、回答は Google Forms を使用して、オンラインにて実施した。質問項目は巻末の資料 1 の通りであった。

1-2 実施期間

2022 年 12 月 1 日（木）～2022 年 12 月 31 日（土）

2. 実施結果（表 1）

2-1 回収率

就職先からの回収率は 36.17%で、前回（39.62%）と比較するとやや減少した。

2-2 卒業生の人数（Q3）

回答のあった施設（企業）における本学卒業生の勤務者数は 1～5 名の割合が 58.82%と最も多く、次いで 11 名以上が 21.39%、6～10 名 13.90%であった。

2-3 卒業生への満足度（Q4）

回答のあった施設（企業）のうち、本学卒業生に対する満足度は 5 段階評価で平均 4.18（前回 4.19）と比較的高く、医療関係、福祉関係、一般企業及びその他の企業（施設）でも同等程度の評価であった。

2-4 本学のディプロマ・ポリシーの達成度（Q5）

本学のディプロマ・ポリシーのそれぞれの達成度について、5 段階評価で就職先に評価を求めた結果、以下のとおりであった。

なお、本質問項目は昨年度までの教育目標の達成度に代わる質問項目である。

それぞれ平均値を示すと以下のとおりであった。

- ・ Q5-①「幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。」

平均 4.07 であった。

- ・ Q5-②「豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。」

平均 4.02 であった。

- ・ Q5-③「医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。」

平均 3.77 であった。

- ・ Q5-④「4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。」

平均 3.76 であった。

ディプロマ・ポリシー別、職種別に 4.5 以上の高い評価を得た項目、3.0 未満の低い評価を受けた項目はなかった。

3. 自由記述

高評価や期待を述べる施設・企業が多かった。自由記述をまとめたものについては、別途保管する。

4. まとめ

就職先の満足度は概ね高い評価であった。しかしながら、それぞれの質問項目において、どちらでもないと回答した就職先は少なくなく、総合的視点や課題解決力、ならびに専門的な医療福祉人に必要な学力や技術力の達成度を評価できない企業が 3 割弱あったことについては、何らかの対策が必要と考える。

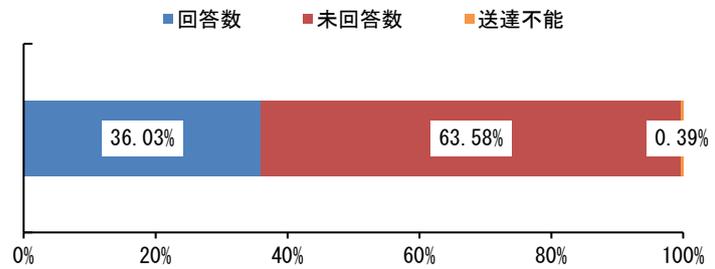
さらに、今回も社会人基礎力（コミュニケーション力や適応力、職業人としての心構え、責任感、マナーなど）の向上の必要性も窺える。継続的に本学への志願者が減少しており、入学生の実力を含めた多様性がさらに大きくなっている。従来の教育方法では十分な教育効果を与えられない学生が増加していることから、引き続き、教育方法の改善につながる取り組みが必要と考えられる。

本学の教育目標を達成するためには、ますます広がりを見せる多様な学生の特徴を見極め、個々の学生に見合った個別最適化された教育こそが、就職先からの高評価につながる唯一の手段である。

表 1

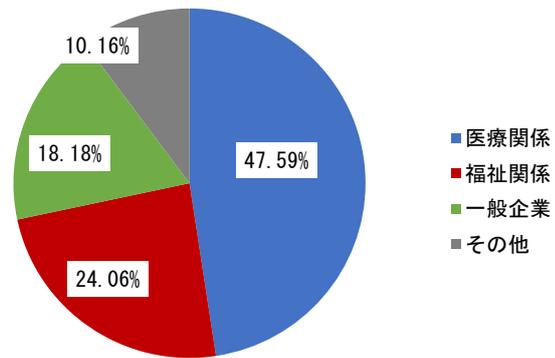
1. 回収率（全体）

配布数	519 通	
回答数	187 通	36.03%
未回答数	330 通	63.58%
送達不能	2 通	0.39%



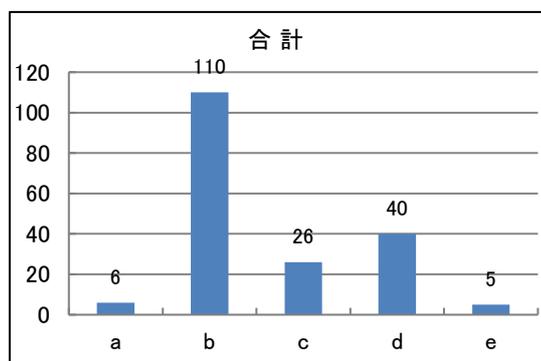
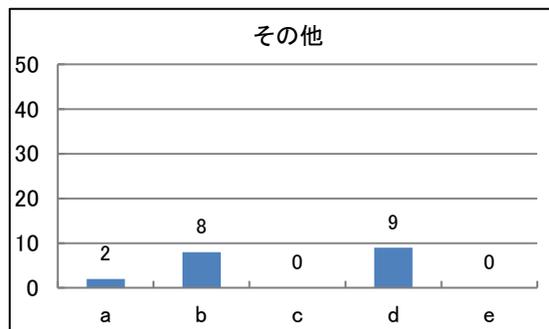
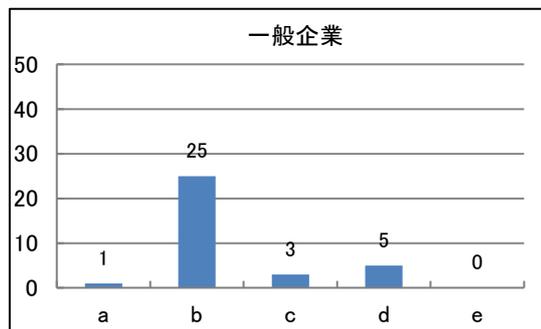
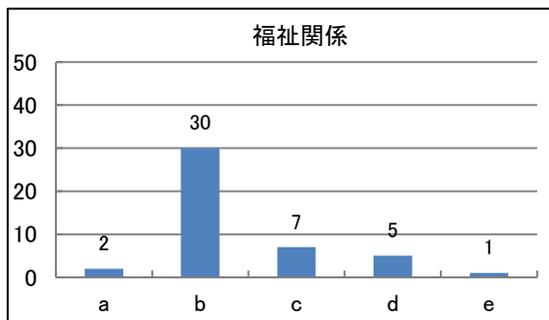
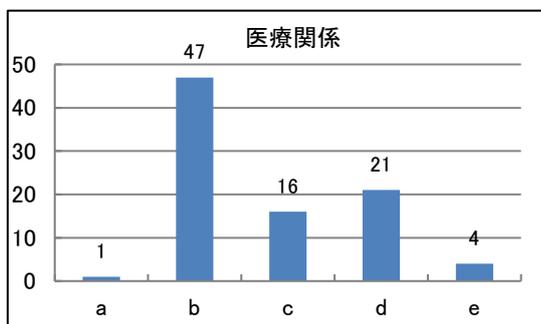
2. Q2 貴施設（貴社）の業種をお教えてください。

学科	回答数	割合
医療関係	89	47.59%
福祉関係	45	24.06%
一般企業	34	18.18%
その他	19	10.16%
合計	187	100.00%



3. Q3 2022年12月1日現在、貴施設（貴社）には本学の卒業生が何人程度勤務していますか。

就職先	0人	1~5人	6~10人	11人以上	よく 分からない	合計
	a	b	c	d	e	
医療関係	1	47	16	21	4	89
福祉関係	2	30	7	5	1	45
一般企業	1	25	3	5	0	34
その他	2	8	0	9	0	19
合計	6	110	26	40	5	187
割合	3.21	58.82	13.90	21.39	2.67	

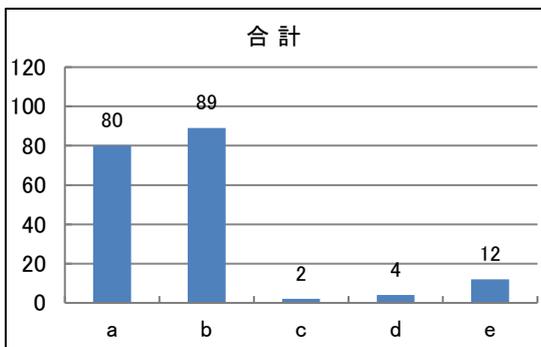
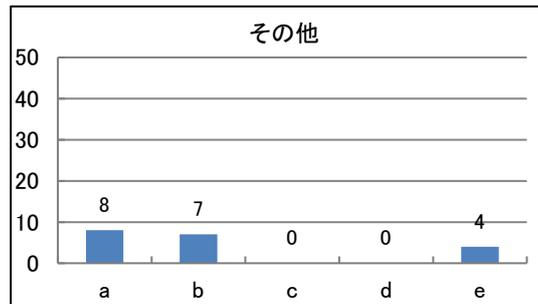
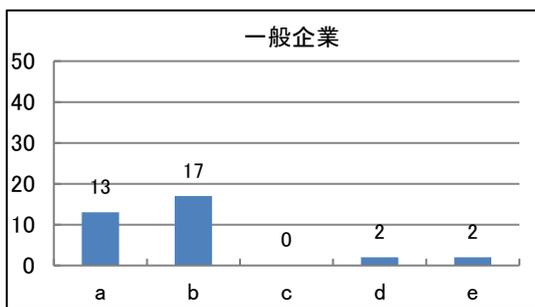
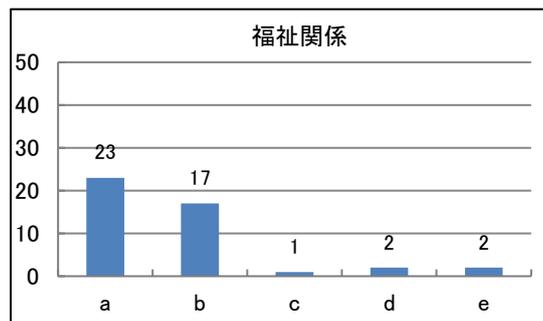
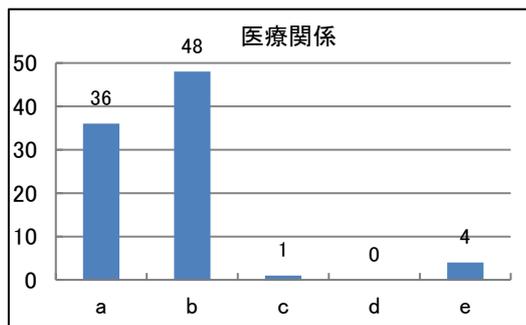


4. Q4 本学卒業生を総合的に評価して、どの程度満足されていますか。

就職先	大変満足	まずまず満足	やや不満足	大変不満足	よく分からない	合計	平均値
	a	b	c	d	e		
医療関係	36	48	1	0	4	89	4.26
福祉関係	23	17	1	2	2	45	4.27
一般企業	13	17	0	2	2	34	4.09
その他	8	7	0	0	4	19	3.79
合計	80	89	2	4	12	187	4.18

就職先	差の二乗和					合計
	a	b	c	d	e	
医療関係	19.80	3.21	1.58	0.00	42.47	67.06
福祉関係	12.37	1.21	1.60	10.28	21.34	46.80
一般企業	10.81	0.13	0.00	8.72	19.07	38.74
その他	11.72	0.31	0.00	0.00	31.12	43.16
合計	53.55	2.94	2.79	19.04	121.49	199.82

標準偏差	
分散	SD
0.75	0.87
1.04	1.02
1.14	1.07
2.27	1.51
1.07	1.03



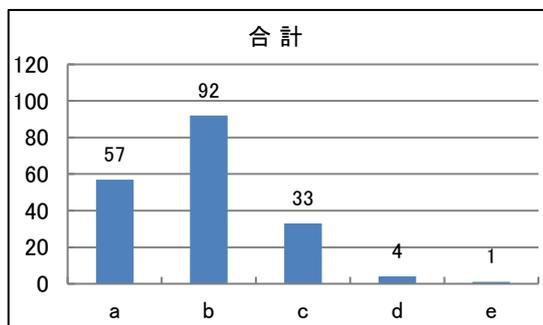
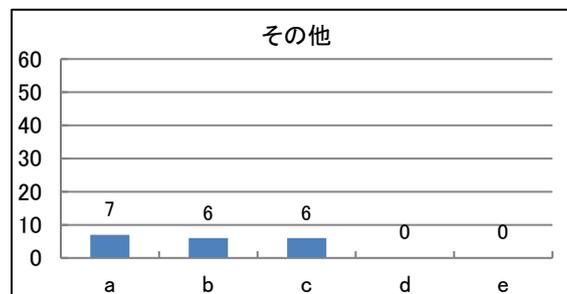
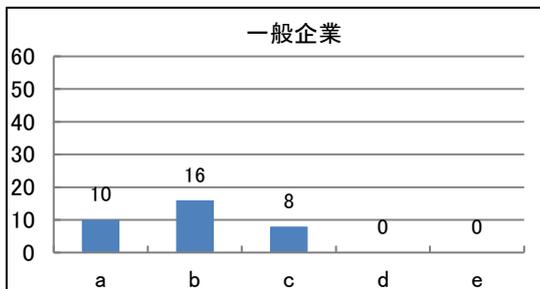
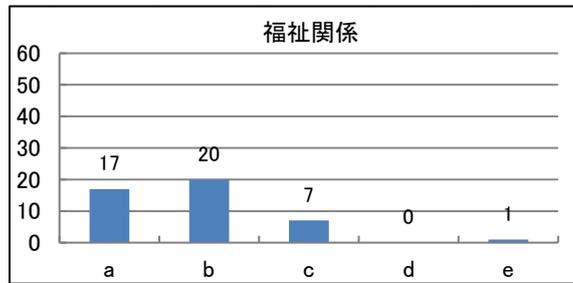
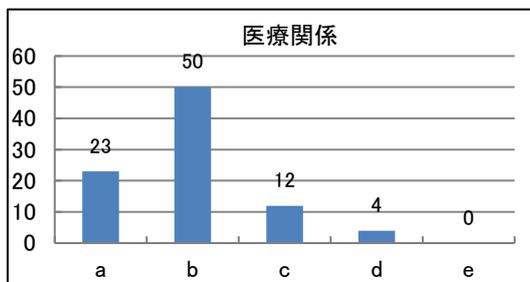
5. Q5 本学が養成しようとする人材像は以下のとおりですが、身につけた能力をどのくらい職場で発揮できていますか。

[①幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。]

就職先	十分発揮 できている	やや発揮 できている	どちらでもない	やや 発揮できていない	全く 発揮できていない	合計	平均値
	a	b	c	d	e		
医療関係	23	50	12	4	0	89	4.03
福祉関係	17	20	7	0	1	45	4.16
一般企業	10	16	8	0	0	34	4.06
その他	7	6	6	0	0	19	4.05
合計	57	92	33	4	1	187	4.07

就職先	差の二乗和					合計
	a	b	c	d	e	
医療関係	21.48	0.06	12.82	16.54	0.00	50.90
福祉関係	12.12	0.48	9.35	0.00	9.96	31.91
一般企業	8.86	0.06	8.97	0.00	0.00	17.88
その他	6.28	0.02	6.65	0.00	0.00	12.95
合計	49.35	0.44	37.75	17.13	9.42	114.10

標準偏差	
分散	SD
0.57	0.76
0.71	0.84
0.53	0.73
0.68	0.83
0.61	0.78



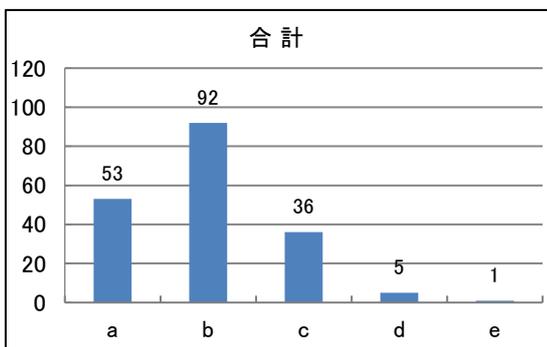
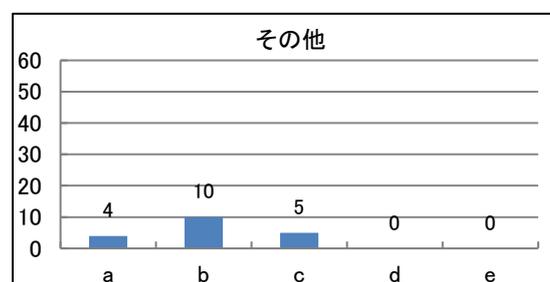
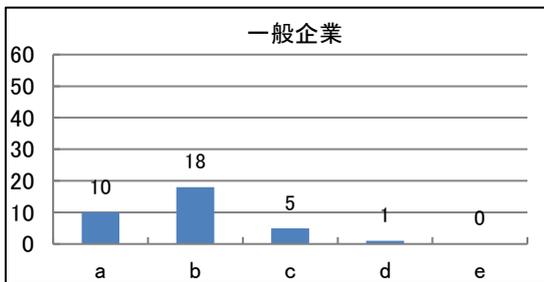
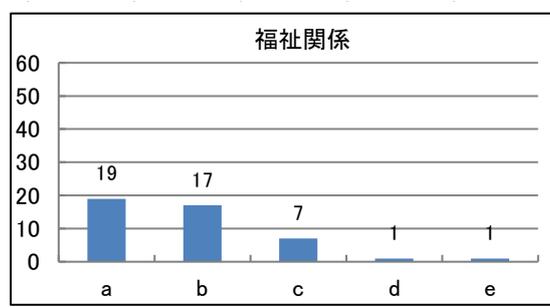
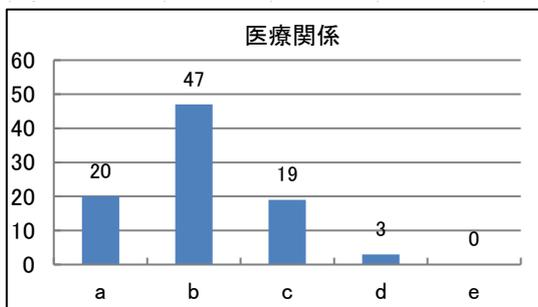
6. Q5 本学が養成しようとする人材像は以下のとおりですが、身につけた能力をどのくらい職場で発揮できていますか。

[②豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。]

	十分発揮 できている	やや発揮 できている	どちらでもない	やや 発揮できていない	全く 発揮できていない	合計	平均値
就職先	a	b	c	d	e		AV
医療関係	20	47	19	3	0	89	3.94
福祉関係	19	17	7	1	1	45	4.16
一般企業	10	18	5	1	0	34	4.09
その他	4	10	5	0	0	19	3.95
合計	53	92	36	5	1	187	4.02

就職先	差の二乗和					合計
	a	b	c	d	e	
医療関係	22.31	0.15	16.93	11.34	0.00	50.72
福祉関係	13.55	0.41	9.35	4.65	9.96	37.91
一般企業	8.31	0.14	5.92	4.36	0.00	18.74
その他	4.43	0.03	4.49	0.00	0.00	8.95
合計	50.76	0.04	37.56	20.43	9.13	117.91

標準偏差	
分散	SD
0.57	0.75
0.84	0.92
0.55	0.74
0.47	0.69
0.63	0.79



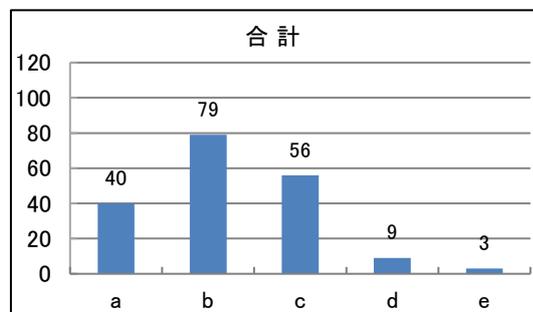
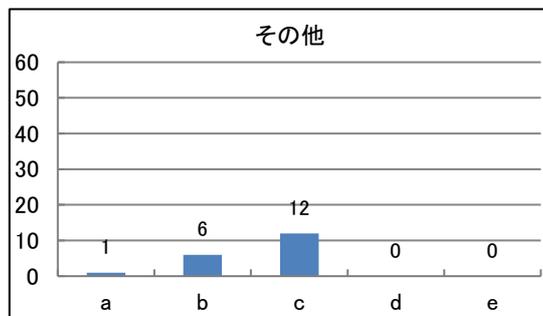
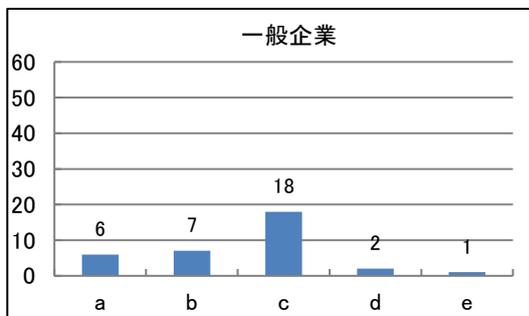
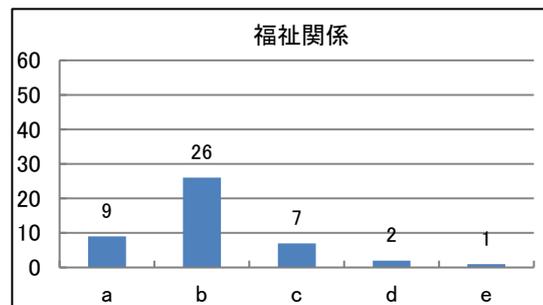
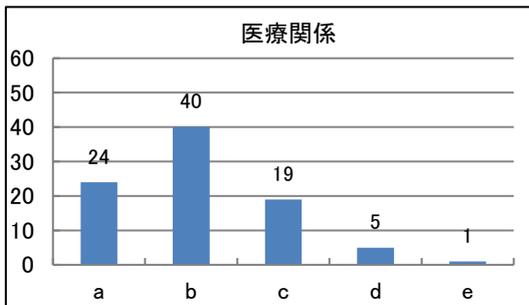
7. Q5 本学が養成しようとする人材像は以下のとおりですが、身につけた能力をどのくらい職場で発揮できていますか。

[③医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。]

就職先	十分発揮 できている	やや発揮 できている	どちらでもない	やや 発揮できていない	全く 発揮できていない	合計	平均値
	a	b	c	d	e		
医療関係	24	40	19	5	1	89	3.91
福祉関係	9	26	7	2	1	45	3.89
一般企業	6	7	18	2	1	34	3.44
その他	1	6	12	0	0	19	3.42
合計	40	79	56	9	3	187	3.77

就職先	差の二乗和					合計
	a	b	c	d	e	
医療関係	28.51	0.32	15.74	18.24	8.47	71.28
福祉関係	11.11	0.32	5.53	7.14	8.35	32.44
一般企業	14.58	2.19	3.50	4.15	5.96	30.38
その他	2.49	2.01	2.13	0.00	0.00	6.63
合計	60.51	4.18	33.21	28.20	23.02	149.11

標準偏差	
分散	SD
0.80	0.89
0.72	0.85
0.89	0.95
0.35	0.59
0.80	0.89



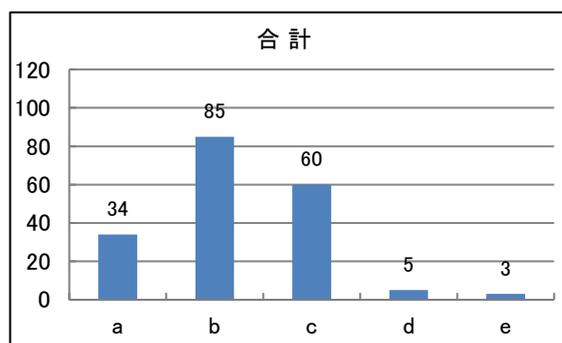
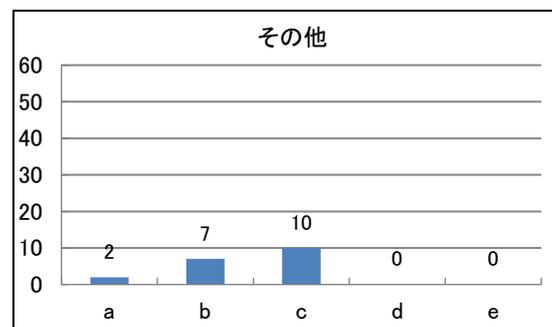
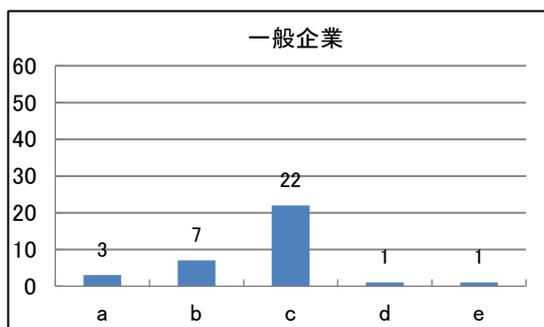
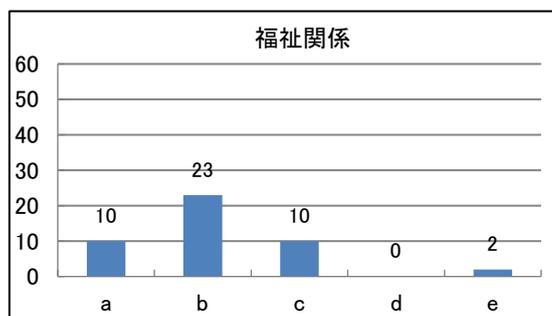
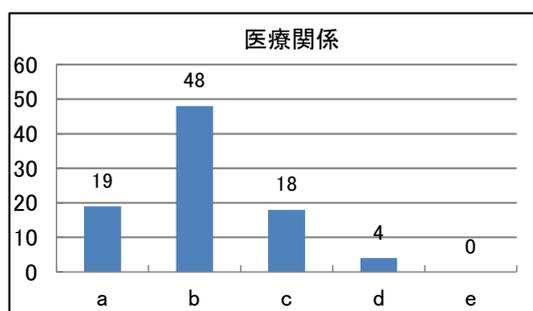
8. Q5 本学が養成しようとする人材像は以下のとおりですが、身につけた能力をどのくらい職場で発揮できていますか。

[④4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。]

就職先	十分発揮 できている	やや発揮 できている	どちらでもない	やや 発揮できていない	全く 発揮できていない	合計	平均値
	a	b	c	d	e		
医療関係	19	48	18	4	0	89	3.92
福祉関係	10	23	10	0	2	45	3.87
一般企業	3	7	22	1	1	34	3.29
その他	2	7	10	0	0	19	3.58
合計	34	85	60	5	3	187	3.76

就職先	差の二乗和					合計
	a	b	c	d	e	
医療関係	22.11	0.30	15.28	14.77	0.00	52.45
福祉関係	12.84	0.41	7.51	0.00	16.44	37.20
一般企業	8.73	3.49	1.90	1.67	5.26	21.06
その他	4.04	1.24	3.35	0.00	0.00	8.63
合計	52.33	4.92	34.60	15.48	22.84	130.17

標準偏差	
分散	SD
0.59	0.77
0.83	0.91
0.62	0.79
0.45	0.67
0.70	0.83



2022年度就職先アンケート質問項目一覧

Q1【アンケートコード】⇒ 202212 とご入力ください。

Q2【貴施設(貴社)の業種をお教えてください。】

- a 医療関係 b 福祉関係 c 一般企業 d その他

Q3【2022年12月1日現在、貴施設(貴社)には本学の卒業生が何人程度勤務していますか。】

- a 0人 b 1～5人 c 6～10人 d 11人以上 e よく分からない

Q4【本学卒業生を総合的に評価して、どの程度満足されていますか。】

- a 大変満足 b まずまず満足 c やや不満足 d 大変不満足 e よく分からない

Q5【本学が養成しようとする人材像は以下のとおりですが、身につけた能力をどのくらい職場で発揮できていますか。】

①「幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。」

- a 十分発揮できている b やや発揮できている c どちらでもない d やや発揮できていない e 全く発揮できていない

②「豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。」

- a 十分発揮できている b やや発揮できている c どちらでもない d やや発揮できていない e 全く発揮できていない

③「医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。」

- a 十分発揮できている b やや発揮できている c どちらでもない d やや発揮できていない e 全く発揮できていない

④「4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。」

- a 十分発揮できている b やや発揮できている c どちらでもない d やや発揮できていない e 全く発揮できていない

Q6【本学の卒業生に対して何かご意見等がございましたら、ご自由にお書きください。】



<https://forms.gle/abnqQHb7kqDayvte9>

提出締切: 2022年12月31日(土)

川崎医療福祉大学 FD・SD委員会

2022 年度

学習成果及び学習行動、環境に関する調査（2022 年度在学学生）
アンケート調査報告

川崎医療福祉大学
FD・SD委員会

本学の学生の学習前後の学習成果を把握し、本学の3つのポリシーを検証する材料とすることを目的として、本年度より「学習成果および学習行動、環境に関する調査」を実施した。従来、学生の学習状況の実態は、「学生生活実態調査」（隔年実施、直近の報告は2021年度※1）が役割を担っていたが、より3つのポリシー及び教学分野に特化した検証を行うために質問項目を精緻化した。また、年次毎の推移を検証していくため、毎年実施するとともに記名式とした。

1. 実施状況

1-1 実施対象と実施方法

2022年度の在学している学部生（以下、在学学生）は合計4,152名であった。

メールにて回答依頼を学生に対して行い、回答はWebclassを使用して、オンラインにて実施した。質問項目および簡易集計結果は巻末の資料1の通りである。

1-2 実施期間

2022年8月3日（水）～2022年8月20日（土）

2. 実施結果

2-1 回収率

アンケートの回収率（回収数／配付数）は39.6%（1,644件）であった。回答者の学年構成は以下の通り。

学年	回答者数	構成比
1年生	558	34%
2年生	432	26%
3年生	336	20%
4年生	318	19%
合計	1644	



2-2 学生の主観評価によるアドミッション・ポリシーの検証（質問1）

アドミッション・ポリシーは入学時においては、本学への入学選抜に臨むにあたっての人物像を、入学後については、本学での学びに対する基本姿勢として持つ必要があるものであり、いずれの設問においてレベル4もしくは5であることが望まれる項目である。実際の回

答もレベル 4 と 5 での回答を占めているが、ごく少数の学生は低いレベルで回答している。アドミッション・ポリシーに関する設問に全てレベル 1 で回答した学生が数名存在し、これら学生の GPA を確認すると、1.9 前後となっており、医療福祉人としての将来への不安や就学意欲の低下が懸念された。

アドミッション・ポリシーのうち、「他の医療福祉人と連携して働くために、チームワークの能力を備えている人」については、レベルを 4 と回答した学生が最も多くなっており、他のアドミッション・ポリシーと回答分布が異なった。2022 年度より基礎教育必修科目である「医療福祉学概論」に多職種連携に関するグループワークの導入が予定されており、来年以降の調査で改善が期待される。

学年別の傾向を別表 1 に示す。1 年生は他の学年より高いレベルを回答した学生が多いが、その他学年による傾向の差は見受けられない。

2-3 学生の主観評価によるカリキュラム・ポリシーの検証（質問 2、3、5）

自分の所属学科のカリキュラム（科目や科目の配置、科目の量）への満足度を確認したところ、満足が 37%、やや満足が 44%と合せて 81%であり、概ね満足している状況が確認された。カリキュラムへの要望事項は、資格対策の充実と、ボランティア活動などの授業によらない課外活動への単位認定への要望が多く見受けられた。

科目の配置については、1 週間当たり 21～30 時間（1 日当たり概ね 3～4 コマ）の授業がある学生が 40%と最も多くなっており、これは令和元年度に文部科学省が実施した「全国学生調査（試行実施）」※2において、最多回答であった「1 週間当たり 11～15 時間（1 日当たり概ね 1～2 コマ）」と比較すると、全国の大学平均よりも多くの科目が配置されていることが示唆された。

2-4 学生の主観評価によるディプロマ・ポリシーの検証（質問 4、5、6、7、8）

授業に対して臨む態度を問うた質問 4（複数選択式）では、最も高かった項目が「4. 出された課題やレポートを、良いものに仕上げようと努力している」が 59%となっており、「2021 年度学生生活実態調査※1」と同傾向であると同時に、56.7%→59%とわずかながら増加している。その他項目では、「受講の際に、前もってシラバスを確認している」が 13.7%→34%、「授業でわからなかったことは、自分で調べてみる」の項目が 30.9%→42%と大きく増加しており、学生が主体的に学ぶ姿勢が順調に醸成されていることが示唆された。一方、「予習をしたうえで毎回の授業に臨んでいる」は 2.1%→6%と、増加はしているものの、全体割合からすれば微増であり、後述の質問 6 と同様、課題とすべきであろう。

質問 6 では授業以外での自己学習時間を問うた質問であるが、時間数としては最も少ない選択肢である 1 週間当たり 1～5 時間の学生が 34%と最多となった。本学の「2021 年度学生生活実態調査※1」においても同様の傾向であり、改善しているとは言い難い状況である。「全国学生調査（試行実施）」も同様に 1 週間当たり 1～5 時間の学生が 54%と最も多くを占めており、他大学においても同様の課題が存在するものと考えられる。

質問 7 の自身が自由に使用することができる時間を確認する限りは、自己学習時間の確保は可能と考えられ、単位制度の実質化を図る上でも学生の自己学習時間増加に向けた大学内

学習環境の整備や、予習・復習教材の指示、提供等の改善に向けた施策が必要である。

質問 8 では、ディプロマ・ポリシーに定められた養成人材像に対する現時点での自身の達成状況について 5 段階で自己評価させた。全てのディプロマ・ポリシーについて、レベル 4 と回答した学生が最も多い状況ではあるが、元来ディプロマ・ポリシーは卒業時に充足を目指すものであり、正しい傾向といえる。

学年別の傾向を別表 1 に示すが、学年による傾向の差は見受けられない。しかし、前述のディプロマ・ポリシーの性質から考えると、3・4 年生でレベル 4 と 5 が増えることが望ましく、到達目標を明示することによって成長実感を持たせるなど、学生の授業満足度向上に向けたアプローチの必要性が示唆された。2022 年度より試験稼働予定のポートフォリオシステムに期待が寄せられる。

2-5 学生の ICT 利用環境の状況（質問 10、11）

学習に使用できる電子機器の所有状況については、回答者のうち、約 90%の学生がノートパソコン（キーボードが付属しているタブレット端末含む）を所有していた。通信回線においても固定回線を整備している学生が 73%と、2020 年度からの遠隔授業を経て通信回線を整備した学生が多いものと推測される。

以上から授業の ICT 化、ペーパーレス化を行うための基盤はほぼ整っているものと判断される。今後は「道具」ではなく「手法」、つまり教員側の教育方法や学生側の学習方法のデジタルトランスフォーメーションが求められる。

【学年別の電子機器の所有率】

電子機器	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	総計
ノートパソコン	94%	91%	86%	86%	90%
デスクトップパソコン	6%	5%	9%	5%	6%
タブレット端末	14%	15%	18%	18%	16%
スマートフォン	84%	83%	80%	75%	81%
上記に該当する機器を所持していない	0.2%	0.5%	0.0%	0.6%	0.3%

【学年別の通信回線保有率】

回線種別	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	総計
固定回線	72%	73%	75%	70%	73%
データ容量制限なしのスマートフォン	28%	29%	24%	23%	27%
データ容量制限ありのスマートフォン	39%	32%	38%	39%	37%
上記に該当する機器を所持していない	0.7%	0.5%	0.6%	1.6%	0.8%

2-6 学生からの環境整備への要望事項（質問 9、12、13）

質問 9 では、学生が自習する場所を確認した。自宅での自習を中心としながらも、大学図書館や各階ラウンジなどの大学内施設の利用が多く見受けられた。

その傾向から、質問 12 および 13 の自由記述形式での施設整備の要望では、自習のため

の大学内施設の充実を望む声が多数寄せられた。また、福利厚生施設としての学生ラウンジの充実、カフェスペースの設置、充電スポットの整備などが多く要望として寄せられた。ペーパーレス化に伴う電子デバイスの利用促進にあたり、現在未整備である充電スペースの整備については、優先度が高いものと考えられる。

自由記述の記載では空調に関する要望が 35 件と多く、多くの学生が不満を持っていることが分かる。教室側で空調が任意にコントロールできない、空調による室温調整が十分ではないなど、本学設備の根幹部分の改修・更新が必要な内容のため、早期の解決は難しいが、学生の不満が最も多い内容であることは認識しておかなくてはならない。

その他の項目では Wi-Fi 環境の改善に関する内容が多く寄せられた。いずれも Wi-Fi 回線の不安定さを指摘する声であり、ネットワーク機器やアクセスポイント、認証方式などの見直しが必要と考えられる。

講義資料のペーパーレス化については、印刷費用のコスト負担を不満としてあげる声が大きく、学生側の学習方法と、教員側の教授方法双方のデジタルトランスフォーメーションを早急に進める必要性を強く感じられる内容である。

3. まとめ

今年度初めて実施した本調査であるが、質問の精緻化、記名式への変更、毎年度実施という形態から、来年度以降も本学の 3 つのポリシーと教学に関する PDCA サイクルをまわしていくための貴重なデータとなった。特に大学教育の受益者である学生の主観の視点で、3 つのポリシーの学生の認識を把握出来た点は、本学の教育活動の改善に大きく寄与するものと考えられる。

既存調査の「2021 年度学生生活実態調査※1」と比較できた項目（学習への取り組み態度、自己学習時間）においては、昨年度から改善が見られた項目もあり、シラバスの内容の整理や教員の意識の変化により、教学の改善は順調に進捗しているものと考えられるが、単位制度の実質化にはまだ不十分と考えられるため、引き続き改善に向けての取り組みが必要である。

※1 2021 年度学生生活実態調査報告書 2022/9/1 参照

https://w.kawasaki-m.ac.jp/visitor/student/pdf/stu-2021_life.pdf

※2 文部科学省 令和元年度「全国学生調査（試行実施）」結果 2022/9/1 参照

https://www.mext.go.jp/content/20200618-mxt_koutou01-000001987_03.xlsx

アドミッション・ポリシー

ポリシー	レベル※	1年生	2年生	3年生	4年生	総計
AP1. 医療や福祉の分野で活躍するために、その知識と技術を修得する意欲のある人	1	3	8	3	5	19
	2	7	9	8	12	36
	3	46	50	50	28	174
	4	168	159	109	99	535
	5	334	206	166	174	880
AP2. 病気や障がいのある人の気持ちを理解するとともに、その苦悩に共感できる人	1	3	5	1	2	11
	2	4	6	4	3	17
	3	42	59	34	23	158
	4	171	140	122	117	550
	5	338	222	175	173	908
AP3. 社会人としての良識や倫理観を身につけ、社会に貢献したいと願っている人	1		4	1	3	8
	2	3	3	6	5	17
	3	30	50	37	11	128
	4	176	152	101	97	526
	5	349	223	191	202	965
AP4. 他者の言葉に耳を傾け、適切に説明できるといふコミュニケーション能力を持つために努力する人	1		3	1	1	5
	2	6	6	7	3	22
	3	49	46	40	23	158
	4	193	183	114	114	604
	5	310	194	174	177	855
AP5. 他の医療福祉人と連携して働くために、チームワークの能力を備えている人	1	2	2	2	4	10
	2	17	22	19	9	67
	3	98	93	77	48	316
	4	228	170	126	137	661
	5	213	145	112	120	590

ディプロマ・ポリシー

ポリシー	レベル※	1年生	2年生	3年生	4年生	総計
DP1. 幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。	1	10	8	7	3	28
	2	38	37	31	23	129
	3	180	141	100	78	499
	4	226	177	134	140	677
	5	104	69	64	74	311
DP2. 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。	1	5	2	7	5	19
	2	43	31	25	15	114
	3	165	131	92	75	463
	4	224	198	145	145	712
	5	121	70	67	78	336
DP3. 医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。	1	10	4	5	4	23
	2	45	42	35	18	140
	3	187	153	94	93	527
	4	211	162	137	134	644
	5	105	71	65	69	310
DP4. 4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。	1	22	7	10	6	45
	2	66	61	42	27	196
	3	187	143	84	82	496
	4	173	151	136	131	591
	5	110	70	64	72	316

※レベル1が最もネガティブで、レベル5が最もポジティブな自己評価を示している。

資料1

令和4年度 学習成果及び学習行動、環境に関する調査_結果

2022.9.5

実施期間：2022年8月3日（水）～8月20日（土）

対象者数：4,152人

回答者数：1,644人（1年次558人、2年次432人、3年次336人、4年次318人）

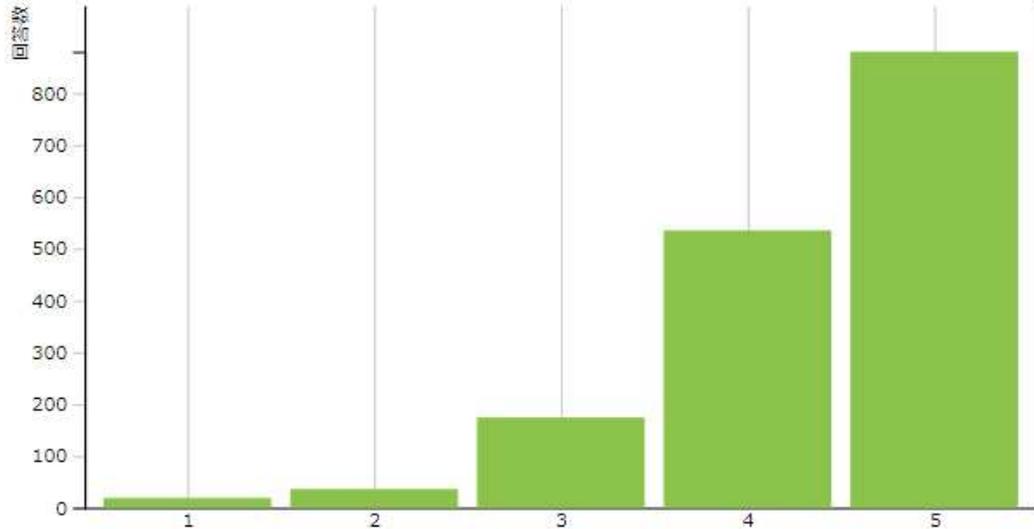
回答率：39.6%

質問1.川崎医療福祉大学では以下の学生を入学者として求めていると同時に、大学が養成しようとしている人材の基本姿勢として定めています（アドミッションポリシー）。あなたの現時点での学びへの姿勢について5段階で自己評価してください。

① 医療や福祉の分野で活躍するために、その知識と技術を修得する意欲のある人

高 意欲がある

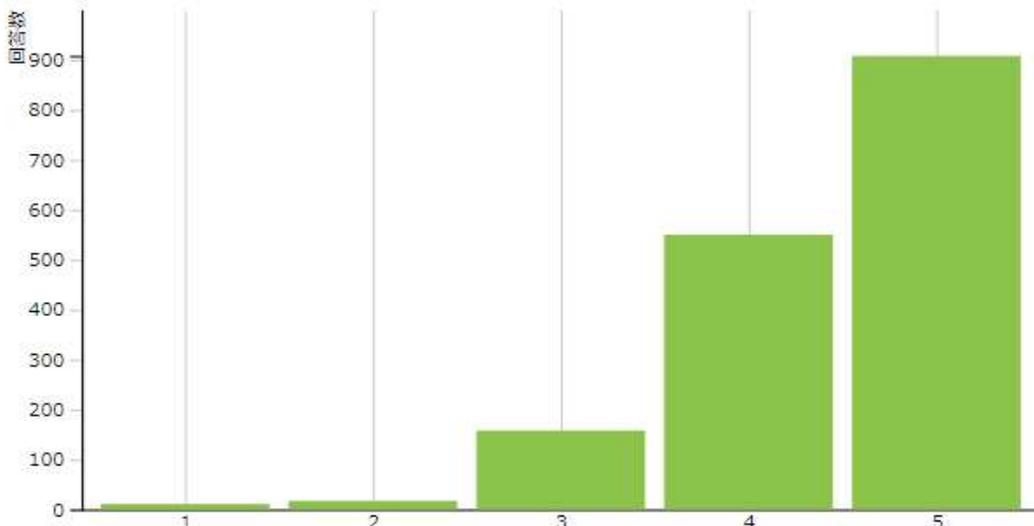
低 意欲がない



② 病気や障がいのある人の気持ちを理解するとともに、その苦悩に共感できる人

高 共感できる

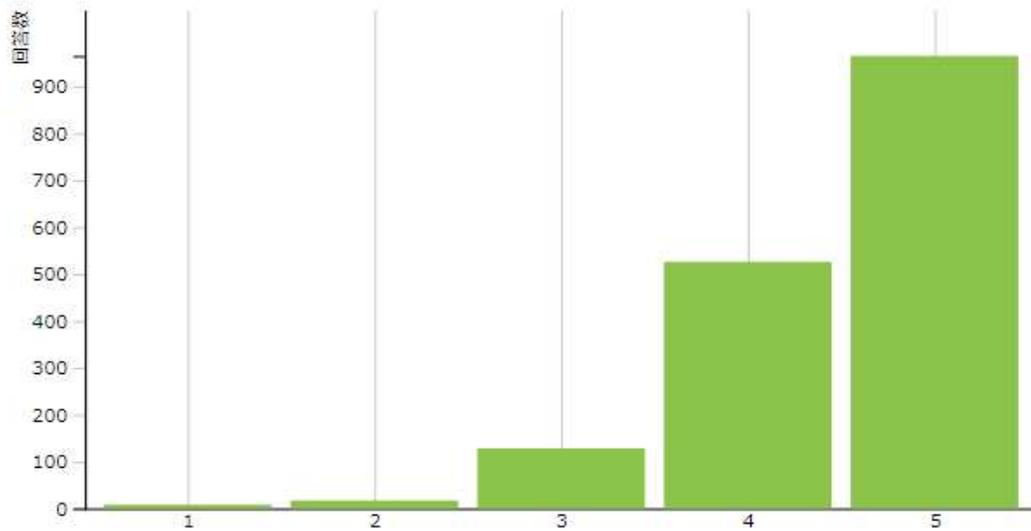
低 共感できない



③ 社会人としての良識や倫理観を身につけ、社会に貢献したいと願っている人

高 貢献したいと思う

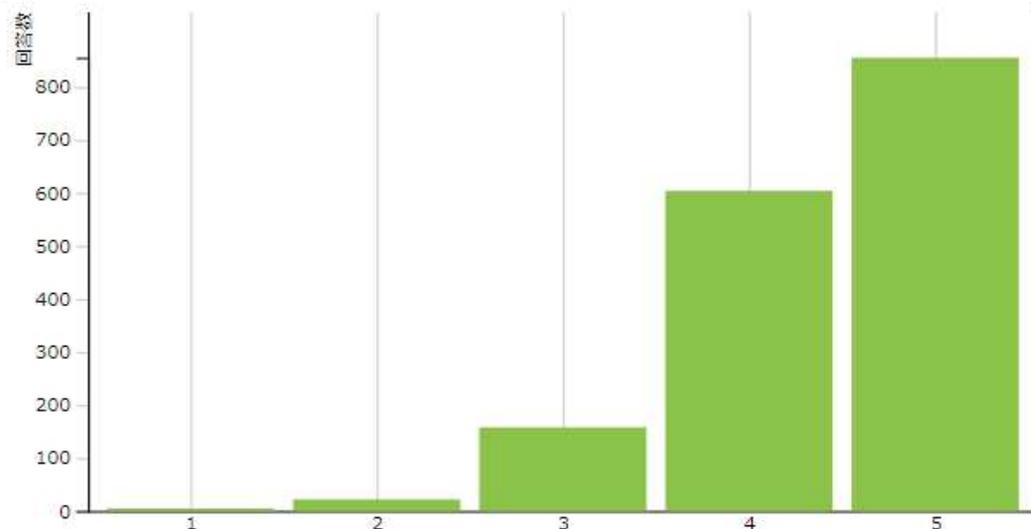
低 貢献したいと思えない



④ 他者の言葉に耳を傾け、適切に説明できるというコミュニケーション能力を持つために努力する人

高 努力している

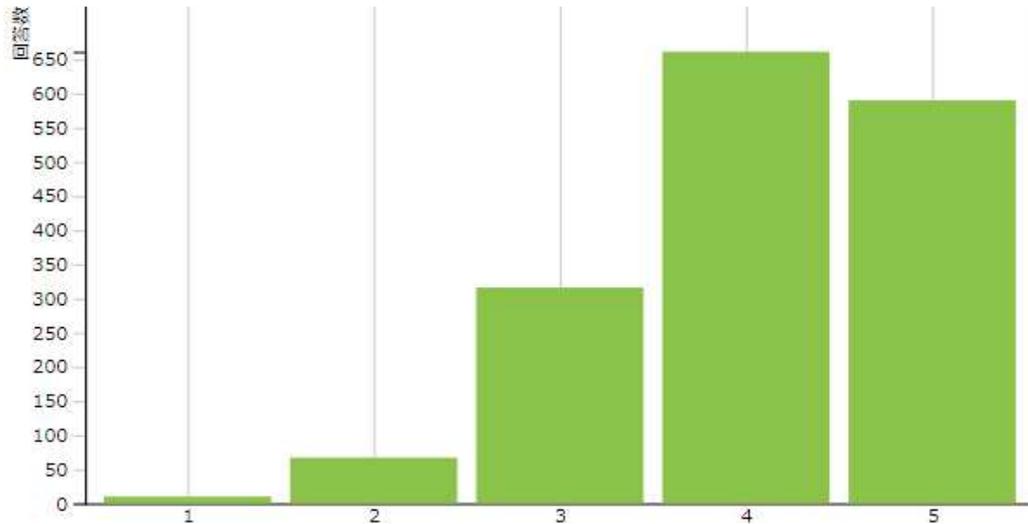
低 努力していない



⑤ 他の医療福祉人と連携して働くために、チームワークの能力を備えている人

高 能力を備えている

低 能力を備えていない



質問 2. 自分の所属学科のカリキュラム（科目や科目の配置、科目の量）に満足していますか。

1. 満足	598	37%
2. やや満足	714	44%
3. どちらでもない	239	15%
4. やや不満	78	5%
5. 不満	15	1%

質問3.カリキュラムに対して要望はありますか。あてはまるものすべてを選択してください。

1. 基礎教育科目へのS TEAM科目（科学/技 術/工学/芸術/数学） の充実	233	15%
2. ICT・数理・データサ イエンス科目の充実	124	8%
3. 基礎教育科目への語 学教育科目の充実	176	11%
4. 短期留学を含む国際 交流科目の充実	163	10%
5. キャリア教育科目の充 実	164	10%
6. 能動的学修授業（ア クティブラーニング）の充実	119	8%
7. 学外活動（ボランティ ア等）単位認定	404	25%
8. インターンシップの単位 認定、科目設定	174	11%
9. 資格試験対策の充実	695	43%
10. リメディアル教育 （不足している基礎学力を 補うために行われる教育） の充実	260	16%

質問4 授業に対して、どのような態度で取り組んでいますか。あてはまるものすべてを選択してください。

1. 受講の際に、前もってシラバスを確認している	544	34%
2. 興味がわくかどうかにかかわらず、集中して受講している	770	47%
3. グループワークやディスカッションなど自分の意見を述べる機会がある場合は、積極的に発言している	402	25%
4. 出された課題やレポートを、良いものに仕上げようと努力している	959	59%
5. 予習をしたうえで毎回の授業に臨んでいる	87	6%
6. 授業が終わったらそのつど復習している	248	16%
7. 授業でわからなかったことは、自分で調べてみる	684	42%
8. 授業で興味をもったことについて、自主的に勉強する	347	22%
9. 授業に関する事柄を、授業時間外でも教員に質問する	177	11%
10. 上記にあてはまるものはない	46	3%

質問5. 授業の受講時間※は、1週間（7日間）でどれくらいですか。

※単位化された全ての授業。講義、演習、実験、卒業研究、実習、学外実習等の正課授業



質問6. 授業時間以外でのふだんの自己学習時間は、1週間（7日間）でどれくらいですか。（定期試験用の自己学習ではなく、ふだんの自己学習についてお答えください。）



質問 7. 自分が睡眠時間以外でアルバイト・部活・趣味・休養等の学業以外に自由に使うことができる時間は、1 週間（7 日間）でどれくらいですか。

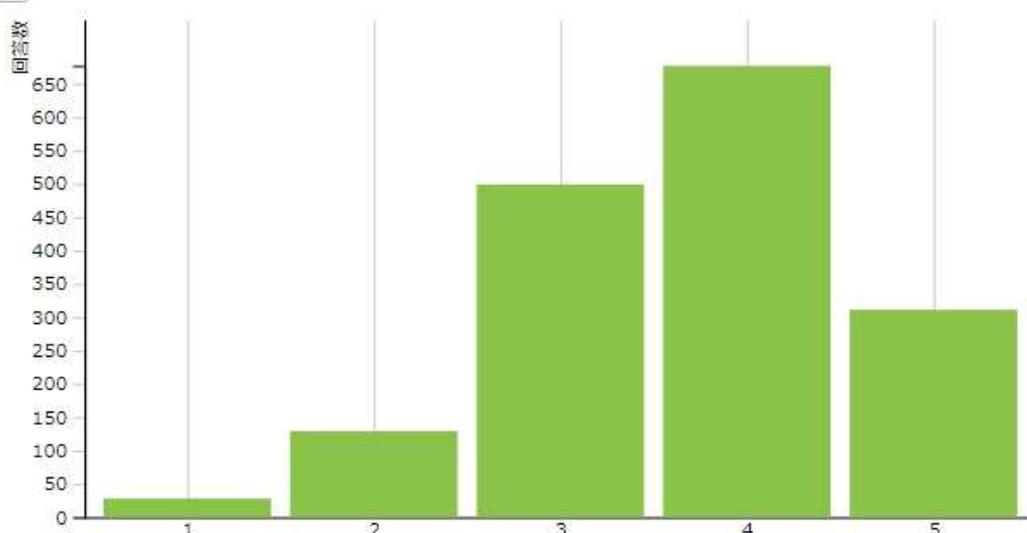


質問 8. 大学が養成しようとする人材像（ディプロマポリシー）は以下のとおりですが、現時点での自身の達成状況について5段階で自己評価してください。

① 幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。

高 達成できている

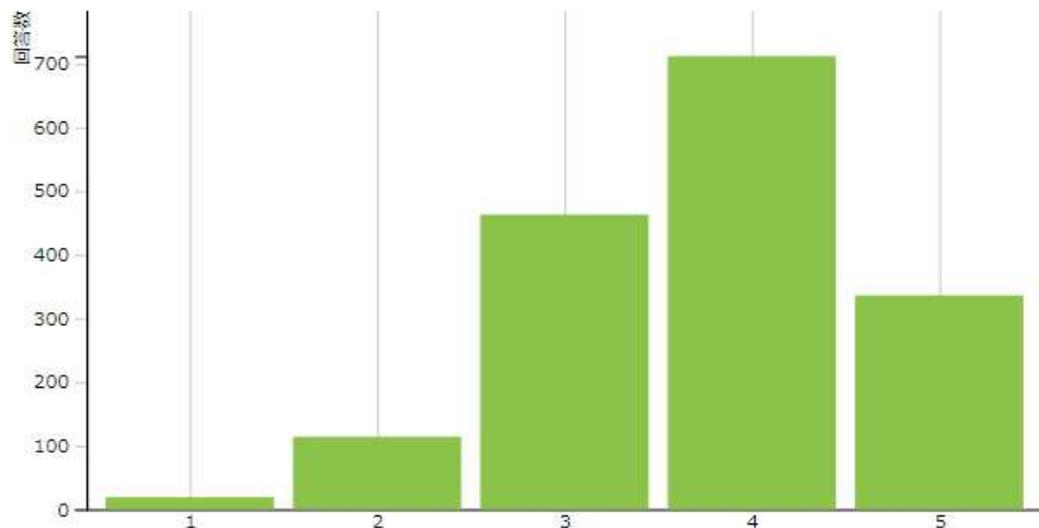
低 達成できていない



② 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。

高 達成できている

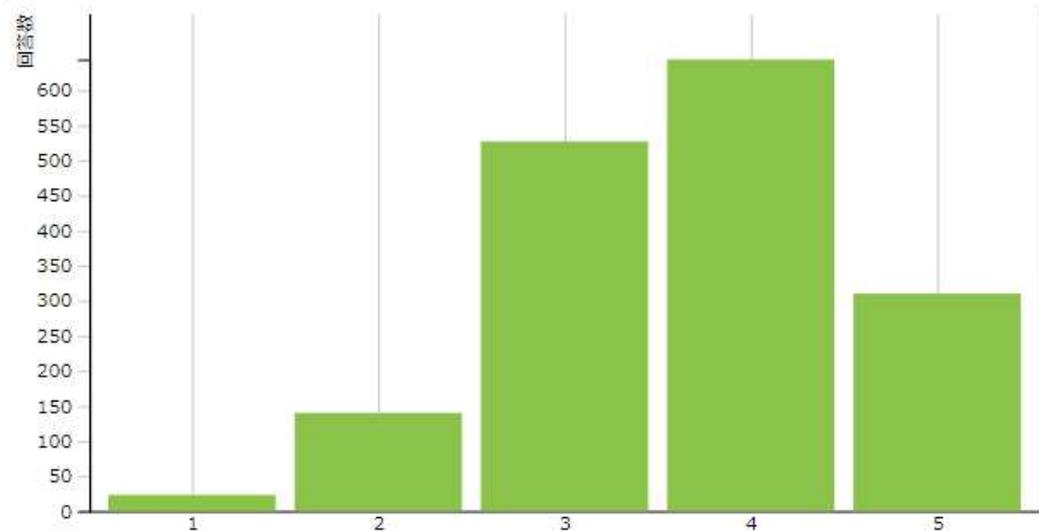
低 達成できていない



③ 医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。

高 達成できている

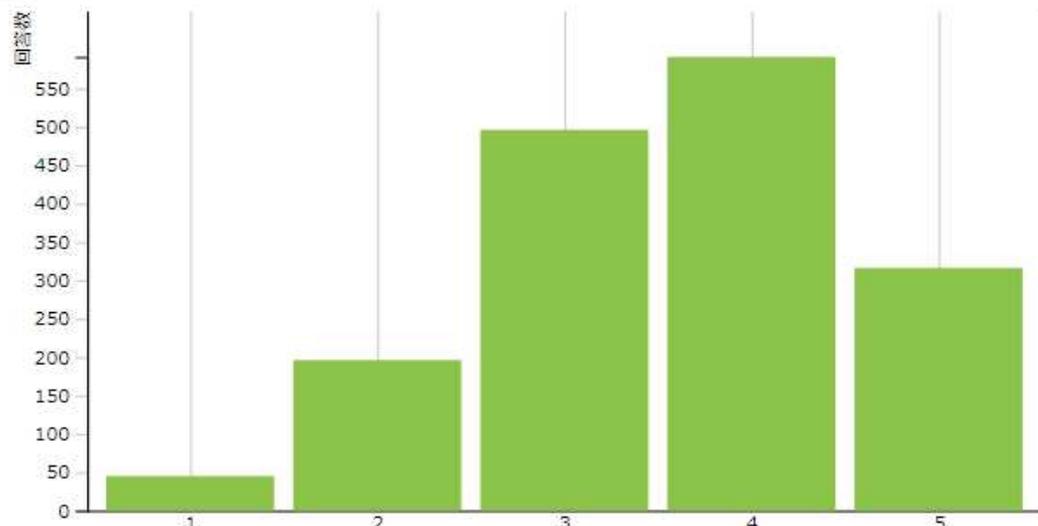
低 達成できていない



④ 4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。

高 達成できている

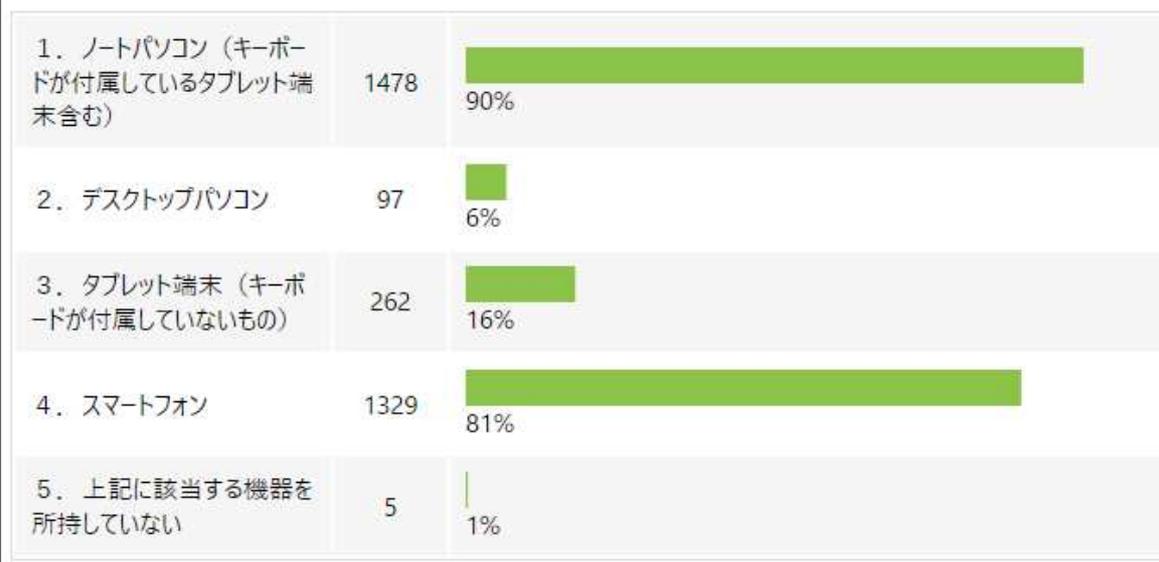
低 達成できていない



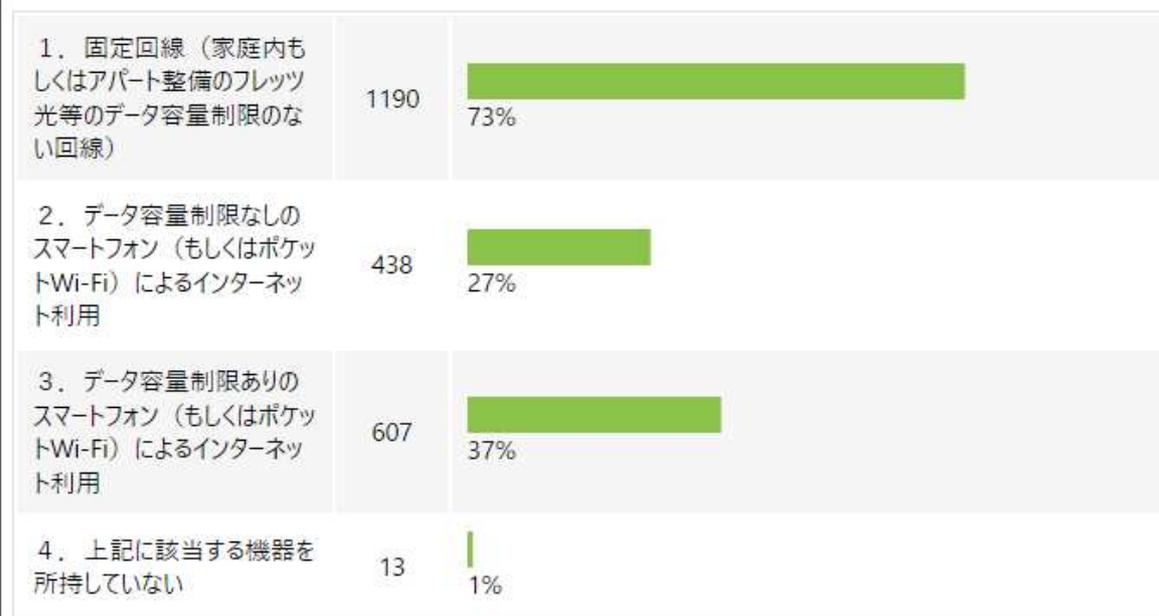
質問9. 授業時間以外での自己学習は、どこでしますか。該当する場所すべてを選択してください。

1. 自宅	1512	92%
2. 大学図書館	663	41%
3. 各階ラウンジ	606	37%
4. 5 F L S C (ラーニングサポートセンター)	139	9%
5. 8 F 資格対策演習室 (8101~8104)	21	2%
6. 学科教員が準備した自習用の講義室・実習室	162	10%
7. その他 (友人宅・公共施設など)	250	16%
8. 授業時間以外の勉強はしていない	17	2%

質問 10. 学習に使用できる自分専用のパソコン等の電子機器を所持していますか。
所持している機器すべてを選択してください。



質問11. 学習に使用できるインターネット接続環境が有りますか。該当するものすべてを選択してください。（大学に通うために一人暮らしをしている場合は、実家の環境ではなく、一人暮らしをしている家での状況を回答してください。）



質問12. 大学の学習環境整備への要望はありますか。あてはまるものすべてを選択してください。

1. 静かに学習できるスペースの拡充	872	54%
2. 現在よりも遅い時間まで自習で使用することができるスペースの整備	503	31%
3. グループワークを可能とする設備（プロジェクター、ホワイトボード、移動可能机等）を備えた自習スペース	217	14%
4. 学生ラウンジ等のリラックススペースの拡充	631	39%
5. コーヒーショップ等のカフェスペース	761	47%
6. 電子機器の充電スペース	742	46%
7. パソコンやプリンターなどが自由に利用できるスペース	735	45%
8. 学生による展示スペース	29	2%
9. その他	76	5%

実施期間：2022年8月3日（水）～8月20日（土） ※未回答者への督促計3回

			8月8日		8月9日		8月17日		8月22日 最終結果	
	年次	対象者	回答者	回答率	回答者	回答率	回答者	回答率	回答者	回答率
福) 福祉) 医療福祉学科	1年次	50	5	10.0%	13	26.0%	22	44.0%	26	52.0%
	2年次	83	5	6.0%	17	20.5%	21	25.3%	25	30.1%
	3年次	81	6	7.4%	16	19.8%	25	30.9%	30	37.0%
	4年次	94	4	4.3%	9	9.6%	14	14.9%	17	18.1%
		308	20	6.5%	55	17.9%	82	26.6%	98	31.8%
福) 福祉) 臨床心理学科	1年次	64	12	18.8%	24	37.5%	31	48.4%	31	48.4%
	2年次	87	8	9.2%	20	23.0%	36	41.4%	40	46.0%
	3年次	99	13	13.1%	24	24.2%	30	30.3%	32	32.3%
	4年次	103	8	7.8%	16	15.5%	24	23.3%	29	28.2%
		353	41	11.6%	84	23.8%	121	34.3%	132	37.4%
福) 福祉) 子ども医療福祉学科	1年次	47	2	4.3%	9	19.1%	15	31.9%	17	36.2%
	2年次	68	3	4.4%	8	11.8%	9	13.2%	11	16.2%
	3年次	82	2	2.4%	8	9.8%	11	13.4%	15	18.3%
	4年次	76	3	3.9%	12	15.8%	17	22.4%	19	25.0%
		273	10	3.7%	37	13.6%	52	19.0%	62	22.7%
福) 看護) 保健看護学科	1年次	128	26	20.3%	53	41.4%	78	60.9%	85	66.4%
	2年次	128	15	11.7%	32	25.0%	41	32.0%	47	36.7%
	3年次	130	11	8.5%	24	18.5%	40	30.8%	50	38.5%
	4年次	133	14	10.5%	24	18.0%	43	32.3%	47	35.3%
		519	66	12.7%	133	25.6%	202	38.9%	229	44.1%
福) リハ) 理学療法学科	1年次	82	35	42.7%	43	52.4%	52	63.4%	54	65.9%
	2年次	66	27	40.9%	30	45.5%	34	51.5%	35	53.0%
	3年次	62	4	6.5%	6	9.7%	15	24.2%	15	24.2%
	4年次	78	15	19.2%	15	19.2%	22	28.2%	24	30.8%
		288	81	28.1%	94	32.6%	123	42.7%	128	44.4%
福) リハ) 作業療法学科	1年次	76	11	14.5%	16	21.1%	29	38.2%	31	40.8%
	2年次	60	4	6.7%	10	16.7%	17	28.3%	19	31.7%
	3年次	57	2	3.5%	7	12.3%	12	21.1%	14	24.6%
	4年次	70	0	0.0%	0	0.0%	3	4.3%	3	4.3%
		263	17	6.5%	33	12.5%	61	23.2%	67	25.5%
福) リハ) 言語聴覚療法学科	1年次	55	26	47.3%	29	52.7%	32	58.2%	32	58.2%
	2年次	53	3	5.7%	15	28.3%	23	43.4%	26	49.1%
	3年次	63	1	1.6%	14	22.2%	22	34.9%	23	36.5%
	4年次	68	2	2.9%	14	20.6%	18	26.5%	24	35.3%
		239	32	13.4%	72	30.1%	95	39.7%	105	43.9%
福) リハ) 視能療法学科	1年次	30	6	20.0%	8	26.7%	12	40.0%	14	46.7%
	2年次	46	2	4.3%	12	26.1%	18	39.1%	20	43.5%
	3年次	45	2	4.4%	9	20.0%	18	40.0%	21	46.7%
	4年次	43	1	2.3%	3	7.0%	3	7.0%	5	11.6%
		164	11	6.7%	32	19.5%	51	31.1%	60	36.6%
福) 技術) 臨床検査学科	1年次	71	19	26.8%	36	50.7%	47	66.2%	49	69.0%
	2年次	66	6	9.1%	20	30.3%	33	50.0%	37	56.1%
	3年次	67	3	4.5%	8	11.9%	14	20.9%	21	31.3%
	4年次	75	4	5.3%	17	22.7%	29	38.7%	29	38.7%
		279	32	11.5%	81	29.0%	123	44.1%	136	48.7%

実施期間：2022年8月3日（水）～8月20日（土） ※未回答者への督促計3回

			8月8日		8月9日		8月17日		8月22日 最終結果	
	年次	対象者	回答者	回答率	回答者	回答率	回答者	回答率	回答者	回答率
福) 技術) 診療放射線技術学科	1年次	79	12	15.2%	49	62.0%	64	81.0%	66	83.5%
	2年次	65	11	16.9%	27	41.5%	40	61.5%	42	64.6%
	3年次	53	3	5.7%	10	18.9%	15	28.3%	18	34.0%
	4年次	74	3	4.1%	15	20.3%	21	28.4%	21	28.4%
		271	29	10.7%	101	37.3%	140	51.7%	147	54.2%
福) 技術) 臨床工学科	1年次	72	17	23.6%	41	56.9%	53	73.6%	54	75.0%
	2年次	74	8	10.8%	25	33.8%	41	55.4%	46	62.2%
	3年次	69	3	4.3%	14	20.3%	23	33.3%	24	34.8%
	4年次	91	3	3.3%	13	14.3%	24	26.4%	29	31.9%
		306	31	10.1%	93	30.4%	141	46.1%	153	50.0%
福) 技術) 臨床栄養学科	1年次	35	7	20.0%	10	28.6%	16	45.7%	17	48.6%
	2年次	38	4	10.5%	12	31.6%	15	39.5%	19	50.0%
	3年次	51	3	5.9%	11	21.6%	14	27.5%	15	29.4%
	4年次	51	3	5.9%	7	13.7%	9	17.6%	11	21.6%
		175	17	9.7%	40	22.9%	54	30.9%	62	35.4%
福) 技術) 健康体育学科	1年次	86	21	24.4%	39	45.3%	48	55.8%	49	57.0%
	2年次	57	3	5.3%	4	7.0%	10	17.5%	10	17.5%
	3年次	70	0	0.0%	4	5.7%	12	17.1%	13	18.6%
	4年次	73	3	4.1%	8	11.0%	11	15.1%	11	15.1%
		286	27	9.4%	55	19.2%	81	28.3%	83	29.0%
福) マネ) 医療福祉経営学科	1年次	9	3	33.3%	4	44.4%	6	66.7%	7	77.8%
	2年次	30	2	6.7%	8	26.7%	13	43.3%	15	50.0%
	3年次	26	2	7.7%	6	23.1%	9	34.6%	12	46.2%
	4年次	45	2	4.4%	4	8.9%	8	17.8%	8	17.8%
		110	9	8.2%	22	20.0%	36	32.7%	42	38.2%
福) マネ) 医療情報学科	1年次	23	6	26.1%	9	39.1%	12	52.2%	12	52.2%
	2年次	31	6	19.4%	10	32.3%	16	51.6%	17	54.8%
	3年次	29	3	10.3%	10	34.5%	12	41.4%	14	48.3%
	4年次	31	3	9.7%	8	25.8%	14	45.2%	15	48.4%
		114	18	15.8%	37	32.5%	54	47.4%	58	50.9%
福) マネ) 医療秘書学科	1年次	19	6	31.6%	9	47.4%	9	47.4%	10	52.6%
	2年次	35	7	20.0%	10	28.6%	14	40.0%	17	48.6%
	3年次	33	3	9.1%	9	27.3%	13	39.4%	16	48.5%
	4年次	46	9	19.6%	17	37.0%	20	43.5%	23	50.0%
		133	25	18.8%	45	33.8%	56	42.1%	66	49.6%
福) マネ) 医療福祉デザイン学科	1年次	11	1	9.1%	2	18.2%	3	27.3%	4	36.4%
	2年次	16	2	12.5%	4	25.0%	6	37.5%	6	37.5%
	3年次	25	2	8.0%	2	8.0%	3	12.0%	3	12.0%
	4年次	19	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	3	15.8%
		71	5	7.0%	8	11.3%	13	18.3%	16	22.5%
合 計	1年次	937	215	22.9%	394	42.0%	529	56.5%	558	59.6%
	2年次	1,003	116	11.6%	264	26.3%	387	38.6%	432	43.1%
	3年次	1,042	63	6.0%	182	17.5%	288	27.6%	336	32.2%
	4年次	1,170	77	6.6%	182	15.6%	281	24.0%	318	27.2%
		4,152	471	11.3%	1,022	24.6%	1,485	35.8%	1,644	39.6%



川崎医療福祉大学